

令和 2 年度

上田市社会福祉協議会事業報告

(自) 令和 2 年 4 月 1 日 (至) 令和 3 年 3 月 31 日

社会福祉法人 上田市社会福祉協議会



- 目次 -

令和2年度 総括 1～2

No.	事業名	ページ
1	組織図	3
2	職員構成	4
3	法人運営	5～13
4	善意銀行	14～29
5	企画・広報	30
6	希望の旅事業	31
7	上田市ファミリー・サポート・センター事業	31～33
8	福祉推進事業	33～39
9	点字・声の広報発行事業	39
10	日常生活自立支援事業	40～42
11	地域ふれあい事業	42～45
12	上小圏域成年後見支援センター事業	45～52
13	“まいさぼ上田”上田市生活就労支援センター事業	52～54
14	有償在宅福祉サービス事業	54～58
15	心配ごと相談事業	59～60
16	結婚相談事業	61～62
17	たすけあい資金貸付事業	62～66
18	ボランティア地域活動センター事業	66～77
19	地域子育て支援拠点事業	77～78
20	上田市高齢者福祉センター管理事業	79～81
21	上田市丸子老人福祉センター設置管理事業	81～82
22	上田市真田老人福祉センター管理事業	82～83
23	上田市武石老人福祉センター管理事業	83～84
24	真田ふれあいバス運行事業	84～85
25	在宅介護者リフレッシュ事業	85
26	上田市ふれあい福祉センター管理事業	86
27	上田市真田総合福祉センター管理事業	87～88
28	上田市真田地域活動支援センター管理事業	88
29	上市長瀬市民センター管理事業	88～89
30	共同募金配分金事業	89～97
31	地域包括支援センター事業	97～108
32	通所介護事業	108～113
33	居宅介護支援事業	113～117
34	児童館・児童センター事業	117～126
35	その他の事業	126～130

令和2年度 総括

上田市社会福祉協議会は、地域福祉を推進する中核的な団体として、さまざまな福祉団体や関係機関と連携しながら住民参加による地域福祉活動を展開しています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、さまざまなイベントや集まりが自粛となり、人々の生活や経済に多大な影響を及ぼしました。また、失業や休業等による生活困窮世帯への経済的支援が長期化しています。

このような中、生活困窮世帯を緊急的に支援するために、生活福祉資金（緊急小口資金、総合支援資金）の特例貸付が県社協から要請され、上田市社協においても、連日大勢の相談者が訪れました。また、社協主催のイベントや会議等も中止や縮小開催となりましたが、コロナ禍においてICTの活用や3密対策を取るなどし、新たなつながりの形を模索しながら各種事業を実施してまいりました。

「あったかい 心あふれる 協働のまち」を行動指針に「笑顔 花咲く 上田市社協」を目指し、住民の皆様が誰もが安心して暮らせる社会を目指して、令和2年度の重点施策について取り組んでまいりました。

○ 令和2年度重点施策の実施状況

1 「社協運営の経営基盤強化を図る」

上田市社協においてもICTを活用し、内部会議等をオンラインで行うなどコロナ禍でも適切な事業運営が行えるよう工夫し取り組みました。

国が進める働き方改革の「同一労働同一賃金」の導入に向けた取組として、非正規職員の昇給や各種手当等の見直しを行い、正規職員と非正規職員間の不合理な待遇差の解消を目指し、規程の改正等を行いました。

2 「住民参加と協働による地域福祉活動の推進」

地区社協住民会議が12地区で開催され、延べ494人が参加しました。豊殿地区社会福祉協議会では、コロナ禍で例年どおりの開催が難しい中で、川辺・泉田地区、塩田地区と合同でオンラインによる講演会を実施しました。福祉のまちづくりを目指し住民が主体となってさまざまな問題意識を持ち、地域福祉に関心と理解を深める新たな会議となりました。

住民支え合いマップについては、令和元年東日本台風（台風第19号）の災害を受けて、令和2年度は更新自治会が増えました。自治会の要援護者に対する避難誘導の意識が高まりつつあると感じますが、いかに日常の支え合いにつなげていくかが今後の課題となっています。

住民の善意を必要な方にお届けする善意銀行の一環として、子ども服のリユース事業やマスクの寄附を募り市内の福祉施設等へ届ける活動を行いました。

3 「地域の福祉ニーズに対応できる福祉サービスの推進」

新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、失業、休業等から、生活困窮者への経済的支援が長期化し、緊急かつ一時的な生計維持のための貸付として「緊急小口資金」や、上田市社協独自の「たすけあい資金」、生活に困窮し日常生活の維持が困難な世帯を対象とした「総合支援資金」など、連日大勢の相談者が訪れました。

“まいさぼ上田”においては、「自立相談支援事業」「家計改善支援事業」「就労準備支援事業」の三事業を一体的に結びつけた支援体制づくりに取り組みました。また、離職や就業機会の減少に伴う収入減少があった相談者に対し、「住居確保給付金」の申請や「緊急就労支援事業」を行いました。

4 「ボランティア地域活動センターの充実とボランティア活動及び福祉教育の推進」

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、訪問による傾聴ボランティアの活動が制限されたことから、悩みを抱えている方の相談窓口として、社協職員による傾聴電話を新たに実施しました。

また、施設訪問や直接人と関わるボランティア活動が制限されたため、学生が屋外のごみ拾い活動と切手整理の活動や手紙、作品等を作成し、福祉施設へ届ける「おうちでボランティア」等の間接的に人と関わるができる取組を実施しました。

また、各地区でさまざまなボランティア養成講座を企画し、コロナ禍ではありましたが延べ111人が受講しました。

5 「介護保険事業の見直しと経営改善の推進」

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、感染予防対策を徹底した上で運営を行ってきました。

居宅支援事業所では、利用者のみではなく、その家族の悩みにも寄り添い、相談に乗り利用者及びその家族と信頼関係を築いてきました。日ごろから研修や事業所内外の方々との事例検討など、自己研鑽に努めました。デイサービスセンター事業においては、地域包括支援センターや地域の居宅介護支援事業所などに訪問するなど、顔の見える関係づくりに努め、利用者を紹介いただけるよう営業活動を行いました。

6 「地域で安心して生活できる環境づくりのための子育て支援事業の推進」

保護者の就労等で留守家庭が増えていることから、児童の放課後等の居場所として児童館・児童センターはますます重要度が増えています。新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の期間には、学校の休校措置が取られたため、児童の居場所の確保として午前中から利用できるよう開館時間を延長し、対応しました。館内での密の状態を避けるため、利用できる児童を低学年のみとするなど利用制限を設けたことで、今年度の利用者数に影響し、全体としては減少傾向となりました。

子育てひろばでは、親子の交流の場としてだけではなく、子どもの成長に不安を抱えていた母親に対し、安心して入園できるよう、行政や専門機関へつなげるなど相談機関としての機能も果たしました。

また、上田市ファミリー・サポート・センターでは、出張登録や社協内での子どもの預かりなどにより事業の周知や登録へと結びつけることができました。

7 その他

令和2年度については、新たに「ふくふくひろば (P14 参照)」、「社協傾聴電話 (P68 参照)」、「オータムチャレンジボランティア (P68 参照)」の事業を実施いたしました。

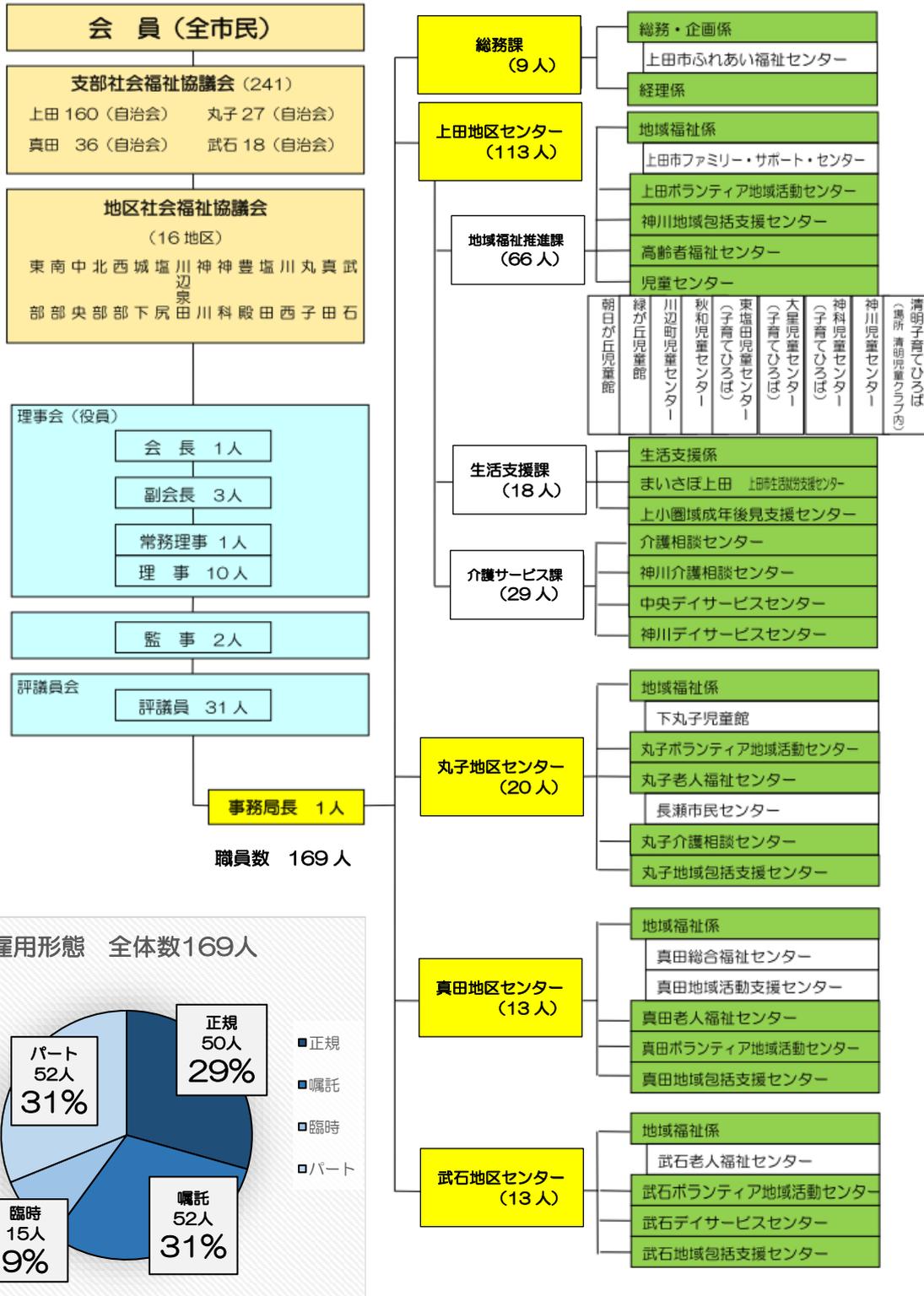
また、「在宅介護者リフレッシュ事業 (P85 参照)」、「真田地域活動支援センター事業 (P88 参照)」、「武石デイサービスセンター事業 (P111 参照)」は、令和3年3月をもって終了となりました。

社会福祉協議会では、新型コロナウイルス感染症拡大の中、創意工夫をしながら各種事業を実施してまいりました。今後も、常に時代が求めるものを見つめ直し、必要とされるものに力を注いで取り組んでまいります。事業成果及び実施過程の課題検証をし、次年度の事業が効果的に実施できるよう活かしたいと思っております。

1 組織図

上田市社会福祉協議会組織図

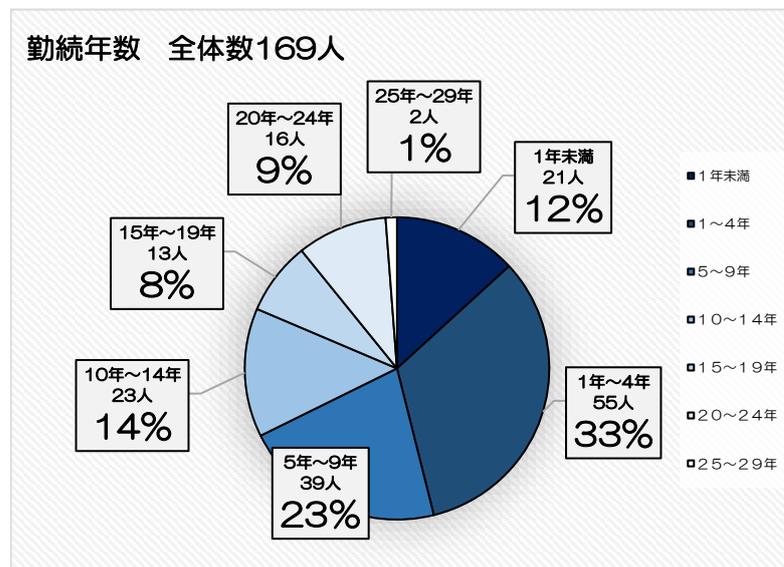
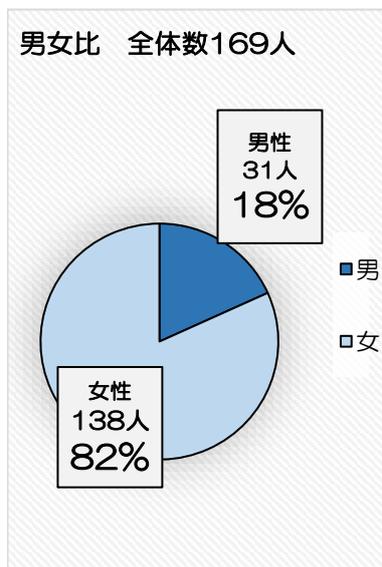
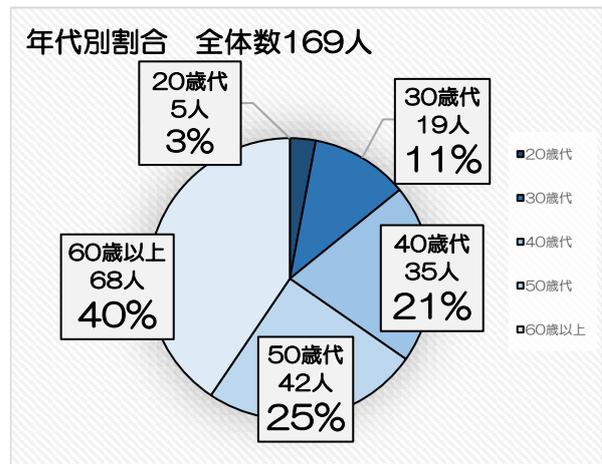
令和3年3月31日現在



2 職員構成 (令和3年3月31日現在)

平均年齢(単位:歳)

	平均年齢
全職員	53.3
正規職員	44.3
非正規職員	56.9



有資格者数(単位:人)

資格種類	人数
社会福祉士	31
精神保健福祉士	7
介護福祉士	32
主任介護支援専門員・介護支援専門員	26
保健師・看護師	10
保育士	36
幼稚園教諭	32
小学校、中学校、高等学校教諭	26

3 法人運営

【令和2年度事業費】 240,674千円

法人運営

事業実績		
(1) 理事会・評議員会		
理事会	第62回理事会 5月19日(火)	【議案内容】 ・理事選出団体の役員改選に伴う理事3人の推薦について ・第38回評議員会の招集について ※ 上記の議案について、書面による決議で行った。
	第63回理事会 6月11日(木)	【議案内容】 ・令和元年度事業報告及び社会福祉事業決算について ・令和2年度社会福祉事業第1次補正予算(案)について ・交代に伴う評議員の推薦について ・第39回評議員会の招集について ※ 上記の議案について、書面による決議で行った。
	第64回理事会 10月6日(火)	【議案内容】 ・交代に伴う評議員候補者の推薦について ・社会福祉事業第2次補正予算について
	第65回理事会 3月17日(水)	【議案内容】 ・令和2年度社会福祉事業第3次補正予算(案)について ・令和3年度事業計画及び資金収支予算(案)について ・任期満了に伴う理事、監事の選出について ・任期満了に伴う評議員の選出について ・任期満了に伴う苦情解決第三者委員の選任について ・定款変更について ・職員就業規則及び正規職員以外の職員就業規則の変更について ・組織規則の変更について ・デイサービスセンター管理運営要綱の変更について ・重要な役割を担う職員の選任について ・交代に伴う理事候補の推薦について ・第40回評議員会の開催について
	第66回理事会 3月30日(火)	【議案内容】 ・常務理事の選定について ※ 上記の議案について、書面による決議で行った。

評議員会	第 38 回評議員会 5 月 27 日(水)	【議案内容】 理事選出団体の役員改選に伴う理事 3 人の推薦について ※ 上記の議案について、書面による決議で行った。
	第 39 回評議員会 6 月 26 日(金)	【議案内容】 ・令和元年度事業報告及び社会福祉事業決算について ・令和 2 年度社会福祉事業第 1 次補正予算(案)について ※ 上記の議案について、書面による決議で行った。
	第 40 回評議員会 3 月 25 日(木)	【議案内容】 ・令和 2 年度社会福祉事業第 2 次補正予算及び第 3 次補正 予算(案)について ・令和 3 年度事業計画及び資金収支予算(案)について ・任期満了に伴う理事、監事の選出について ・定款変更について ・交代に伴う理事の選任について

(2) 会長業務執行状況

月 日	内 容
4 月 1 日	辞令交付式 ※中止
	上田ライオンズクラブ「車いす贈呈」例会 ※再延期
3 日	令和 2 年度長野大学入学式 ※規模縮小のため来賓参加なし
9 日	第 228 回課長会議
10 日	デイサービスセンター検討会
16 日	高齢者学園入学式 ※中止
	南部地区社協定時総会 ※中止
17 日	上田市遺族会役員総会 ※延期
19 日	豊殿地区社協総会 ※中止
20 日	丸子地域高齢者クラブ連合会総会 ※中止
22 日	西部地区社協総会 ※中止
24 日	成年後見支援センター運営委員会 ※中止
25 日	小河滋次郎博士顕彰会定期総会 ※中止
27 日	第 61 回真田地域長寿会総代会 ※中止
	寄附贈呈式(東郷堂)
5 月 8 日	第 229 回課長会議
	市と社協の連絡会 ※延期
15 日	別所清明会長寿園 監査
16 日	神科地区社協総会 ※中止
19 日	地区社協正副会長会 ※延期
22 日	別所清明会長寿園 5 月通常理事会 ※中止
	上田市民生委員・児童委員協議会総会 ※中止

5月	26日	寄附贈呈式（創生ワールド）
	27日	福祉推進委員連絡協議会地区会長会 ※延期
		寄附贈呈式（上田ライオンズクラブ「車いす贈呈」）
		寄附贈呈式（伸和印刷）
	28日	令和元年度事業監査
6月	1日	第230回課長会議
		デイサービスセンター検討会
	2日	正副会長会
	3日	上田地区共同募金会運営委員会 ※中止
	4日	川辺泉田地区社協総会 ※中止
	5日	上田地域福寿クラブ連合会 第36回定期大会 ※中止
	8日	別所清明会長寿園 6月定時評議員会 ※中止
	11日	第63回理事会
	17日	信州上田医療センター地域医療諮問委員会
	23日	上田市遺族会役員総会
	26日	第39回評議員会
	30日	上田市共同募金会運営委員会 ※中止
		城下まちづくり未来会議来訪
7月	1日	武石デイサービスセンター移管・市と合同会議
	6日	寄附贈呈式（第一生命）
	8日	第231回課長会議
	20日	正副会長会
	21日	寄附贈呈式（第一生命）
	22日	福祉推進委員全体研修会 ※中止
	27日	ふくふくひろば開所式
	30日	広報社協うえだ検討会議
8月	3日	新規・中途採用職員研修会
	4日	第232回課長会議
	12日	市理事者と社協役職員との懇談会
10月	1日	広報社協うえだ検討会議
	2日	塩尻地区社協住民会議
	3日	第42回うえだ市民ふれあい広場 ※中止
	6日	第64回理事会
		第233回課長会議
	14日	上田市総合計画審議会福祉健康部会
	15日	南部地区社協住民会議
	17日	第10.5回地域まめったい“プレ”サミット in 豊殿

10月	20日	第1回上田市特別職報酬等審議会
	23日	コロナ禍をみんなで乗り越えるための共同宣言 西部地区社協住民会議
	26日	第14回上田市社会福祉大会
	29日	上田市人権尊重のまちづくり審議会
11月	3日	信州ふっころフェスティバル2020（オンライン開催）
	4日	第234回課長会議
	5日	上田市総合計画審議会全体会
	10日	令和2年度上田市戦没者追悼式
	13日	東部地区社協住民会議
	17日	城下地区社協研修会
	18日	令和2年度 上田市功労者表彰式
	24日	丸山顧問打ち合わせ 北部地区社協住民会議
	25日	中央地区社協住民会議
	26日	令和2年度地区社協正副会長会議 ※中止
	30日	広報社協うえだ検討会議
12月	2日	第235回課長会議（オンライン会議）
	7日	寄附贈呈式（長野県理容生活衛生同業組合上小支部）
	8日	寄附贈呈式（「小さな親切」運動 上田支部）
	11日	中間決算報告会
	15日	福祉推進委員連絡協議会 地区会長会 ※中止
	16日	寄附贈呈式（上田市立第二中学校） 信州上田医療センター地域医療諮問委員会
	18日	長野大学来訪・長野県社会福祉協議会来訪
	19日	丸山顧問打ち合わせ
	28日	仕事納めの式
1月	4日	仕事始めの式 新年挨拶回り
	5日	寄附贈呈式（上田西ロータリークラブ）、年始来訪者対応
	6日	上田商工会議所新春賀詞交換会、年始来訪者対応
	8日	第236回課長会議（オンライン会議） 依田窪福社会渡辺理事長来訪
	9日	一般社団法人上田青年会議所 2021年度新年式典
	14日	社会福祉協議会トップセミナー（オンライン開催）
	16日	うえだこども食堂（まるこ福社会共催）

1月	18日	丸山顧問打ち合わせ
		上田地域定住自立圏共生ビジョン懇談会 ※中止
	21日	職員採用面接試験
	27日	神科地区自治会連合会来訪
	29日	広報社協うえだ検討会議
2月	1日	福祉推進委員委嘱式
	5日	第237回課長会議（オンライン会議）
	22日	寄附贈呈式（さくら国際高等学校）
	24日	丸山顧問打ち合わせ
3月	2日	別所長寿園理事会
		上田ライオンズクラブ例会（車いす贈呈）
	4日	第238回課長会議（オンライン会議）
	11日	高齢者学園卒業式
	12日	第56回正副会長会
	15日	武石デイサービスセンター 依田窪福祉会へ引継ぎ
	17日	第65回理事会
		信州上田医療センター医療諮問委員会
	23日	別所長寿園評議員会
	25日	第40回評議員会
	29日	武石地域総合センター開所式
社協武石地区センターであいさつ		
31日	退職職員辞令交付式	

※ その他内部用務

事業運営指導、渉外業務、事務処理 等

(3) 関係機関との懇談会

8月12日(水) 上田市理事者との懇談会

8月17日(月) 上田市議会総務文教委員会との懇談会

8月18日(火) 上田市議会厚生委員会との懇談会

(4) 表彰審査委員会

8月25日(火) 第14回上田市社会福祉協議会 表彰審査委員会

(5) 苦情解決第三者委員会

新型コロナウイルス感染症予防の観点から、書面による報告を行った。

令和元年度苦情状況：苦情件数 16件 ヒヤリハット 30件 意見要望 2件

(6) ブロック会議

7月29日(水) 上小ブロック社協連絡会議

(7) 福祉人材の育成

長野大学 社会福祉士実習生受入れ 4人

信州上田医療センター附属看護学校 看護師実習生受入れ 21人

社協会費

【事業概要】

社協の会員制度は、市民一人ひとりが福祉に関心を持ち、積極的に地域の福祉活動に参加していただくことを目的としている。

会員になることが、福祉活動に参加することと同じ意味を持っており、財政的な面だけでなく、地域福祉を支える大きな力になる。地域福祉の主役である市民と、それを推進する社協が一体となり、福祉のまちづくりを行うために欠かせない仕組みとして、会員会費制を取り入れている。

事業実績			
全市民の会員会費制による社協会費は、貴重な財源であり、広く地域福祉活動に活用した。			
(1) 社協会費納入実績・推移 (単位：円)			
	平成30年度 (平成31年3月31日現在)	令和元年度 (令和2年3月31日現在)	令和2年度 (令和3年3月31日現在)
普通会費	23,595,322	23,463,740	23,468,351
特別会費	1,849,000	1,661,000	1,631,000
法人会費	2,578,000	2,533,000	2,311,000
団体会費	182,000	176,000	167,000
合 計	28,204,322	27,833,740	27,577,351

普通会費(単位：円)

年度	金額
平成30年度	23,595,322
令和元年度	23,463,740
令和2年度	23,468,351

特別会費(単位：円)

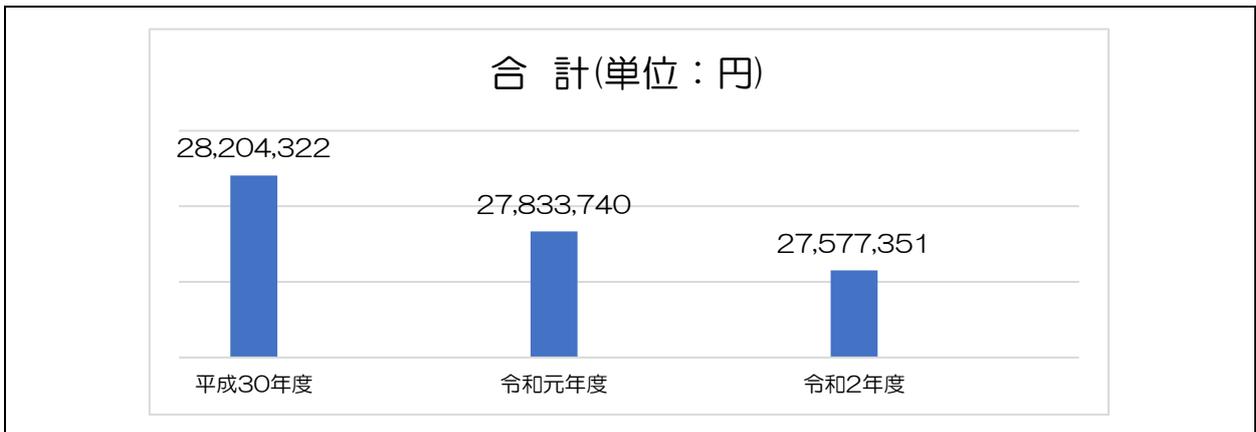
年度	金額
平成30年度	1,849,000
令和元年度	1,661,000
令和2年度	1,631,000

法人会費(単位：円)

年度	金額
平成30年度	2,578,000
令和元年度	2,533,000
令和2年度	2,311,000

団体会費(単位：円)

年度	金額
平成30年度	182,000
令和元年度	176,000
令和2年度	167,000



評価・課題

新型コロナウイルス感染症予防の観点から、納入時期を例年より 1 か月遅らせて実施した。時期の変更に伴う大きな影響はみられていない。

普通会費、特別会費、団体会費については、昨年と同程度の納入があり、大きな減少は見られなかった。法人会費については、コロナ禍の影響から令和 2 年度は協力が難しいという法人があり、令和元年度よりも減額になった。新規法人会員への依頼や社協の PR も含め、さまざまな団体に会費の周知を行う必要がある。

普通会費においては、経年推移をみると大きな変動はなく、一定の水準は保っているといえる。ただ、この水準を維持していくことはとても難しく、今後も、より多くの社協の事業を紹介する機会を設け、広く PR をしていくよう努めていく。

社会福祉大会

【事業概要】

市内の社会福祉功労者や優良団体の表彰と、その時代の福祉情勢に応じた課題に対し、毎年講演会を開催している。自治会長や民生委員・児童委員、福祉推進委員や市民などが来場され、毎年盛大に行われている。また、長野県社会福祉大会には、理事、監事、評議員が参加している。

事業実績	
(1) 上田市社会福祉大会	
	コロナ禍のため、式典と記念演奏会の縮小開催で行った。
	10月26日(月) サントミュージゼ小ホール 参加者 約70人
ア 内 容	
(ア) 式 典 …	表彰者 39人、8団体 感謝状 4人、4団体
(イ) 記念演奏会	
U 演奏家協会	
ヴァイオリン・ヴィオラ	田中 美恵子 氏
ピアノ	宮入 柚子 氏

(2) 長野県社会福祉大会 ※ 信州ふっころフェスティバルと併催

11月3日(火) オンライン開催

ア 内容

(ア) トークセッション、表彰、シンポジウム、信州共生みらいアイデアコンテスト
2020、長野県介護技術コンテスト

(イ) 表彰者(上田市のみ)

・長野県社会福祉協議会会長表彰

(ボランティア団体表彰)：大福会

・長野県民生委員児童委員協議会連合会会長表彰

(永年勤続民生委員児童委員表彰)：田玉美代子、永田京子、上野和利、樋村正弘、
山口三千夫、大久保文雄、北沢武、小宮山好豊、
佐藤暁、山本進、倉沢仁子

評価・課題

上田市社会福祉大会では、市内の社会福祉功労者や優良団体の表彰とその時代の福祉情勢に応じた課題に対し毎年講演を開催しているが、令和2年度は、コロナ禍のため、式典と記念演奏会の縮小開催で行った。

課題としては、令和3年度についても、引き続きコロナ禍での開催を検討する必要があることと、表彰者を、より広い団体から推薦していただく工夫を考えていく必要がある。

人材育成

【事業概要】

専門性を高めるとともに視野を広げ、スキルアップを図るための研修会への積極的な参加を進めている。

事業実績

- | | |
|---------------|---|
| (1) 新理事社協施設見学 | 日 時：7月30日(木) 午前9時～正午
参加理事：2人 |
| (2) 新規採用職員研修 | 講 師：櫻井常務理事、事業担当職員(17人)
日 時：8月3日(月) 午後1時30分～午後4時30分
会 場：上田市ふれあい福祉センター2階 大会議室
参加人数：新規採用職員(令和元年中途採用職員を含む)
合計17人 |
| (3) 接遇研修 | 講 師：洋服の青山 上田住吉支店
店長 濱村 建治氏 副店長 二木 真一氏
日 時：9月24日(木)、9月30日(水)
午後1時30分～午後3時30分
会 場：上田市ふれあい福祉センター 2階 大会議室
丸子ふれあいステーション3階 会議室 |

参加人数：合計 33 人

(4) 担当業務に関する外部での研修については、必要に応じて個々に参加した。

評価・課題

新規採用職員に向けた研修では、社協事業について、それぞれの事業担当から説明をしてもらう形を取り、説明者においても相手に分かりやすく伝える訓練として双方の研修となった。

多様な職種が混在する社協では、外部における専門性の高い研修を多く取り入れ、スキルアップを図った。課題として社協職員としての意識改革が求められており、今後、職員が参加しやすい開催時期、開催時間など検討を重ね、職員全員を対象に取り組んでいきたい。

出前講座

【事業概要】

依頼に基づき、社協職員が、自治会、企業、団体等に出向き、各種講座を無料で行っている。

事業実績

次の自治会や団体等から依頼があり、社協職員が講師として出向いた。

講座名	回数	主催者
上田市社会福祉協議会の組織と仕事	1回	川西まちづくり委員会 健康福祉部会
いきいき体操	5回	中之条自治会、たんぼぼの会(2回)、 上田市連合婦人会(2回)
家庭介護のポイント	1回	上常田自治会、久保林自治会、 岩下福祉協議会、木町自治会、

合計 7回実施

評価・課題

令和元年度の実績 36 件に対し、令和 2 年度は 7 件の依頼があった。令和 2 年度は、コロナ禍のため、地域の集まりが制限され、出前講座の依頼も減少した。

出前講座は、社協職員が、地域の人たちとの交流が持てる良いきっかけとなっている。令和 3 年度は内容を見直し、参加型の講座やコロナ禍において取り組める講座等、内容を充実させたい。

4 善意銀行

【令和2年度事業費】 35,544千円

ふくふくひろば

【事業概要】

「まだ着られる服を捨ててしまうのはもったいない」「必要としている方に届けてほしい」そんな声を受けて、ふく(服)とふく(福)がつながって、皆さまが笑顔になれるお手伝いができたらと考え、令和2年7月27日(月)から子ども服の無料リユース事業を上田市ふれあい福祉センターに新たに設けた。

・開設時間 月曜日～金曜日 午前9時から午後5時まで

事業実績		
(1) 頒布会の開催		
日 時：令和2年7月27日(月) 午前10時～正午		
来場者数：22組33人		
持ち帰り点数：149点		
(2) 実績(令和2年7月27日～令和3年3月31日)		
寄附点数(単位：点)	持ち帰り点数(単位：点)	利用者数(単位：組)
4,108	3,202	456
評価・課題		
7月27日の事業開始から、多くの方が利用されている。		
課題としては、平日に働いている方が利用したくても利用できないという問い合わせがあったので、令和3年度は、休日開催を検討していく。		
また、さまざまな世帯が利用できるようにメディアや社協うえだ等を活用し周知するほか、市内関係機関への掲示やチラシ配布の依頼等を検討し、行っていく。		

善意銀行

【事業概要】

市民の皆様や企業・団体から寄せられた金品を必要とされている方や学校、施設等へ受け渡す「橋渡し」を行っている。

事業実績			
善意銀行			
個人、団体、法人等の皆さまから多くの金品を御寄附いただき、社会福祉活動に役立たせていただいた。			
(1) 金銭寄附			(敬称略)
月 日	金 銭(円)	氏 名	備 考
4月24日	950,000	匿名	
5月12日	697	匿名	
5月22日	7,200	寿徳堂秋和鍼灸整骨院	
6月2日	7,000	匿名	
6月5日	200,000	朝倉 万幸	
6月2日	100,000	樋沢 こう	
6月9日	671	匿名	
6月12日	5,000	匿名	
6月17日	100,000	匿名	
6月19日	100,000	匿名	
6月22日	20,000	匿名	
7月6日	80,000	第十二教区曹洞宗青年会	
7月27日	10,000	待井 隆	
7月27日	20,000	山田 由美子	
8月3日	30,634,110	匿名	
8月17日	11,161	ビューティーサロンさつき	
8月31日	1,000	匿名	
10月2日	365	匿名	丸子地区へ
11月5日	5,000	児玉 篤人	
10月23日	8,606	匿名	
11月26日	35,000	匿名	
12月7日	35,000	長野県理容生活衛生同業組合 上小支部	
12月7日	5,389	匿名	
12月7日	50,000	陽泰寺仏教婦人会	
12月9日	50,000	赤十字奉仕団下之条分団	
12月21日	42,939	柳澤 政次	

12月22日	15,000	上田友の会	
1月5日	37,000	上田西ロータリークラブ	
2月4日	3,000	匿名	丸子地域へ
2月17日	1,000,000	匿名	
2月22日	15,000	さくら国際高等学校チャリティ部	
3月4日	20,000	山浦 道幸	丸子地域へ
3月15日	1,000,000	匿名	
3月17日	13,927	シニア大学 35期卒業 えにしの会一同	
3月26日	1,902	匿名	
3月29日	1,215	中丸子 61班	
3月31日	15	匿名	

(2) 物品寄附

(敬称略)

月 日	物 品	氏 名	備 考
4月1日	マスク 100枚	美ヶ原燃料(有)	
4月2日	使用済み切手	上田間税会	
4月3日	(1) 未使用年賀はがき 52円21枚 50円5枚 (2) 使用済み切手	かがやき 21	
4月9日	マスク 1,250枚	豊田 今朝明	
4月9日	布団 11組	匿名	
4月10日	使用済み切手	別所郵便局	
4月15日	(1) 未使用年賀はがき 52円18枚 (2) 未使用切手 50円3枚 80円3枚	新田長生会サロンこすもす	指定寄附/ ボランティア地 域活動センター へ
4月17日	(1) 消毒液 36ℓ (イソプロパノール)	豊田 今朝明	
4月23日	(1) 手作り紙マスク 15枚 (2) タオル 24枚 (3) 使用済み切手	幸福の科学 上田支部	
4月24日	使用済み切手	塩田郵便局	
4月27日	手作りマスク 163枚	(宗)世界平和統一家庭連合	

		上田家庭教会	
4月27日	マスク 1,000 枚	東郷堂	
4月27日	(1) 手作りマスク 91 枚 (2) ガーゼマスク 23 枚 (3) ビニール手袋 100 枚 (4) 携帯用つまようじ 17 個	上田西高等学校 JRC 部	
4月30日	使い捨てマスク 500 枚	(名)丸源	
4月30日	使い捨てマスク 100 枚	匿名	
4月30日	(1) 飲料9本 (2) 菓子3個 (3) インスタントラ ーメン10食	からだ元気治療院上田店	
5月7日	飴 600 袋	匿名	
5月8日	マスク 3,350 枚	知足堂	
5月18日	マスク 41 枚	匿名	
5月19日	マスク 150 枚	(宗)世界平和統一家庭連合 上田家庭教会	
5月21日	飴 50 袋	NPO 法人 エリスン	
5月22日	座布団 17 枚	久野 まさい	
5月26日	飴 120 袋	NPO 法人 エリスン	
5月26日	マスク 2,400 枚	創生ワールド(株)	
5月26日	飲料4本 菓子3個 インスタントラ ーメン 10食	からだ元気治療院上田店	
5月27日	車いす 1 台	上田ライオンズクラブ	
5月27日	端紙	(有)伸和印刷	
5月27日	尿取りパッド 8 袋	匿名	
5月28日	(1) マスク 125 枚 (2) リボン 15 個	NPO 法人 健康サポートまごの手	
6月3日	ガーゼマスク 6 枚	匿名	
6月3日	手作りマスク 15 枚	匿名	
6月3日	(1) 使い捨てマスク 525 枚	アトリエめろん	

	(2) 手作りマスク 18枚 (3) ガーゼマスク 2枚		
6月4日	コピー用紙2,200枚	匿名	
6月8日	(1) ツナ缶48缶 (2) カップ麺24個 (3) のど飴5箱	大熊 英徳	
6月8日	フェイスシールド 100枚	第一商工(株)	
6月9日	おむつ1袋	匿名	
6月10日	(1) 未使用切手 62円19枚 (2) 使用済切手 (3) 布マスク	匿名	
6月12日	福祉体験用資料	丸山 勝正	
6月16日	食料品20点	八十二銀行神科支店	
6月18日	手作りマスク23枚	(有)新妻モータース	
6月18日	使用済み切手	国際ソロプチミスト上田	
6月19日	衣類、タオル104点	匿名	
6月22日	(1) ハンドソープ 1本 (2) ビニール手袋 3個 (3) 使い捨てマスク 30枚 (4) 布マスク1枚	匿名	
6月22日	手作り布マスク30枚	匿名	
6月22日	手作りマスク (子ども用)50枚	匿名	
6月23日	寝巻8着	匿名	
6月24日	(1) 布マスク29枚 (2) 使い捨てマスク 9枚	おいでよ上田	
6月24日	使用済み切手	豊殿まちづくり協議会	
6月24日	(1) 食品1点 (2) 布団カバー2点 (3) 衣類4点	幸福の科学 上田支部	

	(4) アクリルたわし 3個 (5) 紙マスク 20枚 (6) テレホンカード 4枚 (7) 使用済み切手		
6月25日	使用済み切手	匿名	
6月26日	カーペット4枚	山邊 忠廣	
6月26日	介護用ベッド1台	匿名	
6月26日	児童書・絵本・コミック 139冊	㈱バリューブックス	
6月27日	座いす1個	匿名	
6月29日	飲料6点 菓子7点 ラーメン5食	からだ元気治療院上田店	
6月29日	手作りマスク20枚	匿名	
6月29日	衣類6点	匿名	
7月2日	(1) タオルセット 1個 (2) シーツ、掛布団 各1枚 (3) 洗剤5個 (4) 固形石鹼3個 (5) 未使用切手 (6) 84円30枚 (7) 80円7枚 (8) 未使用はがき 40円2枚 41円11枚 50円1枚 52円3枚 (9) 書き損じ年賀はがき 50円3枚	匿名	
7月6日	(1) 車いす1台 (2) タオル130枚	第一生命(株) 上田第二営業オフィス	
7月7日	(1) フェイスシールド 2枚 (2) ウエットティッシュ	匿名	

	6袋 (3) ハンドソープ 3袋 (2) マスク 152枚		
7月8日	マスク 317枚	小泉自治会	
7月8日	手作りマスク 31枚	柳沢 久美子	
7月10日	お米 10kg	匿名	
7月13日	(1) 未使用はがき 52円 10枚 62円 35枚 (2) 未使用切手 50円 42枚 60円 3枚 70円 1枚 80円 263枚 90円 3枚 110円 2枚 130円 2枚	匿名	
7月15日	未使用年賀はがき 20円 55枚 50円 53枚 52円 11枚	匿名	
7月19日	じゃがいも 100kg	美し信州建設(株)	指定寄附/ おけまる食堂、 みんなの居場所しお じりこどもカフェ、 ひなたぼっこ、 みんなのしおだ食堂へ
7月20日	福祉体験用資料	丸山 勝正	
7月21日	ディズニーグッズ 100点	第一生命(株) 上田営業オフィス	指定寄附/原峠 保養園へ
7月22日	アクリルたわし 50個	柳沢 禮子	
7月27日	血圧計 1個	待井 隆	
7月28日	衣類 16点	匿名	
7月30日	書籍 60冊	(株)バリューブックス	指定寄附/神川 児童センターへ
7月30日	(1) 飲料 6本	からだ元気治療院上田店	

	(2) 菓子 5 個 (3) 食品 1 点		
7 月 30 日	年賀はがき 50 円 8 枚	新田長生会サロンこすもす	
7 月 30 日	布マスク 大人用 100 枚 子ども用 10 枚	匿名	
7 月 30 日	(1) マスク 17 枚 (2) 使い捨てマスク 7 枚	匿名	
8 月 4 日	手作りマスク 100 枚	Chi-ku 竹庵	指定寄附／武石 デイ、社協へ
8 月 7 日	マスク 100 枚	匿名	指定寄附／丸子 地区センターへ
8 月 11 日	(1) ガーゼマスク 191 枚 (2) 使い捨てマスク 46 枚 (3) 布マスク 3 枚	上田西高等学校 JRC 部	
8 月 12 日	ギフトカード 2 万円分	匿名	指定寄附／ 成年後見支援セ ンターへ
8 月 14 日	(1) 紙おむつ 10 袋 (2) 尿取りパッド 6 袋	匿名	
8 月 17 日	(1) 未使用切手 50 円 12 枚 60 円 4 枚 62 円 43 枚 80 円 51 枚 82 円 19 枚 90 円 5 枚 (2) 未使用はがき 62 円 43 枚 63 円 123 枚 (3) 書き損じはがき 62 円 9 枚 63 円 9 枚	ビューティーサロンさつき	

8月17日	使用済み切手	匿名	
8月24日	車いす1台	匿名	
8月26日	(1) クイックルワイパー本体・付け替え各1個 (2) 未使用切手 2円1枚 8円1枚 10円4枚 20円12枚 50円2枚 75円1枚 (3) 未使用はがき 7円23枚 10円15枚 20円17枚 21円19枚 40円35枚 43円22枚 44円1枚 (3) 書き損じはがき 40円2枚 (4) テレホンカード 11枚 (5) 使用済み切手 (6) タオル4枚	幸福の科学 上田支部	
8月27日	(1) 飲料6本 (2) 菓子5個	からだ元気治療院上田店	
8月31日	端紙	(有)伸和印刷	
9月2日	衣類 73箱	匿名	
9月7日	マスク 500枚	上田市立第二中学校 生徒会	
9月9日	おむつ4袋	匿名	
9月10日	お米 23.5kg	上田市丸子地区赤十字奉仕団	
9月14日	肌着 15点	ビックリ箱の会	
9月16日	使用済み切手	匿名	
9月25日	お米 30kg	匿名	
9月28日	手作りマスク 110枚	武石更生保護女性会	武石保育園へ

9月29日	(1) 飲料6本 (2) 菓子4個	からだ元気治療院上田店	
9月30日	お米29kg	匿名	
9月30日	(1) マスク210枚 (2) マスクケース 197個 (3) 壁面飾り18枚	上田東高等学校 JRC 班	
10月5日	お米28kg×8袋	匿名	
10月6日	車いす1台	匿名	
10月6日	チャイルドシート2個	匿名	
10月14日	使用済み切手	長瀬郵便局	丸子地区へ
10月20日	使用済み切手	山浦 道幸	丸子地区へ
10月21日	手作りマスク100枚	福澤 梅子	
10月21日	使用済み切手	匿名	丸子地区へ
10月23日	(1) 未使用はがき 50円3枚 40円10枚 (2) 未使用切手 1円1枚 2円4枚 3円1枚 5円13枚 10円31枚 20円3枚 25円1枚 50円4枚 52円3枚 55円1枚 60円1枚 80円12枚 190円2枚 270円1枚	匿名	
10月26日	お米90kg	匿名	
10月29日	使用済み切手	匿名	
10月29日	(1) 飲料3本 (2) 菓子6個	からだ元気治療院上田店	
10月29日	(1) タオルセット 4セット	幸福の科学 上田支部	

	(2) 風呂敷 5 枚 (3) マスク 1 枚 (4) はがき書き損じ 50 円 10 枚 62 円 4 枚 63 円 1 枚 10 円 3 枚 (5) 年賀はがき 63 円 22 枚 62 円 7 枚		
10 月 30 日	使用済み切手	アザレアンさなだデイサービス 利用者一同	
11 月 5 日	毛糸	匿名	
11 月 5 日	お米 10.5 kg	匿名	
11 月 9 日	介護用ベッド 1 台	匿名	
11 月 13 日	お米 30 kg	匿名	
11 月 13 日	雑巾 30 枚	かりがね福祉会アトリエ FUU	
11 月 24 日	お米 100 kg	匿名	
11 月 24 日	一輪車 2 台	匿名	
11 月 25 日	使用済み切手	匿名	
11 月 30 日	(1) 飲料 4 本 (2) 菓子 5 個	からだ元気治療院上田店	
12 月 2 日	未使用年賀はがき 63 円 21 枚	新田長生会サロンこすもす	ボランティア地域 活動センターへ
12 月 2 日	お米 30 kg	匿名	
12 月 2 日	使用済み切手	上塩尻郵便局	
12 月 7 日	(1) タオル 60 枚 (2) 雑巾 4 枚	長野県理容生活衛生同業組合 上小支部	
12 月 7 日	日用雑貨等	陽泰寺仏教婦人会	
12 月 8 日	車いす 1 台	「小さな親切」運動上田支部	真田地区センタ ーへ
12 月 8 日	お米 30 kg	匿名	
12 月 9 日	使用済み切手	特定非営利活動法人ぽけっと	
12 月 11 日	お米 100 kg	匿名	
12 月 14 日	(1) 飲料 4 本 (2) 菓子 9 個	からだ元気治療院上田店	
12 月 15 日	お米 70 kg	匿名	
12 月 16 日	ちぎり絵手紙	上田市立第二中学校 生徒会	

12月17日	(1) 雑巾 194枚 (2) 足ふきマット 4枚	上田地区更生保護女性会 上田支部	
12月22日	手作りマスク 120枚	福澤 梅子	
12月23日	雑巾 37枚	匿名	
12月23日	(1) タオルギフト 3箱 (2) タオル1枚 (3) シーツ1箱 (4) 食器1箱	幸福の科学 上田支部	
12月24日	お米 48kg	匿名	
12月25日	(1) 介護食 118個 (2) 栄養食 14個 (3) トロミ剤 50個 (4) 口腔ケアスポンジ 50個	(故) 箱山 清	
12月28日	(1) 尿取りパッド 12袋 (2) おむつ 22袋	匿名	
1月4日	尿取りパッド 10袋	匿名	
1月7日	介護用ベッド 1台	匿名	
1月8日	(1) 使用済み切手 (2) 使用済みテレ ホンカード	かがやき 21	
1月14日	(1) 書き損じはがき 62円 21枚 (2) 未使用切手 84円 3枚 10円 3枚 1円 3枚 (3) 使用済み切手	匿名	
1月18日	(1) 飲料 5本、 (2) 菓子 7点 (3) 食料品 5点	からだ元気治療院上田店	
1月19日	マスク 200枚	匿名	丸子地域で
1月20日	マスク 30枚	匿名	丸子地域で
1月20日	年賀はがき 63円 23枚	新田長生会サロンこすもす	

1月20日	ファイル200冊	匿名	
1月20日	使用済み切手	小林 朝次	
1月21日	お米120kg	生島足島神社	
1月29日	使用済み切手	匿名	
1月29日	(1) 未使用切手 1円8枚 50円6枚 80円2枚 120円1枚 (2) 未使用はがき 62円20枚 (3) 未使用年賀はがき 63円3枚	匿名	
2月3日	手作りマスク150枚	福澤 梅子	
2月3日	(1) 紙おむつ2袋 (2) おしりふき 11袋 (3) 洗身用ペーパー 3袋 (4) 介護食80個 (5) 介護用品6点	(故) 宮本 宏子	
2月10日	マスク2000枚	匿名	
2月15日	毛糸	匿名	
2月19日	毛糸	匿名	
2月19日	エコバッグ80枚	Chi-ku 竹庵	武石デイへ
2月22日	毛糸	匿名	
2月22日	お米54.5kg	匿名	丸子地域へ
2月22日	(1) バスタオル1枚 (2) タオルケット3枚 (3) 敷きシート1枚 (4) 布団カバー1枚	匿名	丸子地域へ
2月24日	(1) 飲料5本 (2) 菓子6点	からだ元気治療院上田店	
2月26日	(1) 座布団カバー 3箱 (2) こたつ上掛け 4箱	幸福の科学 上田支部	
2月26日	靴下カバー12個	匿名	

2月26日	使用済み切手	原町郵便局	
3月1日	紙おむつ9袋	匿名	
3月2日	車いす1台	上田ライオンズクラブ	
3月3日	毛糸	匿名	丸子地域へ
3月4日	使用済み切手	匿名	
3月4日	使用済み切手	匿名	
3月4日	使用済み切手	信濃国分郵便局	
3月4日	(1) 毛糸 (2) 未使用切手 2円3枚 15円15枚 25円5枚 30円1枚 50円10枚 52円1枚 62円1枚 82円2枚 84円10枚 92円1枚 (3) 使用済み切手 (4) 未使用はがき 5円3枚 52円8枚 63円5枚 (5) 収入印紙 200円1枚	山浦 道幸	丸子地域へ
3月5日	(1) 使用済み切手 (2) 未使用切手 82円15枚 (3) 未使用往復はがき 100円35枚 124円1枚 (4) 未使用はがき 50円14枚 (5) 未使用年賀はがき 50円10枚 52円19枚 63円36枚	上田市赤十字奉仕団	

	(6) 書き損じ年賀はがき 52 円 14 枚 62 円 24 枚 63 円 19 枚		
3 月 5 日	使用済み切手	東御市 和郵便局	
3 月 5 日	使用済み切手	青木郵便局	
3 月 5 日	使用済み切手	匿名	
3 月 5 日	使用済み切手	匿名	
3 月 5 日	使用済み切手	殿城郵便局	
3 月 5 日	使用済み切手	川辺郵便局	
3 月 5 日	使用済み切手	匿名	
3 月 5 日	使用済み切手	上田新田郵便局	
3 月 5 日	使用済み切手	匿名	
3 月 5 日	使用済み切手	豊里郵便局	
3 月 8 日	下着類 16 点	匿名	
3 月 8 日	(1) 未使用はがき 50 円 36 枚 (2) 使用済み切手	上田市商工会議所 女性会	
3 月 8 日	使用済み切手	匿名	
3 月 8 日	使用済み切手	匿名	
3 月 8 日	使用済み切手	匿名	
3 月 8 日	使用済み切手	塩田郵便局	
3 月 8 日	使用済み切手	匿名	
3 月 8 日	使用済み切手	匿名	
3 月 8 日	マスク 100 枚	匿名	
3 月 8 日	使用済み切手	武石郵便局	
3 月 9 日	使用済み切手	匿名	
3 月 11 日	毛糸	匿名	
3 月 12 日	お菓子 4 点	匿名	
3 月 15 日	マスク 700 枚	セブンイレブン上田古里店	
3 月 25 日	(1) 未使用はがき 41 円 1 枚 62 円 4 枚 (2) 未使用年賀はがき 52 円 2 枚 62 円 4 枚 (3) 未使用切手 52 円 8 枚	匿名	

3月29日	(1) 菓子5点 (2) 飲料4本 (3) 食品2点	からだ元気治療院上田店	
金銭寄附合計 34,586,197円 物品寄附合計(金額換算) 957,750円			
寄附合計		35,543,947円	
評価・課題			
<p>多くの市民から寄附の申出を受け入れることができた。 コロナ禍に伴うマスクの寄附を募り、多く市民からお寄せいただき、福祉施設等に受け渡しをすることができた。</p>			

5 企画・広報

【令和2年度事業費】 2,183千円

【事業概要】

事業や福祉推進に関する調査研究を行うとともに、福祉関係情報の収集及びその広報PRを行っている。

事業実績	
<p>(1) 新たな事業の企画に向けた調査・研究 自治会訪問時に要望の聞き取りや、社協活動の中で出てきた市民からの意見をもとに、社協の特性を活かした出前講座の内容検討や新たな事業の企画等を行った。</p> <p>(2) 「社協うえだ」の発行 社協のPRや福祉に関する情報源として、講座、イベント、各地域で行われている福祉活動の様子などを掲載し、偶数月に市内全世帯をはじめ、学校関係や社協法人会員の皆さまへ配布し、お知らせした。 また、さまざまな人の意見を反映するため、市民で構成する広報委員会を実施し、広報紙に関する内容の検討を行った。</p> <p>(3) 「社協ホームページ」の活用 社協が行う各種福祉サービスをはじめ、ボランティア情報、社協職員募集等、さまざまな情報を発信した。また、ホームページのリニューアルを実施し、市民に分かりやすいページ作りを心がけた。</p> <p>(4) エンディングノート「絆」の販売 窓口での販売をはじめ、市内書店に依頼し、店頭での販売も行った。 ※ 販売数 134冊（うち書店販売数 11冊）</p> <p>(5) レクリエーション備品の貸出し ア 令和2年度実績 輪投げ、的当て、エアボールセット等のレクリエーション備品の貸出しを行っているが、コロナ禍のため、貸出しはなかった。</p>	 <p>エンディングノート「絆」</p>
評価・課題	
<p>広報紙については、市民の声を反映させることを目的として、市民で構成される広報委員会を立ち上げ、広報紙をはじめ、社協の広報活動全般に関して意見をいただいた。今後、より市民に伝わりやすい広報活動に努めていく。</p> <p>ホームページについてはリニューアルを行い、見やすいページ作りを進めている。</p> <p>新たな事業の企画に向けて、調査の方法を検討しながら、ニーズをくみ上げ、社協の事業へとつなげていくよう努める。</p>	

6 希望の旅事業

【令和2年度事業費】 147千円（共募障害児・者）

【事業概要】

日ごろ、旅行をする機会が少ない在宅の重度障がい者の方に、社会交流の場とレクリエーションの機会を作り、その体験を通じて、より生きがいを高めることを目的に一泊二日または、日帰りの旅行を行っている。

事業実績
10月下旬に、松本市浅間温泉を宿泊先とし、新潟方面と南信方面の旅行を計画したが、コロナ禍の影響から事業を中止した。
評価・課題
令和2年度は中止となったが、令和3年度の事業実施に向け、バリアフリーの整った宿泊先を優先して選考したうえで、中止した令和2年度の旅程を基本に計画をしていく。 また、参加者に、より安心安全に旅行を楽しんでいただくため、令和3年度以降に使用する浴室用シャワーチェア2台と非接触式電子温度計1台を購入した。 例年、参加者が固定化されてきているため、更なる周知と新規希望者が増えるような企画が必要である。

7 上田市ファミリー・サポート・センター事業（市受託事業）

【令和2年度事業費】 4,697千円

【事業概要】

子育ての手助けをして欲しい人と、子育てのお手伝いをしたい人が会員として登録し、子育ての相互援助を有償で行う会員組織。日常的な子育てのお手伝いのほか、子育てに関する講習会や会員相互の交流を深めるための交流会等を開催している。

事業実績
(1) 前期講習会 5月21日(木)、22日(金)、25日(月)、26日(火) →コロナ禍のため中止
(2) 後期講習会 10月13日(火)、14日(水)、15日(木)、16日(金) 延べ受講者 75人
(3) 第1回会員交流会 9月3日(木) 内容「コロナに負けない！体組成測定とステイホームでもできる免疫力UP体操」 →コロナ禍のため中止
(4) 第2回会員交流会 11月28日(土) 参加者 17人 内容「女性にやさしい発酵調味料～大鷲美穂さんの料理とおはなし～」

- (5) フォローアップ研修会 2月18日(木) 参加者 24人
内容「里親出前講座～知ってください、里親のこと～」
- (6) 出張登録会 6月下旬、9月下旬、1月下旬
→コロナ禍のため、中止
- (7) 上田市社協（上田市ふれあい福祉センター2階和室、3階訓練室）でのお預かり
- ア 日数 19日間実施
- イ 利用者 延べ23人のお子さん
- ウ 提供会員 延べ19人の提供会員
- エ 時間 72.5時間お預かり



お預かりの様子



会員交流会の様子

別表

(1) 年間事業実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
活動回数(回)	43	15	126	104	83	119	
活動時間(時間)	36	12	115	86.5	74	111	
利用会員数(人)	23	6	20	23	21	20	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
活動回数(回)	145	143	137	113	141	162	1,331
活動時間(時間)	127.5	135.5	152.5	103.5	164.5	187.5	1,305.5
利用会員数(人)	24	27	30	26	26	33	279

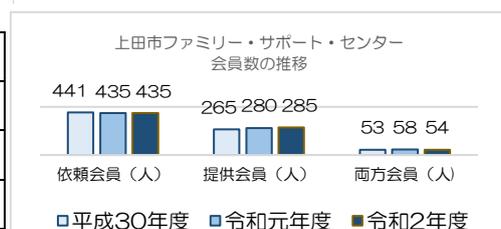
(2) 活動実績の推移

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
活動回数(回)	1,752	1,744	1,331
活動時間(時間)	1,715.0	1,532.5	1,305.5
利用会員数(人)	384	357	279



(3) 会員数の推移

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
依頼会員(人)	441	435	435
提供会員(人)	265	280	285
両方会員(人)	53	58	54



評価・課題

令和元年度から、上田市ふれあい福祉センターでの預かりを始めた。社協うえだ等で広報したこともあり、預かりを希望する依頼会員が増加している。一方、他人の家に子どもを預けることに抵抗を感じる親も多く、上田市ふれあい福祉センターでの預かりを足掛かりに、会員同士、信頼関係を築き、(ファミリー・サポート・センター本来の形である) 提供会員宅でのお預かりにつながっていけるようサポートしていきたい。ただし、空室がない場合、お断りすることもあった。

新型コロナウイルス感染症の関係で学校が休校になり、習い事も休みになったため、4月、5月は依頼のキャンセルが多かった。しかし、コロナ禍であることを理由に、サポートを辞めたいという提供会員はほとんどおらず、依頼があった活動はほぼ全て行えた。

また、不登校のお子さんのサポート依頼(送迎)、問い合わせが多くあり、提供会員を紹介したり、回数が増えた際は、ファミリー・サポート・センターのアドバイザーもサポートに入りながら支援を行った。

入会登録時、子ども連れの入会者も多く、複数の子どもを連れている場合は、2階の和室で子どもを遊ばせながら登録を行った。アドバイザー2人で対応しているが、1人は和室で説明、もう1人は1階と2階を行き来しながら、入会者の事務手続、通常業務を行っている。子どもをすぐそばで遊ばせながら、入会登録ができるスペースが上田市ふれあい福祉センター内にあるとありがたい。

ひとり親世帯からの相談や依頼も多く、毎日の送迎や1日のお預かりとなると利用料金も高額になるため、ひとり親世帯や低所得者に対して、補助制度が創設できないか上田市と協議していきたい。

8 福祉推進事業

【令和2年度事業費】 4,368千円

社協お結びサポーター事業

【事業概要】

住民同士によるふれあい、支え合いの仕組みづくりをお手伝いするために、平成28年度から丸子・真田・武石の3地区をモデル地区として「社協お結びサポーター」を配置した。

現在は、7地区(9人)に配置している。地域の福祉ニーズは何か、どんな福祉サービスが必要かをいっしょに考え、人と人を結ぶ、人と地域を結ぶ、人と機関を結びつけるお手伝いを行う。

事業実績

現在、城下、神科、豊殿、川辺・泉田、丸子、真田、武石の7地区9人のお結びサポーターを配置しており、自治会行事へ訪問しての活動調査や地区福祉推進委員協議会活動への参加等の活動を行っている。

(1) お結びサポーター連絡会議

春・秋 コロナ禍のため中止

- (2) 上田地区センター
 ア 各地区内の自治会への訪問 7自治会
 イ 活動回数 延べ 72回
- (3) 丸子地区センター
 ア 自治会への訪問 コロナ禍のため訪問中止
 イ 活動回数 延べ 16回
 ウ 子育て支援事業への参加 5回
- (4) 真田地区センター
 ア 自治会への訪問 5自治会
 イ 活動回数 延べ7回
- (5) 武石地区センター
 ア 自治会への訪問 コロナ禍のため訪問中止
 イ 活動回数 延べ21回

評価・課題

(1) 上田地区センター

活動としては、各自治会への訪問を中心に、各地区のサロン見学や養成講座への参加、地区福祉推進委員協議会活動などに関わっていただいた。

しかし、コロナ禍のため、多くのサロン活動をはじめ、研修会や講座等が軒並み中止となり、情報交換や活動の場が失われてしまった。そのような中でも、他団体と連携しながら地区広報紙を配布するなど工夫を凝らしてきた。

今後は、福祉推進委員が交代となった自治会へのアドバイスをを行いながら、地区内の福祉推進委員や生活支援コーディネーターと良好な関係を築き、住民自治組織や地区社協と連携して活動を行っていきたい。

(2) 丸子地区センター

主に子育て事業を中心に活動していただいた。今後、福祉推進委員や民生委員・児童委員等との関わりを深め、地域ふれあいの会などでの活動を増やし、地域課題の把握に努めたい。

(3) 真田地区センター

令和2年度はコロナ禍により、いきいきサロン自体が中止になることが多かったため、訪問回数が例年よりも少なかったが、真田地域包括支援センターの生活支援コーディネーターとも連携するなど新たな試みも行った。

(4) 武石地区センター

自治会行事やサロンは、コロナ禍で活動自体が中止となった。そのため、地域のクラブ活動等への訪問を実施した。

今後、更に民生委員・児童委員、福祉推進委員、武石地域包括支援センターの生活支援コーディネーターとも連携を図り、地域ふれあい事業が充実したものとなるよう努めていく。

地区社協住民会議

【事業概要】

地域住民が主体となってさまざまな問題を協議し、住民が相互に地域福祉に関心と理解を深め、福祉のまちづくりを目指すために行うものであり、全 16 地区社協で開催されている。

事業実績	
(1)	東部地区 11 月 13 日(金) 東部地区防災センター 25 人 講演「防災・減災への取組」 講演「住民支え合いマップの更新、活用について」
(2)	南部地区 10 月 15 日(木) 祥園 50 人 講演「上田郷土史」
(3)	中央地区 11 月 25 日(水) 上田市ふれあい福祉センター 21 人 講演「地域内分権と住民自治組織について」
(4)	北部地区 11 月 24 日(火) 魚よし 49 人 講演「地域包括支援センターの業務や取り巻く環境」 「社会福祉協議会について」
(5)	西部地区 10 月 23 日(金) 西部公民館 32 人 講演「みんなのしおだ食堂」
(6)	城下地区 11 月 17 日(火) 城下地区防災センター 14 人 講演「冬に向けての健康管理と薬の使い方」
(7)	塩尻地区 10 月 2 日(金) 塩尻地区公民館 32 人 講演「こども食堂の現状と課題」
(8)	川辺・泉田地区 10 月 17 日(土) 川辺泉田防災センター 44 人 プレ地域まめったいサミット オンライン会議 講演「くらすこと はたらくこと」
(9)	神川地区 コロナ禍のため中止
(10)	神科地区 9 月 13 日(日) 上野が丘公民館 43 人 講演「子どもの人権を守る」
(11)	豊殿地区 10 月 17 日(土) 豊殿地域自治センター 70 人 プレ地域まめったいサミット オンライン会議 講演「くらすこと はたらくこと」
(12)	塩田地区 10 月 17 日(土) 塩田公民館 88 人 プレ地域まめったいサミット オンライン会議 講演「くらすこと はたらくこと」
(15)	川西地区 10 月 15 日(木) 川西公民館 26 人 講演「地域における福祉活動について」
(16)	丸子地区 コロナ禍のため中止
(17)	真田地区 コロナ禍のため中止

(18) 武石地区 コロナ禍のため中止

評価・課題

(1) 上田地区センター

コロナ禍、各地区において3密などの感染防止対策を行いながら住民会議や総会を縮小して開催した。住民会議では、地域福祉や医療に関する講演が主流に行われた。住民会議や総会は、集まった住民同士が地域のことについて話し合う機会であるため、今後はコロナ禍の状況をみながら、グループワークも取り入れていきたい。また、開催に向けての計画段階から地区担当職員も積極的に加わり、活動においても社協お結びサポーターや福祉推進委員と連携していきたい。

(2) 丸子地区センター

令和元年東日本台風（台風第19号）では、丸子地域も内村橋や依田川堤防の一部損壊など台風災害を体験した。大規模地震や台風、局地的なゲリラ豪雨災害等に対応するため、住民が自ら考え行動することが重要となっている。

令和2年度は、「地域の防災について」の研修会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止とした。

今後も「福祉の地域づくり」につながる地域課題について開催していく。

(3) 真田地区センター

令和2年度は、長野県看護協会に講師派遣を依頼し、日常高齢者と接する機会の多い自治会の役員や福祉関係者のコロナ禍における活動の参考にしていただくため「新型コロナウイルス対策」をテーマに研修を予定していたが、上田圏域の感染警戒レベルが「レベル4」（特別警報Ⅰ）となったため中止とした。

今後も「福祉のまちづくり」につながる身近な「課題」をテーマに開催していく。

(4) 武石地区センター

地域住民の興味関心がある健康や地域医療等に関する講演会を予定していたがコロナ禍に伴い中止となった。今後は、ますます地域の自主性や主体性を求められるため、身近な地域課題について開催をしていく。

住民支え合いマップづくり

【事業概要】

地図上に高齢者や障がい者などで支援が必要となる方々、いわゆる「要援護者」や、要援護者を支援する「支援者」、避難所などの地域の資源情報を記載することにより、日ごろの地域での支え合い活動、共助の仕組みづくりに活用するものである。その延長線上に、「いざ」という時の災害時の避難行動等につなげていく。

事業実績			
(1) 住民支え合いマップ作成実施自治会状況			
	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
協定書締結自治会数	1	3	5
完成自治会数	3	3	6
ア 協定書締結自治会数 合計 176 自治会			
イ 住民支え合いマップ完成自治会数 合計 212 自治会			
ウ 住民支え合いマップ更新自治会数 90 自治会			
評価・課題			
住民支え合いマップは、近年の災害増加を背景に伴い、協定を結ぶ自治会が微増した。しかし、更新作業については、前年度に比べ増加したものの、毎年行っている自治会と行っていない自治会との差が出てきている。住民支え合いマップは日常の支え合い活動につながり、それが災害時の支援にもつながってくる。そのため、今後も作成や更新も含め、地域内での支え合い活動と住民支え合いマップを一体的に取り組めるよう促していきたい。			

車いす、特殊寝台貸出事業

【事業概要】

(1) 車いす貸出し事業

介護保険の福祉用具貸与対象外の高齢者、障がい者等が通院、外出等で必要な場合、1 か月を目途に無料で貸し出している。

(2) 特殊寝台貸与事業

介護保険の福祉用具貸与対象外の高齢者、障がい者等が一時的に日常生活を営むことが困難になった場合、3 か月を目途に無料で貸し出している。

事業実績					
(1) 車いす貸出し事業 貸出件数					
地区	上田	丸子	真田	武石	合計
平成 30 年度 (件)	219	63	22	4	308
令和元年度 (件)	246	53	14	1	314
令和 2 年度 (件)	141 (内更新 48)	40	8	1	190
令和 2 年度保有台数 (台)	※55	28	6	3	92
※ 上田地区保有台数 貸出用 34 台・体験用 21 台					

(2) 特殊寝台貸与事業 貸出件数					
地区	上田	丸子	真田	武石	合計
平成30年度(件)	10	2	1	0	13
令和元年度(件)	13	1	0	0	14
令和2年度(件)	12 (内更新8)	3	1	8	24
令和2年度保有台数(台)	3	2	1	2	8

その他(高齢者福祉事業)

事業実績	
(1) 真田地区センター	
ア 独り暮らし高齢者親睦会の開催	
(ア) 役員会1回目 5月28日(木) コロナ禍のため中止	令和元年事業報告・令和2年事業計画案・親睦会会則を役員へ送付
(イ) 親睦会 7月7日(火) コロナ禍のため中止	
(ウ) 役員会2回目 9月 コロナ禍のため中止	代替: 12月3日(木) 地域でつながろう千羽鶴交流会開催 ボランティア連絡協議会と合同開催。独り暮らし高齢者親睦会役員11人参加
(エ) ふれあいの旅 10月29日(木) コロナ禍のため中止	代替: 12月 独り暮らし高齢者親睦会会員でモチーフのひざ掛けを受け取られてない方、35人に配布
(オ) 親睦会 3月5日(金) コロナ禍のため中止	代替: シトラスリボンを役員18人に配布
(2) 武石地区センター	
ア 高齢者サロン事業	高齢者サロン(楽しい会)は、コロナ禍と公民館の改修工事のため休止した。また、4月から介護予防体操を18回開催し、延べ360人が参加者した。
イ 武石地域敬老会事業	武石地域全体で65歳以上の方を対象として、社会への貢献に感謝し長寿を祝い今後の健勝を願って式典と祝宴を計画したが、コロナ禍により中止となった。
評価・課題	
(1) 真田地区センター	
ア 真田地域独り暮らし高齢者親睦会では、コロナ禍のため、予定した計画は中止となったが、役員への働きかけと交流会を、感染防止に細心の注意を払い行うことができ、喜んでいただいた。会員全体への働きかけは、絵手紙の送付とひざ掛け配布を行い、大変喜ばれた。今後、コロナ禍でも、会員の方への働きかけを工夫していきたい。	
(2) 武石地区センター	
武石地域総合センターの竣工に伴い、令和3年度はコロナ禍の中で3密に配慮した利用を予	

定しており、参加者の送迎等、調整が必要となる。

9 点字・声の広報発行事業(市受託事業)

【令和2年度事業費】 273 千円

【事業概要】

広報うえだ・議会だより、社協うえだの内容を点訳やテープへの録音により、視覚障がい者へ情報提供を行う事業

事業実績					
(1) 点字広報					
ア	広報うえだ (月1回発行)	利用者	24人		
イ	議会だより (年6回発行)	利用者	9人		
ウ	社協うえだ (隔月発行)	利用者	24人		
エ	丸子自治センターだより	利用者	8人		
(2) 声の広報					
ア	広報うえだ (月1回発行)	CD利用者	12人	カセット利用者	8人
イ	議会だより (年6回発行)	CD利用者	21人	カセット利用者	9人
ウ	社協うえだ (隔月発行)	CD利用者	14人	カセット利用者	20人
エ	丸子自治センターだより	CD利用者	2人	カセット利用者	9人
評価・課題					
(1) 上田地区センター					
令和2年度は、コロナ禍の影響から、3密を防ぎながらの活動となったが、点訳・音訳ともに、換気や人数制限等工夫をして対応した。課題としては、利用者の増加がみられないので、聞き取り等をして問題点などをきちんと把握し解決していく。また、今後のスキルアップを目指した研修等も計画していく。					
(2) 丸子地区センター					
点訳・音訳ともに利用者に寄り添った情報提供に向け、研修を受け技術向上に尽力している。利用者の高齢化に伴い広報の利用が減少している。事業周知が広がりを見せるにはどのようにしたらよいか課題である。					

10 日常生活自立支援事業(県社協受託事業)

【令和2年度事業費】 3,904千円

【事業概要】

認知症の高齢者や障がい者の方で、判断能力が十分でない方が、住み慣れた地域で安心して生活が送れるよう、福祉サービスの利用などに関わる相談や援助、また日常的な金銭管理のお手伝いをし、自立生活の支援を行う。

事業実績

(1) 日常生活自立支援事業

※ 別表参照

(2) 金銭管理・財産保全サービス

日常生活自立支援事業で補完できるため、廃止の方向で検討している。

ア 契約件数

(ア) 上田地区センター 0件

(イ) 丸子地区センター 0件

(ウ) 真田地区センター 0件

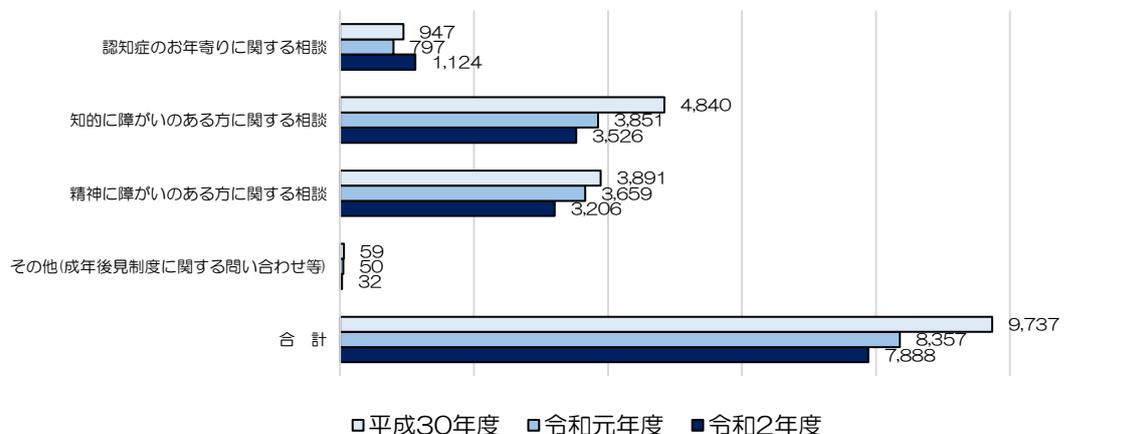
(エ) 武石地区センター 0件

別表

(1) 相談内容(単位：件)

内 容	平成30年度	令和元年度	令和2年度
認知症のお年寄りに関する相談	947	797	1,124
知的に障がいのある方に関する相談	4,840	3,851	3,526
精神に障がいのある方に関する相談	3,891	3,659	3,206
その他(成年後見制度に関する問い合わせ等)	59	50	32
合 計	9,737	8,357	7,888

相談内容(単位：件)

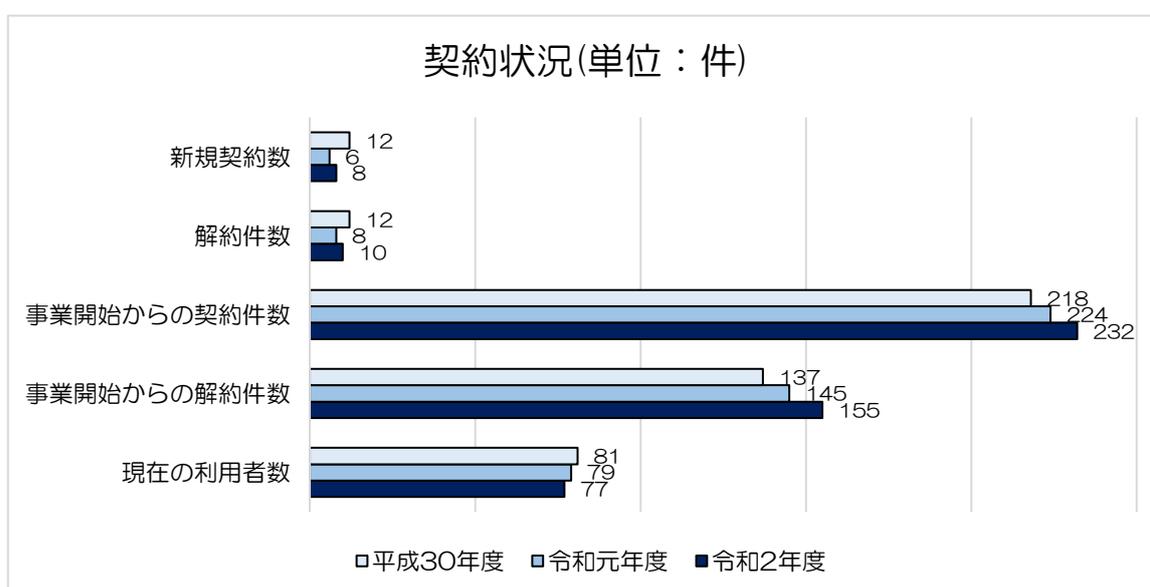


(2) 方法(単位：回)

内 容	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
専門員訪問調査回数	268	269	287
生活支援員援助回数	1,928	1,656	1,643

(3) 契約状況(単位：件)

内 容	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
新規契約数	12	6	8
解約件数	12	8	10
事業開始からの契約件数	218	224	232
事業開始からの解約件数	137	145	155
現在の利用者数	81	79	77



評価・課題

(1) 上田地区センター

福祉サービスの利用と本事業を利用することで、支援希望者が安定した日常生活を送れるように、支援機関と連携し制度利用につなげた。また、コロナ禍において生活が一変したが、契約中の利用者と相談の上、外出を控えながらも、落ち着いた生活を送れるよう支援を行った。

複雑な課題を多く抱えている利用者ほど、支援者が離れて福祉サービスが途切れてしまい、最終的に本事業利用しか残らなく、本来の業務の域を超えないと支援が困難になっている。

(2) 丸子地区センター

親族の関わりが少ないため福祉サービスを利用できていなかった利用者が、本事業を利用することによって日常生活が安定し、支援間のネットワークも広がるといった効果がある一方で、本事業計画後に今まで関わってきた支援者の関わりが薄くなり、社協だけの支援になってしまうケースもある。

(3) 真田地区センター

利用者数は5人。年度内に1人が生活保護に移行した。ある利用者は、多職種連携により介護保険サービス（宅老所・ヘルパー）の利用を開始し、自宅内の清掃や手作りの食事が提供され、施設の畑仕事などの役割ができたことにより、健康に過ごされている。

(4) 武石地区センター

利用者数7人のうち、長和町社協管内が2人。福祉サービスの利用と本事業を利用することで、支援希望者が安定した日常生活を送れるように、他支援機関と定期的な連携会議を設けながら支援を継続している。

1 1 地域ふれあい事業

【令和2年度事業費】 32,846千円

地域ふれあい事業（市補助事業）

【事業概要】

地域のさまざまな人々がお互いに助け合い交流することにより、住民の連帯感を高め、それぞれの地域の特性に応じた福祉サービスを住民参加により自主的に推進し、明るく活力ある福祉社会を創造し、近隣のつながりを補うことを目的として事業を実施している。

この事業は、「ふれあいのまちづくり事業」として平成3年度から平成7年度までの5年間は、国の指定を受けて事業を進めた。指定終了後も、市の補助事業となり、平成15年度からは「敬老行事自治会委託事業」と統合され、名称が「地域ふれあい事業」となり、現在に至っている。

事業実績	
(1) 上田地区センター	(数字は自治会数)
ア 世代間交流に関する事業	…… 31
イ 生きがいづくり事業(茶話会、会食会、健康体操を含む。)	……64
ウ マップ作り・更新	…… 22
エ 広報・啓発活動	…… 8
オ 学習講座	…… 14
カ 訪問活動(配食含む)	……125
キ 敬老会	…… 3
ク ボランティア活動	…… 12
ケ 環境整備事業	…… 38
コ 子育て支援	…… 27
サ その他	…… 19
(2) 丸子地区センター	
ア 世代間交流に関する事業	…… 19

イ	生きがい作り事業	……	17
ウ	マップ作り・更新	……	2
エ	学習講座	……	1
オ	訪問活動	……	20
カ	ボランティア活動	……	5
キ	環境整備事業	……	9
ク	子育て支援事業	……	15
ケ	その他	……	16
(3) 真田地区センター			
ア	世代間交流に関する事業	……	7
イ	生きがいづくり事業(茶話会、会食会、健康体操含む)	……	16
ウ	広報・啓発活動	……	1
エ	学習講座	……	1
オ	訪問活動(配食含む)	……	31
カ	その他	……	20
(4) 武石地区センター			
ア	世代間交流に関する事業	……	12
イ	施設視察・ボランティア	……	0
ウ	生きがいづくり事業	……	1
エ	交流会(児童)	……	2
オ	環境整備	……	4
カ	その他	……	6
評価・課題			
(1) 上田地区センター			
<p>地域ふれあい事業は、福祉推進委員を推進役として、地域の特性に応じたさまざまな活動が行われている。地域ふれあい事業の中では、子どもを巻き込むことにより、三世代の参加も見込め、普段は顔が見えない世代とも顔が見える関係が構築されている。コロナ禍のため室内で行う多くの行事が中止され屋外で行う行事が増えた。また、多くの自治会が敬老会を中止とし、訪問事業に変え高齢者の様子を確認しながらお祝いを行った。このように制限された状況の中、地区担当職員をはじめ社協お結びサポーターと協力しながら、どのような取組方法があるのかを広報紙などで情報発信し、活動に役立てていきたい。</p>			
(2) 丸子地区センター			
<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、例年どおりの事業ができない自治会が多かった。各自治会で地域の特徴を活かした世代間交流や伝統行事の開催はできているが、自治会での活動に多少の差異があり、地域の担い手不足が課題となっている。地域リハビリテーション事業を始めているところも増えてきており、地域の交流活動は多様化しており、助成の対象事業かどうかの線引きが難しくなっている。</p>			

(3) 真田地区センター

コロナ禍により、ほとんどのいきいきサロンや交流会が中止となったが、訪問形式への切り替えや、屋外での体操など、自治会ごとに工夫しながらの活動がみられた。令和3年度以降も各自治会の取組を、お結びサポーターや生活支援コーディネーターを通じて他の自治会に広めていくようにしていく。また、真田地区福祉推進委員・福祉委員の研修会などを通じてサロン内容のヒントにさせていただくなど、地域の活動に役立ててもらえるよう支援していく。

(4) 武石地区センター

例年と同様に、福祉推進委員と自治会関係者・地域住民の協力で計画したがコロナ禍に伴い行事を推進することができなかった。今後は、コロナ禍での行事や参加者の選定について課題となる。

福祉推進委員

【事業概要】

「地域ふれあい事業」の推進役として、福祉推進委員を各自治会から推薦いただき、社協会長が委嘱している。自治会役員、民生委員・児童委員とともに地域の実情に応じたさまざまな福祉活動を行っている。

事業実績	
(1) 福祉推進委員連絡協議会	
5月27日(水)	コロナ禍のため中止
12月16日(水)	コロナ禍のため中止
(2) 福祉推進委員全体研修会	7月22日(水) コロナ禍のため中止
(3) 福祉推進委員講習会	
7月28日(火)	コロナ禍のため中止
8月5日(水)	コロナ禍のため中止
8月6日(木)	コロナ禍のため中止
8月29日(土)	コロナ禍のため中止
評価・課題	
(1) 上田地区センター	
福祉推進委員の全体研修会や講習会が新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止になった中、各地区において他団体と共催して研修会を行ったり、独自に講座を開催しながら学習交流会を行った。その中で、シトラスリボン講座においては、学んだ講座を各自治会に持ち帰り広め、積極的に差別防止の推進役を担った。また、他の自治会の情報を得るためにも、各地区において定例会議を開催し情報共有の場を設け、お結びサポーターと協力して福祉活動を進めていきたい。	
(2) 丸子地区センター	
新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、全体研修会や講習会、丸子地区独自の全	

体学習会が中止になった。地域の担い手が不足し、受け手がいない中で委員を引き受けざるを得ない実態があり、活動できていない委員、自治会もある。

(3) 真田地区センター

令和2年度はコロナ禍により、活動実施の判断や内容の変更などに大変苦勞された1年だったと思われる。実際に社協担当者への問い合わせも例年より多くあり、他の自治会の活動例などの情報を提供した。令和3年度以降も活動についての情報提供を積極的に行っていくたい。

また、3月23日には、例年行っている福祉推進委員福祉委員合同研修会を、規模を縮小し福祉推進委員のみで行い、社協事業説明、地域包括支援センター事業説明、福祉推進委員の活動内容、地域ふれあい事業、住民支え合いマップの説明と、上田市消費生活センターから提供いただいた、特殊詐欺と悪徳商法の現状・対処法についての資料を配布した。

(4) 武石地区センター

地区の研修会として「認知症サポーター養成講座」を開催や地域の交流の場先進地施設の見学はコロナ禍に伴い中止となった。今後は、新型コロナウイルス感染症予防に配慮した地域の活動が課題である。

12 上小圏域成年後見支援センター事業(上田市・東御市・長和町・青木村受託事業)

【令和2年度事業費】 26,508千円

【事業概要】

認知症・精神障がい・知的障がい等により判断能力が十分ではなく、一人では契約、選択、意思決定が困難になった住民が、安心して地域社会で生活し続けられるように成年後見制度の利用促進及び啓発を行っている。

事業実績
(1) 成年後見制度等の普及及び啓発に関すること ア 説明会、相談会 実施回数7回、参加者合計222人
(2) 支援対象者及び関係者からの成年後見制度に関する相談対応 ア 新規相談 88人 イ 継続相談 181人 合計 269人
(3) 成年後見制度の利用促進に関すること ア 市町村長申立件数 (ア) 上田市13件(高齢者11件、障がい者2件) (イ) 長和町1件(障がい者1件) このうち8件については法人後見として受任した。 イ 後見人等の候補者の推薦に関すること 適切な後見人等候補者推薦を行う小委員会を10回開催した。

- (ア) 検討事案数 36 件
- (イ) 依頼先別件数
 - 弁護士会 2 件 (うち複数後見 2 件)
 - 司法書士会 2 件
 - 税理士会 0 件
 - 行政書士会 6 件
 - 社会福祉士会 4 件
 - 法人後見 23 件 (うち複数後見 2 件)
 - 再検討 1 件

ウ 法人後見に関すること

後見報酬が見込めない者や、第三者後見員が引き受けることが困難な者に対して、上田市社会福祉協議会が法人として後見業務を引き受けた。

- (ア) 令和 2 年度新規受任件数 16 件 (平成 25 年度からの累計 79 件)
- (イ) 継続受任件数 62 件

エ 市民後見人の養成、受任の推薦及び監督業務に関すること

- (ア) 市民後見人新規受任 2 人 (累計 5 人)
- (イ) 市民後見人交流会の開催

(4) 後見人等支援に関すること

ア 後見人交流会の開催

日 時：令和 2 年 11 月 13 日 (金)

内 容：家庭裁判所の職員によるプチ講座、交流会

参加人数：13 人

別表

(1) 相談件数及び相談者の状況

ア 相談件数(単位：件)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
新規相談	7	5	6	4	9	9	
継続相談	43	33	51	52	51	51	
相談業務合計	50	38	57	56	60	60	
法人後見業務総件数	684	760	875	875	848	766	
総計	734	798	932	931	908	826	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
新規相談	8	6	4	12	7	11	88
継続相談	67	44	26	46	29	30	523
相談業務合計	75	50	30	58	36	41	611
法人後見業務総件数	750	698	833	776	768	839	9,472
総計	825	748	863	834	804	880	10,083

イ 方法別(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
来所	7	3	6	5	7	6	
電話	35	27	34	40	42	40	
訪問	6	2	12	8	10	10	
ケース会議	2	6	4	3	1	4	
その他	0	0	1	0	0	0	
合計	50	38	57	56	60	60	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
来所	2	6	3	4	2	5	56
電話	55	31	16	40	27	28	415
訪問	14	11	10	12	6	5	106
ケース会議	0	1	1	0	0	3	25
その他	4	1	0	2	1	0	9
合計	75	50	30	58	36	41	611

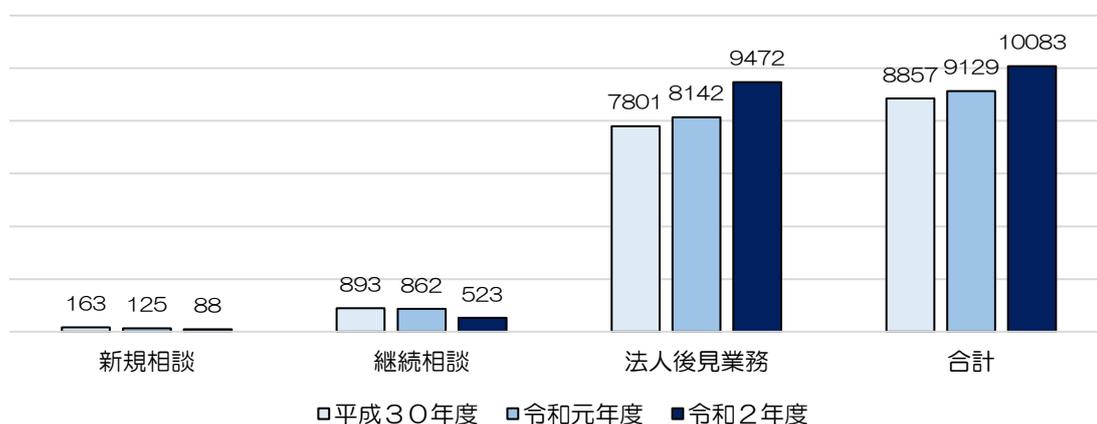
ウ 対象者別(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
認知症高齢者	28	22	23	20	21	24	
知的障がい者	2	3	6	4	9	6	
精神障がい者	11	13	21	24	22	18	
身体障がい者	1	0	0	2	0	5	
複合	0	0	6	3	6	6	
任意後見	0	0	0	1	1	0	
その他	8	0	1	2	1	1	
合計	50	38	57	56	60	60	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
認知症高齢者	36	31	18	21	6	11	261
知的障がい者	9	6	3	4	3	5	60
精神障がい者	19	13	9	25	14	7	196
身体障がい者	0	0	0	0	0	2	10
複合	10	0	0	0	5	6	42
任意後見	1	0	0	0	1	3	7
その他	0	0	0	8	7	7	35
合計	75	50	30	58	36	41	611

エ 相談件数の推移(単位：件)

	新規相談	継続相談	法人後見業務	合計
平成30年度	163	893	7,801	8,857
令和元年度	125	862	8,142	9,129
令和2年度	88	523	9,472	10,083

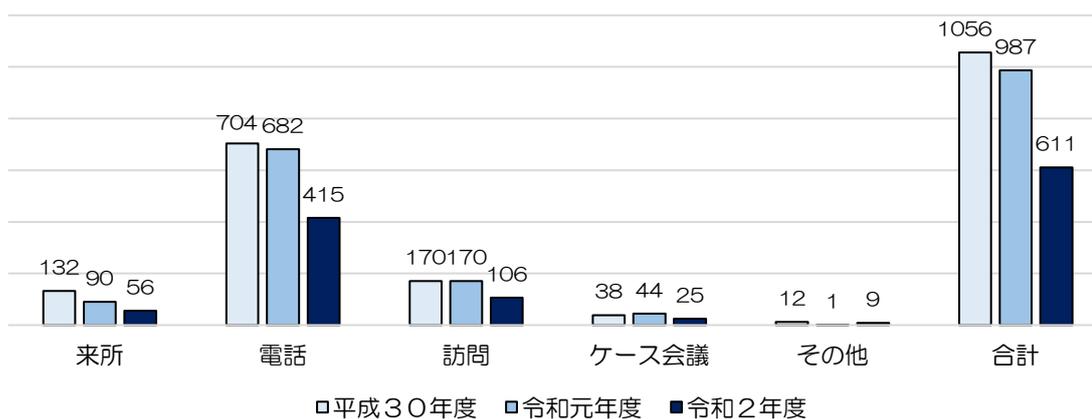
相談件数の推移(単位：件)



オ 方法別の推移(単位：件)

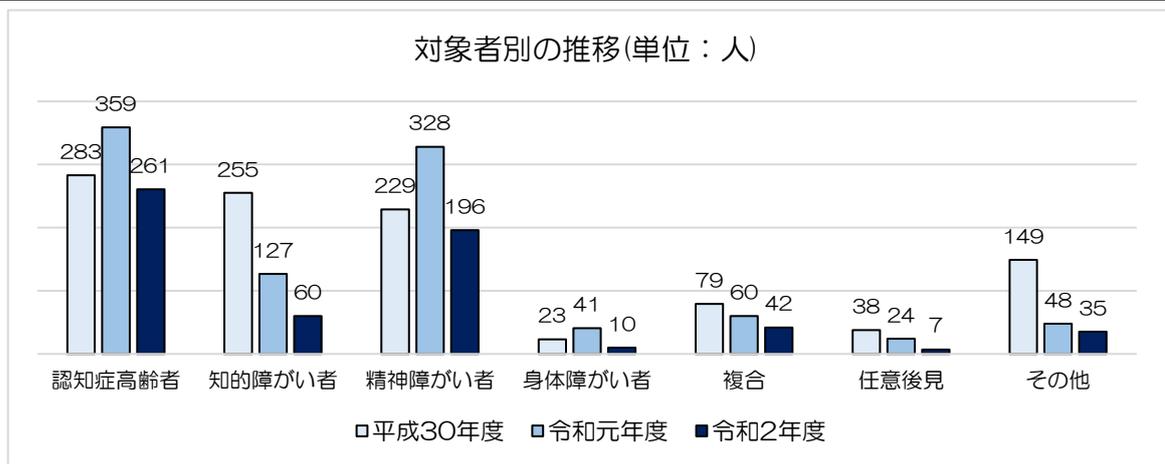
	来所	電話	訪問	ケース会議	その他	合計
平成30年度	132	704	170	38	12	1,056
令和元年度	90	682	170	44	1	987
令和2年度	56	415	106	25	9	611

方法別の推移(単位：件)



カ 対象者別の推移(単位：人)

	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	身体障がい者	複合	任意後見	その他
平成30年度	283	255	229	23	79	38	149
令和元年度	359	127	328	41	60	24	48
令和2年度	261	60	196	10	42	7	35



(2) 法人後見業務 相談件数及び相談者の状況

ア 類型(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
後見	243	264	304	304	291	183	
保佐	441	472	562	564	545	578	
補助	0	24	9	7	12	5	
合計	684	760	875	875	848	766	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
後見	225	217	304	251	298	302	3,186
保佐	515	474	517	518	460	529	6,175
補助	10	7	12	7	10	8	111
合計	750	698	833	776	768	839	9,472

イ 方法別(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
来所	53	50	58	57	53	52	
電話	427	437	505	455	463	426	
訪問	190	232	266	283	275	252	
ケース会議	1	3	10	9	6	5	
その他	13	38	36	71	51	31	
合計	684	760	875	875	848	766	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
来所	49	50	62	86	56	58	684
電話	421	355	435	387	441	461	5,213
訪問	247	257	294	261	246	286	3,089
ケース会議	7	5	9	9	4	9	77
その他	26	31	33	33	21	25	409
合計	750	698	833	776	768	839	9,472

ウ 対象者別(単位：件)

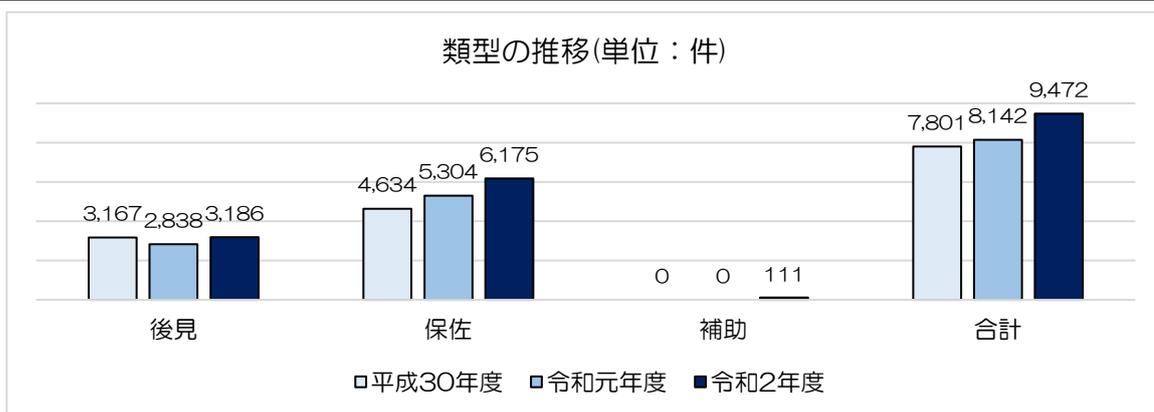
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
認知症高齢者	80	74	112	122	115	49	
知的障がい者	296	337	385	448	395	349	
精神障がい者	172	190	205	154	163	217	
身体障がい者	4	0	0	0	0	0	
複合	117	150	163	133	175	143	
その他	15	9	10	18	0	8	
合計	684	760	875	875	848	766	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
認知症高齢者	73	89	127	116	182	148	1,287
知的障がい者	290	320	408	354	267	301	4,150
精神障がい者	222	160	154	190	193	286	2,306
身体障がい者	0	0	0	0	0	0	4
複合	125	120	137	113	125	103	1,604
その他	40	9	7	3	1	1	121
合計	750	698	833	776	768	839	9,472

エ 市町村別(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
上田市	495	571	672	725	661	614	
東御市	68	84	71	60	74	48	
長和町	121	105	132	90	113	104	
青木村	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	
合計	684	760	875	875	848	766	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
上田市	589	591	678	613	565	656	7,430
東御市	42	41	77	57	102	41	765
長和町	119	66	78	106	101	142	1,277
青木村	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	750	698	833	776	768	839	9,472

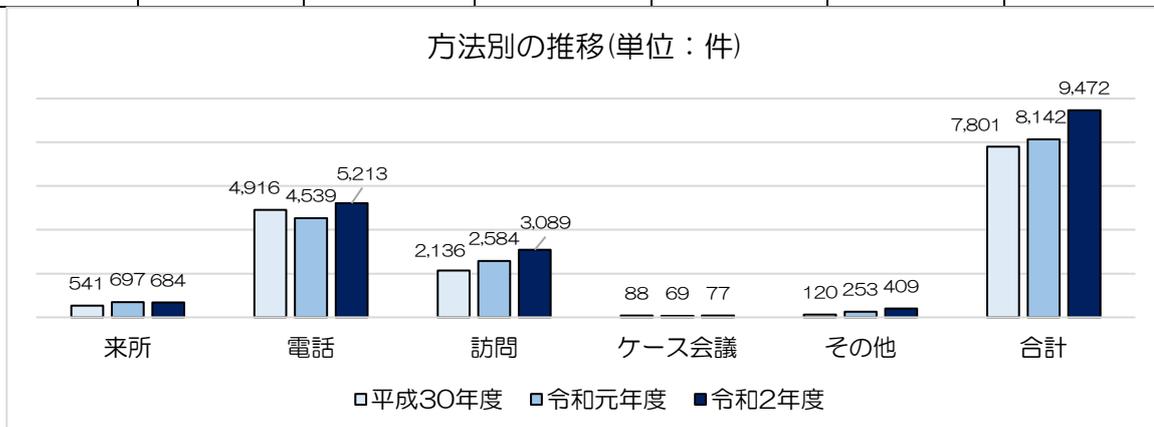
オ 類型の推移(単位：件)

	後見	保佐	補助	合計
平成30年度	3,167	4,634	0	7,801
令和元年度	2,838	5,304	0	8,142
令和2年度	3,186	6,175	111	9,472



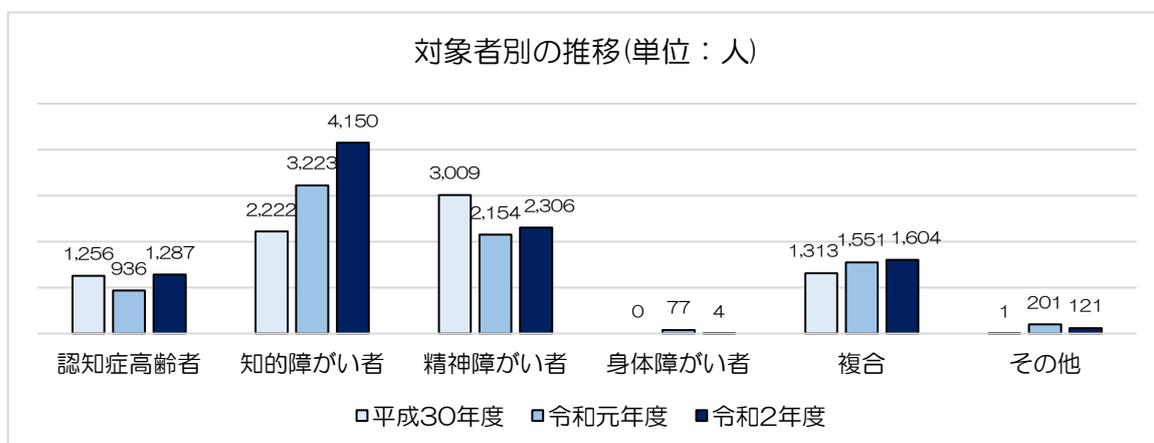
カ 方法別の推移(単位：件)

	来所	電話	訪問	ケース会議	その他	合計
平成 30 年度	541	4,916	2,136	88	120	7,801
令和元年度	697	4,539	2,584	69	253	8,142
令和 2 年度	684	5,213	3,089	77	409	9,472



キ 対象者別の推移(単位：人)

	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	身体障がい者	複合	その他
平成 30 年度	1,256	2,222	3,009	0	1,313	1
令和元年度	936	3,223	2,154	77	1,551	201
令和 2 年度	1,287	4,150	2,306	4	1,604	121



評価・課題

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、相談件数は令和元年度の6割程の件数となった。一方で、新たに法人後見受任となった件数は令和元年度の2倍となっており、第三者後見人を必要とし、経済的課題や複合的な課題を抱えている方の権利擁護の需要が高まっている。

法人後見受任件数は62件となり、法人後見における相談業務が相談業務全体の9割以上となっている。

以上のことから、権利擁護の支援を必要とする方が増加している一方で、支援を担う受け皿の確保、また、最終的な受け皿として実施している上田市社協の法人後見業務を円滑に行える体制作りが喫緊の課題となっている。なお、成年後見制度のみならず、幅広い視点で他機関と協働し、成年後見制度を利用せずとも、地域住民が安心して暮らせる権利擁護体制の構築が必要である。

1.3 “まいさぼ上田” 上田市生活就労支援センター事業(市受託事業)

【令和2年度事業費】	生活困窮者自立相談支援事業	21,062千円
	生活困窮者家計改善支援事業	3,618千円
	生活困窮者就労準備支援事業	3,758千円

【事業概要】

主任相談支援員を兼ねた所長1人と相談就労支援員3人及び家計相談支援員1人、就労準備支援員1人を配置して生活困窮者に対する包括的な相談・支援を行っている。

(1) 生活困窮者自立生活支援事業

生活困窮者自立支援法に基づき、市内に居住する生活困窮者等が困窮状態から早期に脱却するため、支援対象者の自立と尊厳を確保しつつ、その状況に応じて包括的かつ継続的な相談支援を実施するとともに、地域における早期把握のためのネットワークを構築し、支援対象者の自立・就労支援を促進する。

(2) 生活困窮者家計改善支援事業

生活困窮者自立支援法に基づき、市内に居住する生活困窮者等のうち、家計収支の均衡が取れていないなど、家計の問題を抱えている支援対象者に対して、家計の視点から包括的かつ継続的な支援により、生活の改善を図ることで家計収支の改善や家計管理能力の向上を図る。

(3) 生活困窮者就労準備支援事業

生活困窮者自立支援法に基づき、市内に居住する生活困窮者等のうち、直ちに就労が困難な支援対象者に対して、一般就労の従事に向けた準備として、コミュニケーション能力等の基礎能力を養いながら就労に向けた支援を実施する。

事業実績

(1) 各種講座の開催

ア ペアレント・トレーニング講座(全8回)

ひきこもり当事者家族を対象に開催 延べ参加人数 72人

イ ペアトレ*ぷらす講座（全5回）

ひきこもりやニートの若者を抱える家族向けの内容で開催 延べ参加人数 37人

ウ コミュニケーション・トレーニング講座（全20回）

コミュニケーション技術の上達を目的に開催 延べ参加者人数 141人

各種講座の開催に加え、ひきこもり当事者を対象とした「しゃべり場」、ひきこもり当事者家族を対象とした「ママのしゃべり場」を開催することで参加者同士の交流が図れた。また、ボランティア活動を行うことで支援対象者の社会参加の機会となった。

別表

(1) 相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
新規相談者数(人)	76	93	94	75	43	62	
延べ相談者数(人)	112	109	139	132	164	175	
延べ相談件数(件)	608	675	792	755	623	734	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規相談者数(人)	107	82	78	69	81	88	948
延べ相談者数(人)	181	200	206	200	206	232	2,056
延べ相談件数(件)	893	781	850	760	816	921	9,208

(2) 相談者数及び相談件数の推移

ア 新規相談者数(単位：人)

	人数
平成30年度	245
令和元年度	265
令和2年度	948



イ 延べ相談者数(単位：人)

	人数
平成30年度	1,384
令和元年度	1,386
令和2年度	2,056



ウ 延べ相談件数(単位：件)

	人数
平成30年度	5,795
令和元年度	6,339
令和2年度	9,208



(3) 住居確保給付金申請状況

申請人数(単位：人)	給付金額(単位：円)
64	10,257,300

評価・課題

“まいさぼ上田”では、自立相談支援事業に加え、家計改善支援事業、就労準備支援事業を受託することで、相談の間口を広げるとともに支援メニューの拡大に取り組むことが可能となった。各種講座の開催に加え、交流の場、社会参加の場を継続することは重要であり、今後も機会を増やしていきたいと考えている。

新型コロナウイルス感染症の影響で相談者数、相談件数が増加し、離職や就業機会の減少に伴う収入減少があった相談者に対し、住居確保給付金の申請を受け付けているが、制度で生活が支えられる期間には限りがあるため、先を見据えた相談対応を行っていく必要がある。

ひきこもりの相談に本人ではなく、家族が来ることがあるが、当事者への相談につながっていないケースがある。当事者をつなげるためには訪問型支援の必要性も感じているが、訪問型支援を行うためには当事者がその支援を受け入れることが前提となる。そのため、家族支援を通じてどこまで訪問支援を受け入れてもらえるようなアプローチができるか、当事者が相談につながるまでに家族とどのようにつながりを維持していけるかが課題である。

1 4 有償在宅福祉サービス事業

【令和2年度事業費】 2,135千円

福祉移送サービス事業

【事業概要】

通常バス、タクシー等の公共交通機関を利用することが困難な高齢者及び障がい者等（車いす利用者を含む。）の外出の利便を図り、社会参加の促進及び社会福祉の向上に寄与するため福祉車両で移送サービスを行っている。

事業実績

(1) 上田地区センター

ア 登録者数(単位：人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
利用会員数	142	148	103
協力会員数	11	7	7

イ 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用回数(団体)	49	53	65	82	51	61
利用会員数(人)	13	13	12	18	13	18
協力会員数(人)	3	4	3	3	4	5

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用回数(団体)	71	55	63	48	42	48	688
利用会員数(人)	15	13	17	12	14	16	174
協力会員数(人)	3	4	3	5	5	4	46

ウ 上田福祉移送サービスの推移

利用回数(単位:回)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
延べ	1,072	997	640
月平均	89.3	83.1	53.4



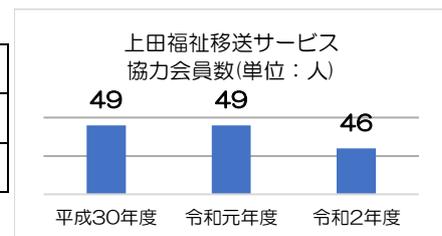
利用会員数(単位:人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
延べ	283	226	174
月平均	23.5	18.8	14.5



協力会員数(単位:人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
延べ	49	49	46
月平均	4.08	4.08	3.9



(2) 丸子地区センター

ア 登録者数(単位:人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
利用会員数	33	28	31
協力会員数	7	11	10

イ 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用回数(団体)	30	23	37	34	37	43	
利用会員数(人)	7	6	11	9	12	12	
協力会員数(人)	5	3	5	5	6	6	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用回数(団体)	35	41	47	35	40	55	457
利用会員数(人)	11	14	17	12	13	17	141
協力会員数(人)	3	5	6	4	4	6	58

ウ 丸子福祉移送サービスの推移

利用回数(単位：回)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
延べ	377	444	457
月平均	31.4	37.0	38.1



利用会員数(単位：人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
延べ	126	142	141
月平均	10.5	11.8	11.8



協力会員数(単位：人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
延べ	52	68	58
月平均	7.3	5.6	4.8



(3) 真田地区センター

ア 登録者数(単位：人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
利用会員数	13	12	11
協力会員数	13	13	11

イ 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
利用回数(団体)	8	4	2	4	3	1		
利用会員数(人)	2	2	2	2	1	1		
協力会員数(人)	3	1	1	3	1	1		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
利用回数(団体)	5	3	4	2	1	4	41	
利用会員数(人)	1	1	1	1	1	1	16	
協力会員数(人)	3	1	1	1	1	1	18	

ウ 真田福祉移送サービスの推移

利用回数(単位：回)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
延べ	36	26	41
月平均	3.0	2.2	3.4



利用会員数(単位：人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
延べ	13	12	16
月平均	1.1	1.0	1.3



協力会員数(単位：人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
延べ	20	13	18
月平均	1.7	1.1	1.5



評価・課題

(1) 上田地区センター

新規協力員が2人増え、定期的に移送の対応をお願いできる体制が整い、また、サービスマナー向上のための情報交換や勉強会を行った。

現在、上田地区では、介助者を必ずつけてもらわないと送迎の対応ができないようになっているが、独居の方の中には、介助者をつけられない方もいるので、今後、送迎対応を検討する必要がある。

(2) 丸子地区センター

移送サービスの利用回数が過去3年増加しており、毎月の依頼数が平均していない上、予約日が重なり調整が必要になる月も多いことから、よりいっそう協力員の確保が重要となっている。また、医療機関への送迎が多数を占めるため、感染症対策に注意を払いながら、利用者、協力員ともに安全に運行できるよう今後も努めていく。

(3) 真田地区センター

市民の協力により成り立っている事業であり、協力会員のボランティア精神や支え合いの気持ちが広く地域に波及することを期待したい。利用者、協力員ともに、現状を維持している状況である。

ご用聞きサービス事業

【事業概要】

上田市にお住まいの高齢者世帯及び障がい者世帯を対象に、日常生活を送る上で困っていることなどをご近所の助け合いや支え合いにより支援することを目的とした有償福祉サービスであり、平成22年2月1日から事業を開始した。現在、利用会員と協力会員とのマッチングを進め、多くの協力員の方に御協力をいただき活動を行っている。

事業実績

令和2年度 協力会員の登録数 47人
 利用会員の登録数 98人
 利用回数 199件

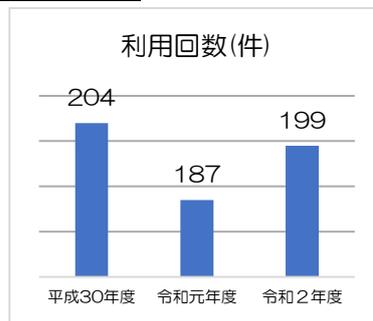
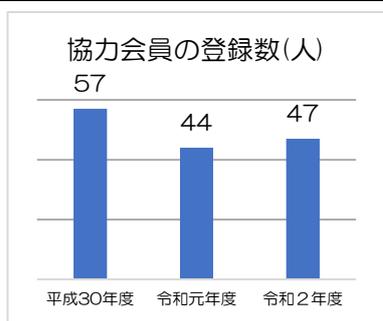


【活動内容の内訳】

買物代行 103件 ゴミ出し 80件 草取り 7件
 雪かき 3件 その他(剪定等) 6件

(2) 推移

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
協力会員の登録数(人)	57	46	47
利用会員の登録数(人)	106	103	98
利用回数(件)	204	187	199



評価・課題

城下地域包括支援センター、川西地域包括支援センターが担い手として養成した「生活支援パートナー」に対し協力会員となってくださる方への説明会を開く予定が、新型コロナウイルス感染症拡大により、延期となってしまった。令和3年度以降、再度、説明会の場を設け協力者を募っていきたい。

登録している依頼会員、協力会員の方はいるが、定期利用の方は数人である。また、低額な料金ということで相談は多数あるが、ご用聞きサービスの対象ではないことも多い。

地域によっては、依頼があっても協力者がおらずお引き受けできないことがあるため、今後も依頼に応えられるよう事業の周知と協力会員の確保、自治会とのつながりに努めたい。

依頼があった際、近所や身近にお願いできる人がいないことが多く、地域との関わり方が希薄になっていることがうかがえる。社協が推進している日ごろからの見守り、気にかけてくださる人の存在がより重要性を増していると感じる。

15 心配ごと相談事業

【令和2年度事業費】 213 千円

【事業概要】

どんな悩みでも、誰でも、いつでも、気軽に相談できる安心のネットワークの一環として、秘密厳守、相談はすべて無料で相談者ととも考え、良い解決方法を見出すため実施している。

(1) 心配ごと相談事業

全市民を対象にさまざまな相談（介護、福祉サービス、家庭内の問題等）に応じ、関係機関と連絡を密にして、問題の解決に努める。

(2) 法律相談事業

弁護士によるさまざまな法的な悩みを解決する無料の法律相談（予約制）

事業実績

(1) 上田地区センター

ア 心配ごと相談員

(ア) 相談員：1人

(イ) 相談日：毎週月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分

(ウ) 開設日数：245日

(エ) 相談件数：19件（令和元年度 146件）

(オ) 相談内容：子どもについて、借金について、家族について生活困窮、友人関係について等

※ コロナ禍による傾聴電話が相談電話と同様の27-8080の回線を利用しており、令和2年度はコロナ傾聴電話での対応もあった。

イ 法律相談

(ア) 相談員：弁護士1人（上田在住会からの派遣で毎月異なった弁護士が対応）

(イ) 相談日：毎週第3土曜日 午前10時～正午

(ウ) 開設日数：8日（コロナ禍により4月、5月は中止）

（8月～9月についても人が集まらず中止）

(エ) 相談件数：27件（令和元年度 55件）

(オ) 相談内容：離婚、相続、金銭トラブル、不動産問題、労働問題、成年後見申立て、養子縁組等

(2) 丸子地区センター

ア 心配ごと相談

(ア) 相談日：毎週月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分

(イ) 相談件数：8件

(ウ) 相談内容：近隣トラブル、家族の病気、相続、永住権、土地売買

イ 法律相談

- (ア) 相 談 員：弁護士 1 人
- (イ) 相 談 日：2 ヶ月に 1 回を目安に実施 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
- (ウ) 開設日数：5 日
- (エ) 相談件数：15 件
- (オ) 相談内容：遺産相続、離婚、借金、高齢者虐待他

(3) 真田地区センター

ア 心配ごと相談

- (ア) 相 談 員：1 人
- (イ) 相 談 日：毎週月曜日～金曜日 午前 8 時 30 分～午後 5 時 15 分
- (ウ) 相談件数：6 件
- (エ) 相談内容：生活困窮、家族関係、近隣トラブル、知人関係

(4) 武石地区センター

ア 心配ごと相談

- (ア) 相 談 員：1 人
- (イ) 相 談 日：毎週月曜日～金曜日 午前 8 時 30 分 ～ 午後 5 時 15 分
- (ウ) 相談件数：2 件
- (エ) 相談内容：生活困窮、家族関係

評価・課題

(1) 上田地区センター

市民の方からの身近な相談窓口として、親身に寄り添いながら、内容によって他専門機関と連携を図り解決の糸口を見つけるよう努めることができた。コロナ禍においても安心して法律相談に来所いただけるよう、検温やアルコール消毒の徹底を行った。

(2) 丸子地区センター

市民の方からの身近な相談窓口としてさまざまな生活上の相談に応じ、内容によっては他の専門機関等と連携を図りながら、相談者が一人で抱え込まずに解決の糸口を見つけるよう努めた。

(3) 真田地区センター

市民の方々からの身近な相談窓口としてさまざまな生活上の相談に応じ、内容によっては法律相談を紹介したり、他機関と連携しながら解決の糸口となるよう努めた。

(4) 武石地区センター

市民の方からの身近な相談窓口としてさまざまな生活上の相談に応じ、行政等と連携を図りながら、相談者が一人で抱え込まずに解決の糸口を見つけるよう努めた。

16 結婚相談事業

【令和2年度事業費】 1,084千円

【事業概要】

独身男女の出会いを提供するお手伝いとして、結婚相談や、婚活パーティーなどを行っている。上田地区と丸子地区で相談を行っており、どちらの窓口でも登録を受け付けている。登録・相談いずれも無料で行っている。また、県内広域での紹介を希望する方は「ながのマッチングシステム」への登録も受け付けている。

[上田地区]

上田市ふれあい福祉センター

毎週水曜日 午前10時～午後3時

毎週第2土曜日 午前10時～午後3時

[丸子地区]

丸子ふれあいステーション

毎週第4土曜日 午前10時～午後3時

事業実績

(1) 結婚相談事業

ア 相談員：4人

イ 開設日数：65日

ウ 相談件数：1,466件 来所者数（延べ）506人

（令和元年度 1,903件 来所者数（延べ）727人

エ 登録者：男性438人 女性149人 合計587人

オ 成立組数：見合い60組 結婚4組

（令和元年度 見合い76組 結婚12組）

(2) ながの結婚マッチングシステム

長野県内でマッチングシステムに登録している男女をインターネットで検索し紹介するシステム

ア 上田での登録者数 男性 7人 女性 0人

イ 相談来所者数（延べ）：25人

ウ お見合い：0組

エ 結婚：0組

(3) お見合企画 ※ コロナ禍のため中止とする。

ア [料理も学べる] 恋する♡料理コン～いっしょに作るカフェごはん～

開催場所：上田ガス（株）キッチンスタジオ

午前10時から午後2時30分

28～39歳以下対象：5月31日（日） 中止

40歳代限定：6月7日（日） 中止

イ 大人の婚活&セミナー「Puremium Xmas Party」

※ コロナ禍のため中止とする。

(4) 上田市結婚支援ネットワーク実行委員会

ア 結婚相談員スキルアップセミナー

3月4日(木) 上田市上野が丘公民館 相談員2人参加

コロナ禍での婚活について相談員での交流会

講師：若井 順子 氏(若井結婚センター所長)

評価・課題

コロナ禍のため、婚活の機会が減少したためか、相談所に登録し婚活を始めようとする独身男女が相談に来所することもあり、1対1でのお見合いができる相談所の需要が高まっていると感じた。相談員の親身なアドバイスや対応のため、登録者が他で結婚した場合についても結婚が決まった報告に来所していただく場面も多々みられ、熱意ある対応が成果につながっていると感じる。結婚相談員のスキルアップに力を入れるとともに、コロナ禍においても活動が継続し、将来の良きパートナーに出会えるよう感染対策に配慮した上でお見合い企画についても開催していきたい。

17 たすけあい資金貸付事業

【令和2年度事業費】 4,099千円

生活再建に向け世帯厚生を促進を図り、地域社会の福祉増進を図ることを目的に実施している。

たすけあい資金

【事業概要】

要保護世帯またはこれに準ずる世帯に対し、応急的に貸付ける制度で、貸付限度額は5万円まで、無利子である。

事業実績

低所得者、高齢者、障がい者を対象に資金の貸付と必要な援助指導を行うことにより、世帯の自立と更生に努めた。導を行うことにより、世帯の自立と更生に努めた。

(1) たすけあい資金貸付状況

	相談件数(件)	貸付件数(件)	貸付額(円)
上田、丸子、真田、武石 (4地区合計)	130	90	4,080,253

評価・課題

たすけあい資金の返済通知を送るも、連絡がつかない方が多くおり、今後の対応について検討している。

生活福祉資金(県社協受託事業)

【事業概要】

(1) 総合支援資金

失業等により生計の維持が困難になった世帯に対して、再就職までの生活資金として貸付けるものである。

(2) 福祉資金

低所得世帯等に対し自立生活を送る上で一時的に必要であると認められた場合に貸付けるものである。

(3) 教育支援資金

低所得世帯に対し高校、短大、大学または高等専門学校に就学するために必要な経費を対象とした貸付けである。

事業実績				
(1) 生活福祉資金貸付状況				
資金種類		相談件数 (件)	貸付件数 (件)	貸付額 (円)
総合支援資金	上田地区	710	446	221,460,000
	丸子地区	78	25	12,010,000
	真田地区	10	9	4,680,000
	武石地区	5	1	100,000
	合 計	798	480	238,150,000
福祉資金	上田地区	2,050	694	109,892,000
	丸子地区	186	42	6,500,000
	真田地区	13	13	2,400,000
	武石地区	2	0	0
	合 計	2,251	749	118,792,000
教育支援資金	上田地区	6	2	1,019,000
	丸子地区	0	0	0
	真田地区	0	0	0
	武石地区	0	0	0
	合 計	6	2	1,019,000
合 計		3,055	1,231	357,961,000

※ 福祉資金内訳 (上田地区)

ア コロナ特例緊急小口資金貸付 690件 104,980,000円

イ 通常の小口資金 1件 100,000円

ウ 転宅費貸付資金 2件 562,000円

エ 福祉自動車購入費貸付資金 1件 2,000,000円

別表

(1) 生活福祉資金貸付状況の推移

ア 相談件数 (単位：件)

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
総合支援資金	15	7	798
福祉資金	159	135	2,251
教育支援資金	35	12	6
合計	209	154	3,055



イ 貸付件数 (単位：件)

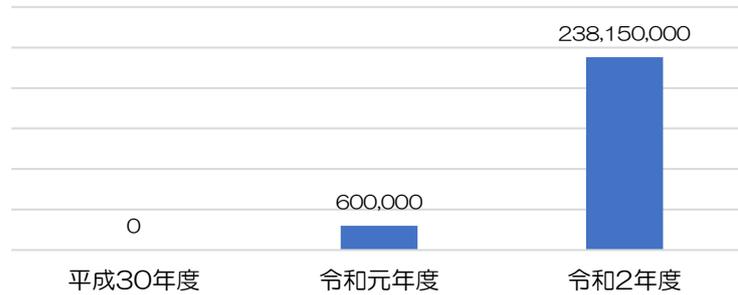
	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
総合支援資金	0	1	480
福祉資金	3	24	749
教育支援資金	2	1	2
合計	5	26	1,231



ウ 貸付額 (単位：円)

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
総合支援資金	0	600,000	238,150,000
福祉資金	286,000	4,250,000	118,792,000
教育支援資金	450,000	585,000	1,019,000
合計	736,000	5,435,000	357,961,000

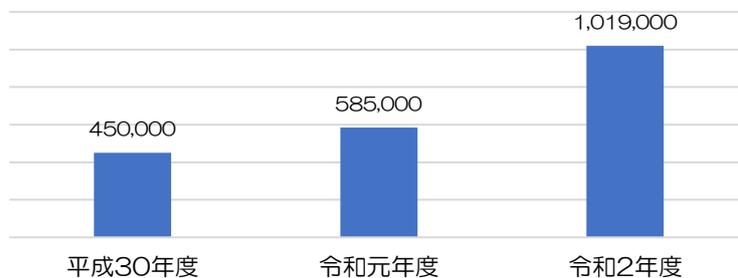
総合支援資金
貸付額推移(単位：円)



福祉資金
貸付額推移(単位：円)



教育支援資金
貸付額推移(単位：円)



評価・課題

(1) 上田地区センター

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の流行による減収や解雇、失業者への貸付けを主に行ったが、もともと困窮している状況で、更にコロナの影響を受けているケースも多く、まいさぼ上田と連携を行いながら、生活の立て直しを図れるよう初期相談時から丁寧な相談対応を心掛けた。本来であれば、償還することが前提での貸付申請となるが、コロナ特例貸付については、現時点では返済の目途が立たないケースが多く、長期的な支援が必要だと感じる。相談者が、貸付申請を行う中で、今後の見通しが少しでも立ち、前向きな気持ちで帰っていただけるような対応や継続的な関わりを行っていきけるよう努めていきたい。また、償還滞納者についても、訪問などを行い状況把握に努め、償還指導に力を入れていきたい。

(2) 丸子地区センター

令和3年3月から始まった特例貸付けにて相談件数が急増した。また、今回の特例貸付けにて今まで相談したくても相談できなかった生活困窮者が浮き彫りになり、より相談件数の急増につながったと考えられる。丸子での貸付全件数は70件となっており、貸付相談時に償還計画を立てるもなかなか確立はできておらず、今後償還開始時に未償還ケースの増加も予測される。情勢をみながら県社協と連携をとり、行政等関係機関を含めた対応を検討していく。

(3) 真田地区センター

通常の貸付相談及び新規貸付けについては、たすけあい資金並びに生活福祉資金とも0件だった。

コロナ禍における特例貸付けについて、緊急小口資金は13件2,400,000円の貸付け、総合支援資金は9件4,680,000円うち2件が延長900,000円、1件が再貸付け510,000円となっており、総額では7,080,000円である。また、たすけあい資金の特例貸付けは3件140,000円となっている。

償還金未納について、緊急小口資金1件が長期間にわたり償還がなされていなかったが、電話や通知文にて償還指導を行ったところ、一部の償還がされた事例があったことから、今後も継続した償還指導を行っていく。

(4) 武石地区センター

行政と連携を図り貸付相談に対応したが、他制度利用等の理由により貸付けにつながらなかった。

18 ボランティア地域活動センター事業

【令和2年度事業費】 1,625千円

【事業概要】

地域住民のボランティア活動に関する理解を深めるとともに、あらゆるボランティアとの協働による育成援助とボランティア活動の推進を図ることを目的とする事業

事業実績

(1) 上田ボランティア地域活動センター

ア ニーズの把握

(ア) 相談活動によるニーズの把握

(イ) 社会福祉施設、ボランティア団体のニーズの把握

(ウ) 企業の社会貢献に関する状況把握

イ 広報、啓発

(ア) 情報提供

啓発のためのボランティアセンターパンフレット配布、ボランティアコーナー掲示板・社協ホームページでのボランティア情報提供、「社協うえだ」(偶数月の年6回)

全戸配布)へボランティア情報の掲載

(イ) 新聞等報道機関の活用

信濃毎日新聞、東信ジャーナル、信州民報、週刊うえだ、上田ケーブルビジョン等

(ウ) 収集活動

使用済み切手整理後、海外支援団体(ジョイセフ・日本キリスト教海外支援協力会)及び国内NPO法人(誕生日ありがとう本部・世界の子どもにワクチンを 日本委員会)へ送付 80.75kg

(エ) ボランティア保険等の普及、保険への加入促進

- ・ボランティア活動保険加入者 207件 2,984人
- ・ボランティア活動行事用保険加入者 28件 2,591人
- ・上田市福祉ボランティア保険掛金補助交付制度代理事務による補助 1,535人

ウ 養成研修、組織化

(ア) 各種講座の開催

- ・ステンドグラス講座 参加者:10人
- ・シトラスリボン講座 参加者:10人
- ・もっと輝く!男性の講座(全3回) 参加者:延べ14人

(イ) 上田ボランティア連絡協議会の活動支援

平成25年度から、事務局を上田ボランティア地域活動センターに設置し、事業の充実に向けて取り組んだ。

上田ボランティア連絡協議会が主体となり、みんなの居場所事業として、以下の事業を行った。

- ・大人と子どもの居間「だらっと」 50回 参加者:延べ811人
- ・放課後子どもカフェ 13回 参加者:延べ59人
- ・大人と子どもカフェ 5回 参加者:延べ114人
- ・高齢者のおしゃべりサロン「プラチナ会」 7回 参加者:延べ53人
- ・ガレージセール 来場者:2日間延べ180人
- ・講演会 1回 参加者:46人

エ 社会資源活用、ネットワーク促進

(ア) ひざ掛の配布

製作:モチーフの会

対象者:高齢者及び重度障がい者

配布地区 西部地区 126枚

(配布地区は上田地区内を毎年順番に回している。)

(イ) おうちでボランティア

コロナ禍でも行えるボランティア活動として、手紙や作品等を募集し、届いた作品を施設へ配布し、つながりづくりを行った。

作成者:個人3人、団体2団体

作品:色紙5枚、メッセージカード60枚、折り紙作品1点

届け先：高齢者施設 7 か所

(ウ) おうちで切手整理ボランティア

コロナ禍でも行えるボランティア活動として、普段上田市ふれあい福祉センターを会場に行っている切手整理ボランティアを、自宅に持ち帰って切手整理を行う形式を取り、活動を促した。

協力者：延べ人数 82 人、団体 2 団体

(エ) 社協傾聴電話

コロナ禍のため、訪問による傾聴ボランティアの活動が制限されたことから、社協職員による傾聴電話を実施した。

5 月～ 傾聴件数：延べ 85 件

オ 福祉教育の推進

(ア) 社会福祉普及校の指定

内 容： 児童・生徒が体験を通じて、社会福祉の理解と関心を高め、日常生活の中に相互扶助、社会連帯の思想を浸透させることを目的に、小・中学校及び高等学校を対象に、社会福祉の普及を推進する。

普及校 1 校に対し活動費上限 50,000 円の補助を行い、それぞれ地域の実情に合わせ、特性を生かした活動を展開した。

指定校：小学校 16 校、中学校 7 校、高校 3 校 計 26 校

社会福祉普及校連絡会議

コロナ禍のため中止。資料の送付で対応

(イ) 出前福祉体験事業

内 容： 福祉体験を目的とした活動について、資材貸出、講師紹介及びハンディキャップ体験（車いす、高齢者擬似体験など）を学校等に出向いて行った。

対 象：小学校 1 件、中学校 2 件 計 3 件 対象者 397 人

(ウ) 福祉体験プログラムの展開

内 容： コロナ禍のため、例年行っていた施設等へのボランティア活動は中止。

コロナ禍でもできるボランティア活動として、ごみ拾い活動と切手整理の活動を実施した。

○オータムチャレンジボランティア（対象中学生以上）

・上田城跡公園ごみ拾い（10月4日、18日の全2回） 参加者：延べ 30 人

・切手整理（11月21日、28日の全2回） 参加者：延べ 44 人

○スプリングチャレンジボランティア（対象中学生以上）

・切手整理（3月13日） 参加者：40 人

・上田城跡公園ごみ拾い（3月21日） 参加者：16 人

カ 災害時の訓練、協力（上田地区）

(ア) 災害救援ボランティア

災害救援ボランティア登録数 個人 68 人 団体 10 団体

災害救援ボランティア訓練及び研修

上田市の総合防災訓練中止。研修会形式で実施

9月26日 上田市ふれあい福祉センター 大会議室

「令和元年東日本台風災害の振り返り」

「コロナ禍での災害救援ボランティアセンター運営と特色ある地域の動きについて」

講師：長野県社会福祉協議会 まちづくりボランティアセンター 徳永雄大氏

参加者：社協職員 36人

(イ) 清流千曲川洗濯大作戦

令和元年東日本台風災害時に漂着した河原ごみの清掃活動（3月21日）

神川エリアを中心に、地元のまちづくり協議会関係者、企業、個人ボランティアが参加し、清掃活動を行った。

参加者：災害救援ボランティア登録団体2団体 25人

社協職員 10人

キ 上田市ボランティア地域活動センター運営委員会

コロナ禍のため開催中止

(2) 丸子ボランティア地域活動センター

ア ニーズの把握

(ア) 相談活動によるニーズの把握

(イ) 社会福祉施設、ボランティア団体のニーズの把握

(ウ) 企業の社会貢献に関する状況把握

イ 広報、啓発

(ア) 新聞等報道機関の活用

信濃毎日新聞、信州民報、東信ジャーナル、週刊うえだ、丸子テレビ、丸子有線放送

(イ) 「鈴木クラジ」による啓発DVD、書籍などの貸出（18件 28冊）

(ウ) 収集活動

使用済み切手 整理後、日本キリスト教海外支援協力会へ送付（令和2年度送付2回）

(エ) ボランティア保険等の普及、加入促進

・ボランティア活動保険 34件 532人

・ボランティア行事保険 2件 240人

・サロン保険 12件 227人

・上田市福祉ボランティア保険掛金補助交付制度代理事務による補助 494人

ウ 養成研修、組織化

(ア) 各種講座の開催

・ボランティア基礎講座

内容：伊那市の活動事例をもとにボランティアについて考える

講師：伊那市社会福祉協議会 中山 咲子氏、原 智美氏

参加者：8人

・傾聴講座

内容：傾聴の基本とコミュニケーションについて

講師：長寿社会開発センター 理事長 内山 二郎氏

参加者：18人

- ・傾聴フォローアップ研修

内容：傾聴訪問時の対処法について（対面演習）

講師：長寿社会開発センター 理事会 内山 二郎氏

参加者：20人

- ・地域サロンの開催

丸子ボランティア地域活動センターで男性ボランティアグループの育成と地域交流スペースの活用とセンターの活動周知を目的に月1回「珈琲サロンさざなみ」を開催していたが、令和2年度は新型コロナ禍のため中止

- ・珈琲サロン活動についての発表

東御市金井地区「ほっとかない」との交流 3人

「地域の暮らしを考えるタウンミーティング」（男性高齢者の社会参加活動）5人

- ・丸子地域のふれあいの会等へレクリエーション用品の活用を呼びかける。

レク用品貸出 0件

- ・丸子ボランティア連絡協議会

加入団体 18団体 加入者数（個人ボラ含む。）785人

エ 社会資源活用、ネットワーク促進

(ア) 丸子ボランティア連絡協議会の活動支援

- ・会員交流事業

視察研修、丸子ボランティア連絡協議会定期交流会、多文化共生事業は、コロナ禍のため中止

- ・地域交流事業

9月17日 いきいきフェスティバル2020 健康と福祉の祭典（慶祝写真撮影のみ）

10月24日 上小ブロックボランティア地域活動フォーラム（1月23日に延期後中止）

10月26日 上田市社会福祉大会（式典のみ）

表彰：かがやき 21MARUKO

10月10日 げんきまるこ産業フェスタ2020 ※中止（参加協力）

上田市視覚障がい者福祉協会施術奉仕 ※中止（参加協力）

丸子災害救援ボランティア研修会 ※中止

- ・丸子ボランティア連絡協議会代表者会、三役会等へ参加 ※中止

- ・外国籍市民や母子家庭などへ支援米の配布 ※中止

(イ) その他活動の支援

- ・丸子モチーフの会

独居高齢者等へモチーフの膝掛を配布 117枚（依田地区、長瀬地区、塩川地区）

- ・Eキャップの会（やさしい帽子の会）

闘病生活を送るガン患者の方にタオルの帽子を提供 提供数 586枚

提供医療機関 上田医療センター、佐久医療センター及び個人

・傾聴ボランティアまるこ

傾聴の記述により話を聴いてほしい人に寄り添うボランティア活動

利用者（個人宅、高齢者施設）

新型コロナウイルス感染症拡大防止他のため訪問を自粛しているが、利用者に向けてお便りと手作り作品を贈った。

オ 福祉教育の推進

(ア) 社会福祉普及校の指定

児童・生徒が体験を通して、社会福祉への理解と関心を高め、日頃から助け合いの気持ちや育むことを目的として指定した。普及校1校に対し活動費50,000円までの補助を行う。（小学校4校、中学校2校、高校1校）

(イ) 出前福祉体験事業

内容：学校や地域における福祉体験を目的とした活動について援助し、講師派遣、車いす体験を行った。

対象：中学校1件 対象者22人

(ウ) サマー体験ボランティア2020

内容：夏の長期休暇等を利用して、福祉施設やボランティア団体での体験学習を通して今後の学校や地域社会におけるボランティアのあり方を考えることを目的として実施していたが、コロナ禍のため中止

(エ) 学期末休業中のボランティア体験

内容：ボランティア団体への受入（点訳、手話ダンス、障害者との交流）

対象：高校1件 対象者8人

(3) 真田ボランティア地域活動センター

ボランティア・市民・学校・行政などさまざまな団体、個人からのボランティア活動に関する相談や問い合わせに応じた。

ア ニーズの把握

(ア) 社会福祉施設、ボランティア団体、NPO法人の把握

(イ) 相談による把握

イ 広報、啓発

(ア) 例年、イベントのチラシを全戸に配布していたが、コロナ禍によりイベント中止

(イ) 収集活動（使用済み切手、アルミ缶、書き損じはがき）にあわせ啓発

(ウ) 福祉用具の学校への貸出

アイマスク 25枚

(エ) ボランティア保険の普及と加入促進

- ・ ボランティア活動保険加入 12団体 175人、天災保険 31人
- ・ ボランティア行事用保険加入 22件 460人
- ・ 送迎サービス補償保険加入 150人

ウ 養成研修・組織化

(ア) 各種講座の開催

- ・ ボランティア講座 参加者 延べ人数 3回 21人
関心があることから勉強していただき、家族、地域、そこからボランティア活動をしていただけるように、基礎的な知識や技能を学んでいただくための講座を開催した。
- ①9月24日(木) わたしも書ける絵手紙講座 絵手紙の基礎を学び作品づくり
講師 小林 みのり 氏
- ②10月19日(月) ハンドとリンパの基本
講師 中沢 由美子 氏
- ③10月26日(月) 1人でできるトリートメント
講師 中沢 由美子 氏
- (イ) ボランティア連絡協議会加入者数(団体13、施設2)
- (ウ) サマーチャレンジボランティア、ふれあい広場、清掃ハイキング
コロナ禍のため中止
- (エ) いきいきサロンへの協力
 - ・ いきいきサロンで使える資料を作成し、活用していただいた。また、講師の派遣や職員も参加した。紹介件数 3件
- (オ) 地域清掃ハイキング コロナ禍のため中止
- (カ) 第32回ふれあい広場 in さなだへの参画 コロナ禍のため中止
- (キ) 真田ボランティア連絡協議会の活動支援
 - ・ 役員会、代議員会への協力
 - ・ ボランティア連絡協議会視察研修
 - ・ コロナ禍により規模を縮小 7月 菅平薬草栽培試験地(菅平高原)見学
- エ 福祉教育の推進
 - (ア) 福祉体験学習
 - ・ 真田平中学校
 - 6月 ベルマーク回収&紙パック回収のポスター作製
 - 10月 コロナ禍終息を願う折り鶴&短冊づくり
 - 6月 11月 12月 第65回ユニセフ学校募金
 - ・ 菅平小・中学校
 - 10月6日(火)・25日(日)
 - 在宅・高齢者・環境美化活動 ゲレンデやジャンプ台下の草刈り
 - 11月2日(月)
 - 松山三四六氏を招き、命について、子どもたちの生き方に視点を当て福祉講演会
 - 10月8日(木)・3月25日(木)
 - 使用済み切手・アルミ缶等回収活動
 - ・ 長小学校
 - 在宅・高齢者・環境美化活動 ゴミ拾い・空き缶拾い
 - ・ 本原小学校

花の栽培 育てた花を地域への配布

・ 傍陽小学校

在宅・高齢者・環境美化活動 クリーン登校

11月(3日間)

募金の意図を職員から説明

(イ) サマーチャレンジボランティア コロナ禍のため中止

(ウ) 小中学生の福祉体験学習(出前講座)

・ 9月17日(木) 長小学校4年生 アイマスク体験

・ 11月17日(火) 長小学校6年生 高齢者疑似体験

オ ボランティア活動状況

(ア) デイサービスセンターへ個人ボランティア派遣 コロナ禍により中止

(イ) 小・中学校へ福祉体験個人ボランティア派遣 コロナ禍により中止

(ウ) 真田モチーフの会 独り暮らし高齢者親睦会会員へ手作り「ひざ掛け」配布

カ 災害救援ボランティア研修

(ア) 真田地域ボランティア連絡協議会 災害時に役立つ小物作り

日用品を用いた防災グッズの作成体験

(4) 武石ボランティア地域活動センター

ボランティア活動の推進を図るとともに、地域住民のボランティア活動に対する理解と関心を深めるため、その育成と組織化を図ることを目指した。

ア ニーズの把握 ※別表参照

(ア) 相談活動によるニーズの把握

(イ) 社会福祉施設、ボランティア団体のニーズの把握 ニーズ件数 9件

(ウ) 企業の社会貢献に関する状況把握

イ 広報、啓発

(ア) コロナ禍のため、住民参加のボランティア活動は計画したが、開催できなかった。

(イ) シトラスリボンプロジェクトに賛同し、シトラスリボンの配布及びその作り方を広めた。

(ウ) ボランティア保険の普及、保険への加入促進

ボランティア活動保険 7件 79人

ボランティア行事用保険 9件 340人

上田市福祉ボランティア保険掛金補助交付制度代理事務による補助 79人

ウ 養成研修、組織化

(ア) ボランティア養成講座の開催

・ 第1回 コミュニケーション術

実施日 9月23日(水)

講師 コーチングアカデミー諏訪校 校長 土橋 桂子氏

参加者 13人

・ 第2回 珈琲の持つ魅力について

実施日 10月9日(金)

講師 まめ家オーナー 芝野 泰彦氏

参加者 12人

- ・第3回 珈琲の基礎知識について

実施日 10月15日(木)

講師 まめ家オーナー 芝野 泰彦氏

参加者 12人

- ・第4回 ボランティアグループ立ち上げに向けて

実施日 10月29日(木)

講師 長野県長寿社会開発センター コーディネーター 下倉 亮一氏

参加者 11人

- (イ) 武石ボランティア連絡協議会加入者数

団体 12団体 224人 個人 20人

エ 社会資源活用、ネットワーク促進

- (ア) 高齢者クラブ女性部による高齢者福祉施設での洗濯物たたみ

7月～12月 月2回 延べ参加者 26人

- (イ) 団体によるデイサービス等への訪問活動

- ・コロナ禍のため活動が難しかった。

- (ウ) 個人による施設などへのボランティア活動

- ・本の読み聞かせ

- (エ) 高齢者クラブ員による老人福祉センター庭園の樹木の剪定や草刈りを行い、施設の景観整備に努めた。

年2回 6月、9月 延べ参加者 45人

- (オ) 武石ボランティア連絡協議会活動支援

- ・「おさんぽギャラリー」参加

10月31日(土)～11月1日(日) JAひだまり武石(縁が輪)

飲み物コーナー担当 延べ参加者 10人

- ・アレチウリ等駆除作業

5月30日(土)に計画をしたがコロナ禍のため中止。

- ・武石ボランティア連絡協議会研修会

実施日 12月17日(木) 参加者 12人

災害救援ボランティアセンターについて、非常食の紹介について

災害時に役立つ新聞で作る防災グッズについて

カ 福祉教育の推進

- (ア) 社会福祉普及校の指定

児童・生徒が体験を通じて、社会福祉の理解と関心を高め、日常生活の中に相互扶助、社会連帯の思想を浸透させることを目的に指定した。普及校1校に対し活動費50,000円までの補助を行う。(小学校1校、依田窪南部中学校については、長和町社会

福祉協議会と合わせて1校25,000円の補助)

(イ) 福祉体験学習

依田窪南部中学校

近隣福祉施設の利用者様宛に暑中見舞はがきを送る活動等

武石小学校

地域活動として、6年生が学校内や活動、周りの風景などを撮影し、DVDを作成し、近隣福祉施設に届けた。施設の外でリコーダーの演奏披露など。

別表

(1) 上田地区センター

ア ボランティアニーズ状況(単位:件)

	施設	自治会	学校	団体	個人	合計
合計	5	2	3	14	44	68

(2) 丸子地区センター

ア ボランティアニーズ状況(単位:件)

	施設	自治会	学校	団体	個人	合計
合計	0	0	2	4	4	10

イ 丸子ボランティア地域活動センター利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
使用団体(団体)	12	5	26	18	13	8	
使用人数(人)	60	12	155	116	84	37	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
使用団体(団体)	21	23	19	9	21	23	198
使用人数(人)	141	139	129	54	134	127	1,188

※ 令和2年2月末から新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベントの中止やボランティア団体の活動自粛が始まりニーズが低迷。センター会議室は使用制限のためボランティア団体の利用が減少した。

(3) 真田地区センター

ア ボランティアニーズ状況(単位:件)

	施設	自治会	学校	団体	個人	合計
合計	0	0	4	2	4	10

イ 真田ボランティア地域活動センター利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
使用団体(団体)	0	0	1	4	6	10	
使用人数(人)	0	0	4	16	17	27	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
使用団体(団体)	10	4	4	0	3	2	44
使用人数(人)	33	12	13	0	5	7	134

(4) 武石地区センター

ア ボランティアニーズ状況(単位：件)

	施設	自治会	学校	団体	個人	合計
合計	0	0	1	4	4	9

評価・課題

(1) 上田地区センター

令和2年度は、コロナ禍のため、例年行っているイベントや会議等を中止、また、多くのボランティア活動の制限といったことから、つながりづくり、関わりに影響が出た。その中でも行える活動、形式を模索しながら実施した。

例年行っている学生を対象とした長期休業を利用して施設等でのボランティア活動を行うサマーチャレンジボランティアは、感染拡大防止の観点から中止としたが、コロナ禍でも行える活動として、屋外のごみ拾い活動と、切手整理の活動をオータムチャレンジボランティアと銘打ち、夏休み後の土日を利用して実施した。また、春休みを利用して行うスプリングチャレンジボランティアも同活動にて開催したが、人数制限を設けたことにより、応募しても参加できなかった学生が出てしまった。来年度も受け入れ施設等の制限が予想されることから、感染予防に努めながら活動の幅を広げるよう企画していく。

さまざまなつながりが制限される中、自宅で行えるボランティア活動として、手紙や作品を募集し、高齢者の施設へ送る新たな活動を実施した。多くの作品やメッセージカードが集まり、新しい形のつながり作りが行うことができた。また、通常、上田市ふれあい福祉センターを会場として定期的に行っている切手整理ボランティアを、一定量自宅へ持ち帰り、分類を行ってから持ってきてもらう形式も取り、活動の幅を広げた。

引き続き、コロナ禍でも可能な活動の開拓や形式等を検討し、ボランティアの育成、活動の啓発、既存の活動の支援等実施していく。

(2) 丸子地区センター

当ボランティアセンターは、丸子地域の特性を活かし、ボランティアの活動拠点として利便性良く活動され、住民への周知もされてきた。

しかしながら、現在まで続くコロナ禍の影響により地域サロン中止や傾聴訪問の自粛を始め、多くの団体が活動を中止するなど団体の活動もままならなくなっている。ボランティア団体の高齢化に伴う活動の縮小やコロナ禍でのモチベーション維持が問題となる中で、どのように団体を支えていくかが課題となっている。

(3) 真田地区センター

コロナ禍により、活動がままならない年度であったが、各団体と連携し、ボランティアの育成やボランティア講座について規模を縮小するなどしながら開催した。講座で学んだことをボランティア活動につなげるための活動はできなかった。また、ボランティアの高齢化が課題としてあげられる。

(4) 武石地区センター

ボランティアを始めたい方や珈琲に興味のある方を対象にボランティア養成講座を4回開

催した。講座終了後、参加者で地域の皆さんが集まる場所に珈琲を提供する団体を立ち上げた。

恒例の行事になっている、春季「アレチウリ駆除作業」、「交流会」を計画はしたが、コロナ感染症拡大防止のため中止とした。また、個人・団体等のパフォーマンスボランティア活動(演芸、演奏等)は縮小もしくは中止となった。

課題としては、コロナ禍のため活動の内容、範囲が狭くなったボランティア団体が見受けられることである。活動が続けられよう、場所、方法などを工夫する必要がある。

19 地域子育て支援拠点事業【連携型、一般型】(市受託事業)

【令和2年度事業費】 6,679千円(連携型4,465千円、一般型2,214千円)

【事業概要】

未就園児の親子を対象に子育ての負担感の緩和を図り、安心して子育てができることを目的とした事業であり、上田市からの委託を受け、4か所の子育てひろば[連携型3か所(大星・神科・東塩田児童館内)、一般型1か所(清明子ども館)]を開設し運営している。

事業実績

地域における子育て支援拠点として、親子で遊んだり、他の親子と交流したり、子育ての悩みなどを相談できる場としてサービスの提供をしており、さまざまな遊具や遊びを実施した。保護者のための講座や親子での講座についてはコロナ禍のため開催の中止や変更を行った。

また、自治会内に回覧や掲示をして、子育てひろばの利用方法や毎月の講座、ひろばの様子を知らせるなど周知に努めた。子育てひろばスタッフ研修会、救急法講習会に参加し、職員の資質向上を図った。

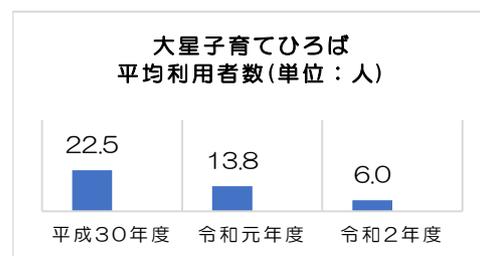
会場	開設曜日	開設時間
大星児童センター	火・木・金	9:30~12:30
神科児童センター	火・水・木	9:30~12:30
東塩田児童センター	月・火・水	9:30~12:30
清明子育てひろば	月・水・金	9:30~14:30

別表

(1) 平均利用者数 推移

ア 大星子育てひろば

	平均利用者数(人)
平成30年度	22.5
令和元年度	13.8
令和2年度	6.0



イ 神科子育てひろば

	平成利用者数(人)
平成30年度	21.3
令和元年度	16.3
令和2年度	8.1



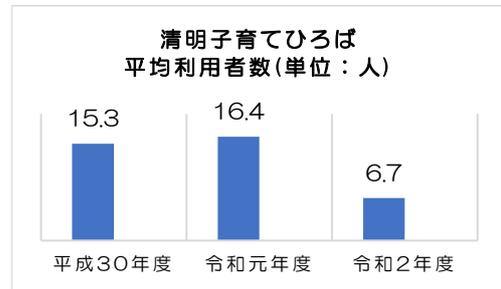
ウ 東塩田子育てひろば

	平均利用者数(人)
平成30年度	12.6
令和元年度	12.9
令和2年度	9.5



エ 清明子育てひろば

	平均利用者数(人)
平成30年度	15.3
令和元年度	16.4
令和2年度	6.7



評価・課題

コロナ禍で、常に模索しながらのひろば運営となったが、このような状況下であるからこそ、ひろばの存在、役割がとても重要である。家にいることが多くなりがちな母親同士のつながりや子どもたち同士の関りなど、ひろばでのさまざまな遊びや経験を通しての育ちが多くみられた。

コロナ禍のため人数を制限しての講座開催や利用時間の短縮等を行い、利用者数は減少した。利用者には感染防止対策への理解をいただき、消毒しやすい遊具のみの提供や密を避け室内の配置等を行った。今後も地域のボランティア、子育てサポーター、子育てコーディネーターとの連携を取りながら、心地よい、すぐそばにある子育てひろばとして、子育ての支援をしていきたい。

20 上田市高齢者福祉センター管理事業（市受託事業）

【令和2年度事業費】 38,122 千円

上田市高齢者福祉センター

【事業概要】

市内に在住する60歳以上の高齢者の方の生きがいと健康づくりを目的として昭和56年に開設された。平成9年4月1日からは上田市社会福祉協議会が管理運営を行っている。

2階にある展望風呂を楽しみに来館される方が多く、また、貸出部屋を利用した各種同好会活動等も盛んに行われている。

他にも、高齢者介護課が主催する介護予防体操や自主事業として行っている初級パソコン教室があり、大勢の方々に利用していただいている。センター内では利用者の趣味を生かした各種クラブが26クラブあり、約800人の会員が積極的な活動を行い、特に高齢者文化祭や高齢者作品展での発表や作品展示に向けて仲間との交流を図りながら楽しんで取り組んでいる。

また、当センターを主会場に3年間の学習形態で上田市高齢者学園の授業が行われており、卒業後は各種同好会やクラブ活動をはじめ、学んだ知識を地域での活動に役立てている。

事業実績

(1) 利用状況

コロナ禍のため4月9日から5月31日まで休館となり、6月1日からは、感染防止対策を徹底し再開したが、利用者は例年の半分程度に減少した。

(2) その他事業

高齢者文化祭はコロナ禍のため中止

(3) 利用人数

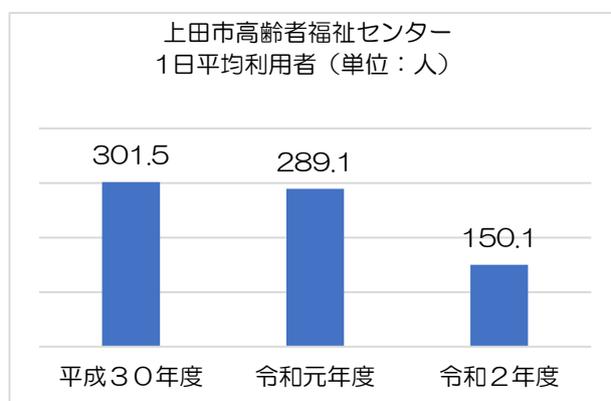
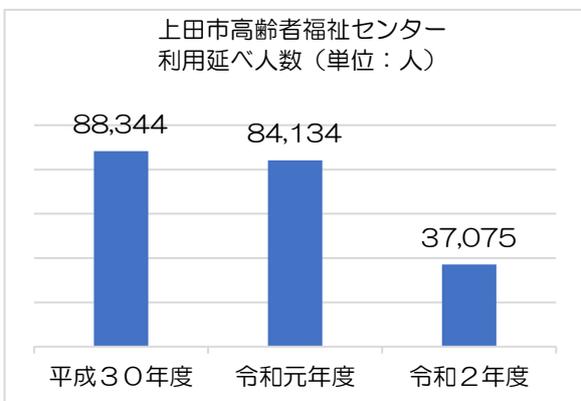
ア 教養クラブ活動(26クラブ)	参加者	13,035人
イ 高齢者初級パソコン教室(222回)	参加者	1,325人
ウ 実習生・ボランティア(7回)	参加者	37人

(4) 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用延べ人数(人)	1,100	0	3,327	4,123	3,421	2,772	
開館日数(日)	7	0	26	25	25	20	
1日平均利用者(人)	157.1	0	130.0	164.9	136.8	138.6	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延べ人数(人)	4,692	4,316	3,880	2,501	3,186	3,757	37,075
開館日数(日)	27	23	24	23	22	25	247
1日平均利用者(人)	173.8	187.7	161.7	108.7	144.8	150.3	150.1

(5) 上田市高齢者福祉センター利用状況の推移

	利用延人数（人）	開館日数（日）	1日平均利用者（人）
平成30年度	88,344	293	301.5
令和元年度	84,134	291	289.1
令和2年度	37,075	247	150.1



評価・課題

令和2年度は、コロナ禍のため、センターの休館や、クラブ活動の中止等があり、利用者の減少が大きかった。事業内容については、介護予防体操や初級パソコン教室は人数を制限し、感染防止対策を徹底しながら行い、高齢者文化祭は中止とした。施設的环境整備面では、利用者が心地よく過ごしていただけるように努めているが、老朽化が進み年々修繕箇所や設備の不具合が増えているのが課題となっている。

高齢者学園事業（市受託事業）

【事業概要】

「仲間づくり、健康づくり、生きがいくくり」を行動指針に、3つの学習分野（より良い社会参加・健康と生きがいくくり・豊かな長寿社会の実現）を柱に、地域の中でも主体的に社会参加し、地域社会の発展に寄与することを目指して学習に取り組んでいる。

また、講義評価アンケートを実施するとともに、学生からのさまざまな要望や意見を取り入れ、学園生の自発的な学園運営に活かしている。

事業実績

令和2年度は、コロナ禍のため休校。ただし、学園生からの希望により9月から12月まで月1回程度の公開講座を行った。

- (1) 学生数 1年生 43人、2年生 46人 3年生 43人
- (2) 公開講座 1年生 4回、2年生 3回、3年生 4回
- (3) 運営委員会 臨時運営委員会 6月25日（木）、7月20日（月）
 - 第1回運営委員会 11月24日（火）
 - 第2回運営委員会 2月18日（木）

(4) その他 講義評価アンケートの実施
評価・課題
<p>公開講座は、新型コロナウイルス感染症予防対策として広い会場に移動し、密にならないよう間隔を空け、午前だけの講座とした。</p> <p>次年度もしばらくは午前だけの講座とし、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底し、学園生に対する評価アンケート等を参考にしながら安全に講座が行われるよう努めていきたい。</p>

2 1 上田市丸子老人福祉センター設置管理事業（市補助事業）

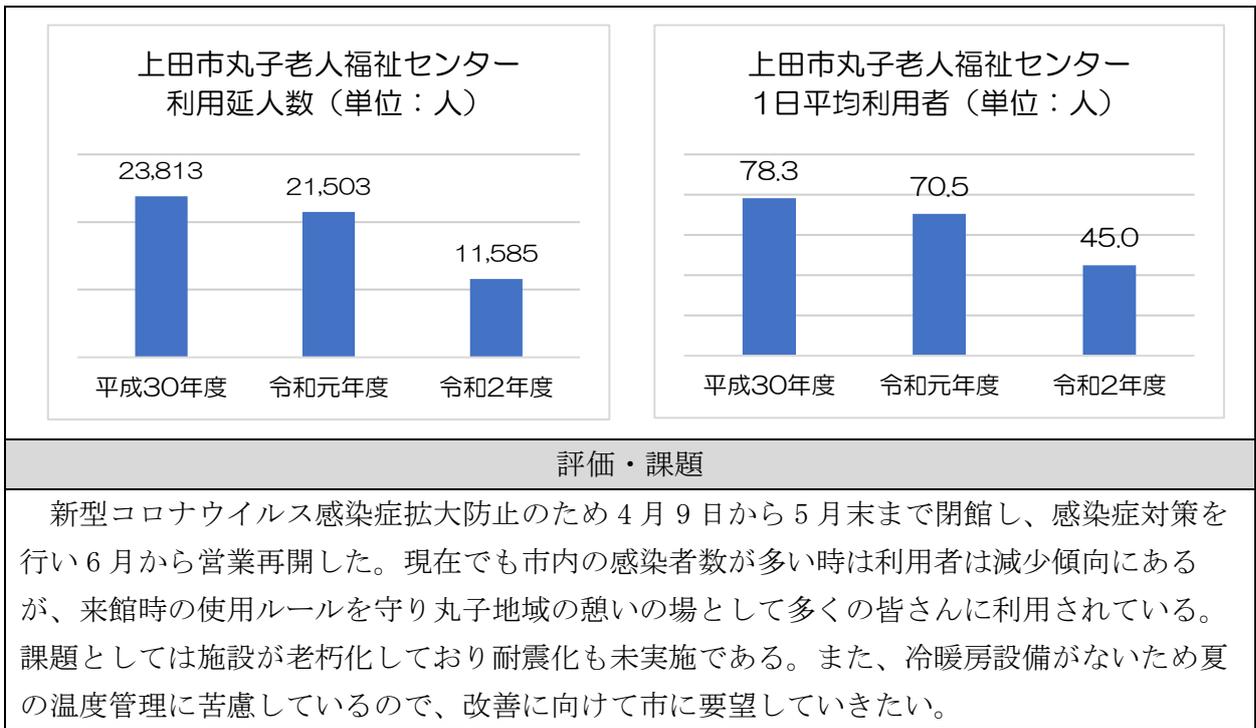
【令和 2 年度事業費】 15,321 千円

【事業概要】

高齢者の心身の健康の保持のため、健康相談・指導・入浴・休養・レクリエーションなどを行うとともに、文化教養の向上を図るため老人のクラブ活動等を行い、高齢者福祉に総合的に寄与することを目的に昭和 54 年に開設した。

開設当時から、老人クラブの活動や高齢者憩いの場所として多くの方に利用されている。

事業実績							
高齢者の心身の健康保持のため、健康相談・入浴・レクリエーションなどを行うとともに、老人クラブの活動等を行っている。							
(1) 利用状況							
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
利用延べ人数 (人)	432	0	583	1,231	983	1,188	
開館日数 (日)	7	0	26	27	25	26	
1 日平均利用者 (人)	61.8	0.0	22.5	45.6	39.4	45.7	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
利用延人数 (人)	1,369	1,308	1,208	818	1,087	1,378	11,585
開館日数 (日)	27	25	24	24	24	27	262
1 日平均利用者 (人)	50.8	52.4	50.4	34.1	45.3	51.1	45.0
(2) 上田市丸子老人福祉センター利用状況の推移							
	利用延人数 (人)	開館日数 (日)	1 日平均利用者 (人)				
平成 30 年度	23,813	304	78.3				
令和元年度	21,503	305	70.5				
令和 2 年度	11,585	262	45.0				



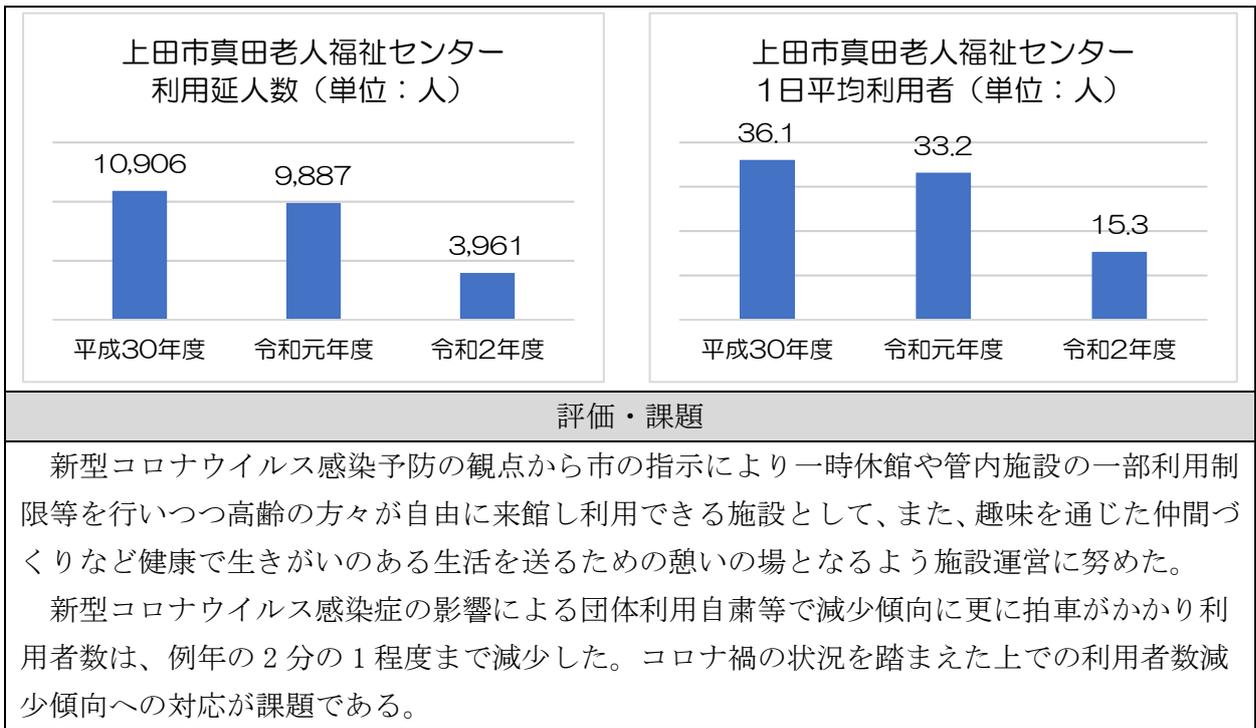
2 2 上田市真田老人福祉センター管理事業 (市受託事業)

【令和2年度事業費】 8,188千円

【事業概要】

高齢者の健康相談に応ずるとともに、健康の増進、教養の向上及びレクリエーション等憩いの目的に利用されている。

事業実績							
(1) 上田市真田老人福祉センター利用状況							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用延べ人数 (人)	226	0	327	384	260	320	
開館日数 (日)	7	0	26	27	22	26	
1日平均利用者 (人)	32.3	0	12.6	14.2	11.8	12.3	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延人数 (人)	360	391	416	405	408	464	3,961
開館日数 (日)	27	25	24	24	24	27	259
1日平均利用者 (人)	13.3	15.6	17.3	16.9	17.0	17.2	15.3
(2) 上田市真田老人福祉センター利用状況の推移							
	利用延人数 (人)	開館日数 (日)	1日平均利用者 (人)				
平成30年度	10,906	302	36.1				
令和元年度	9,887	298	33.2				
令和2年度	3,961	259	15.3				



2 3 上田市武石老人福祉センター管理事業(市受託事業)

【令和2年度事業費】 2,262千円

【事業概要】

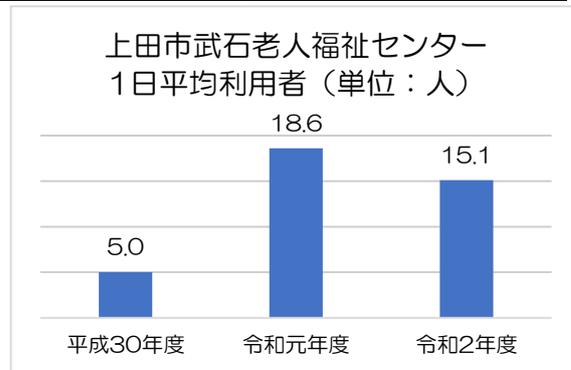
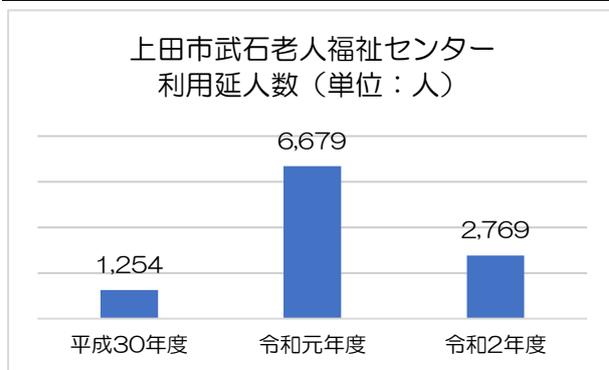
武石老人福祉センターは、「木彫教室」、「地域リハ」、「高齢者クラブによるカラオケ・マージャン」などの趣味活動、単位高齢者クラブ等や各種福祉団体の会議等に利用されている。

また、令和元年度から武石地域総合センターの建設に伴い、武石公民館の利用ができなくなったため、代替施設としてその他さまざまな団体に利用されている。

事業実績							
(1) 武石老人福祉センター利用状況							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用延べ人数(人)	15	0	248	352	232	345	
開館日数(日)	3	0	17	22	20	15	
1日平均利用者(人)	5	0	14.6	16.0	11.6	23.0	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延べ人数(人)	286	348	248	132	204	359	2,769
開館日数(日)	19	20	19	12	16	20	183
1日平均利用者(人)	15.0	17.4	13.0	11.0	12.7	17.9	15.1

(2) 武石老人福祉センター利用状況の推移

	利用延人数（人）	開館日数（日）	1日平均利用者（人）
平成30年度	1,254	253	5.0
令和1年度	6,679	360	18.6
令和2年度	2,769	183	15.1



評価・課題

令和2年度は、武石公民館の代替施設として利用が予想されたが、新型コロナウイルス感染症対策により、利用人数の制限などにより利用人数が減少した。武石地域総合センターの竣工に伴い、令和2年度をもって廃止となる。

24 真田ふれあいバス運行事業(市受託事業)

【令和2年度事業費】 3,966千円

【事業概要】

真田老人福祉センターへの利便を図るため、定期的にふれあいバスを運行している。公共のバス路線では対応できない地域に密着した路線を中心に運行している。

事業実績

- (1) 定期運行 毎週 月、水、木、金曜日に真田地域巡回（菅平自治会は除く。）
- (2) 25人乗りマイクロバス 迎え1回・送り2回の巡回
- (3) 運休日 毎週 火、土、祝日、お盆（8月13日～16日）
年末年始（12月29日～1月3日）

別表

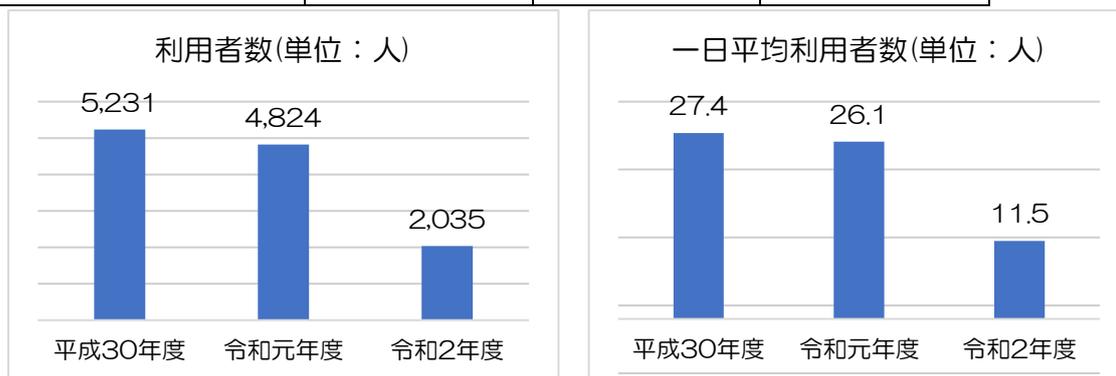
(1) 真田ふれあいバス利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者(人)	166	41	191	212	163	171
運行日数(日)	11	6	17	17	14	16
1日平均利用者数(人)	15.1	6.8	11.2	12.5	11.6	10.7

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数(人)	206	192	136	159	183	215	2,035
運行日数(日)	18	16	14	15	15	18	177
1日平均利用者数(人)	11.4	12.0	9.7	10.6	12.2	11.9	11.5

(2) 真田ふれあいバス利用状況の推移

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
利用者数(人)	5,231	4,824	2,035
運行日数(日)	191	185	177
一日平均利用者数(人)	27.4	26.1	11.5



評価・課題

新型コロナウイルス感染症予防の観点から市の指示により運休の期間もあったが、特に高齢の方々の乗車に配慮し、新型コロナウイルス感染症対策はもとより安全運転、乗降時等の丁寧な誘導に努めた。

コロナ禍のため、老人福祉センター利用者数減少の影響もありバス利用者が例年の2分の1程度まで減少したが、引き続き、地域における高齢者等の交通手段確保に向け、市受託業務として取り組んでいきたい。

25 在宅介護者リフレッシュ事業(市受託事業)

【令和2年度事業費】 0円

【事業概要】

在宅で高齢者を介護している介護者の皆さんが、心身の疲れを癒し、元気の回復を図り、専門職からの相談援助や情報提供を受ける。

また、同じ悩みや体験を持つ介護者同士の交流を図ることを目的として実施している。

事業実績
上田市との協議の結果、コロナ禍のため、予定していた旅行をすべて中止した。
評価・課題
令和3年度からは市の受託事業が廃止になったが、開催時のアンケートをもとに、介護に関する講演会や資料配布等、引き続き在宅介護者に対する支援を検討していく。

26 上田市ふれあい福祉センター管理事業(市受託事業)

【令和2年度事業費】 15,316千円

【事業概要】

旧上田郵便局舎を改修し、障がい者の社会参加の支援、市民のボランティア活動への参加を積極的に促進するとともに、市民と高齢者、ボランティアの交流を推進することを目的に平成11年11月15日にオープンし、福祉の拠点として多くの方が利用されている。

事業実績

(1) 上田市ふれあい福祉センター利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用延べ人数(人)	437	28	906	1,189	760	904	
日数(日)	8	0	30	31	31	30	
1日平均利用者(人)	54.6	0	30.2	38.3	24.5	30.1	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延べ人数(人)	1,564	1,499	1,244	891	1,002	1,192	11,616
日数(日)	31	29	28	28	29	31	306
1日平均利用者(人)	50.4	51.6	44.4	31.8	34.5	38.4	37.9

(2) 上田市ふれあい福祉センター推移

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
利用延べ人数(人)	31,821	29,047	11,616
1日平均利用者(人)	89.1	81.1	37.9

利用延べ人数 (単位：人)



評価・課題

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4月9日から5月末まで閉館とした。6月の利用再開後も会議室の利用人数制限や使用した机、椅子、物品の消毒の徹底を利用者に依頼した。また、館内に入場する際は、検温と手指消毒を促し、感染対策に努めた。

1階社協役員室、2階大会議室、2階日常生活訓練室の雨漏りが現在も見られるため、上田市と協議し、令和3年4月から屋上の防水シートの修繕を実施することとなっている。雨漏りの他にエアコン室外機の取り換え工事も令和3年4月から行う予定で進めている。

建物の老朽化から自動ドアや照明器具など毎年高額な修繕がある状態である。

利用者の安全を最優先に、雨漏り等のある部屋に関しては、利用を控えてもらうよう対応する。また、修繕に関しても、順次対応できるよう上田市と協議していく。

また、コロナ禍での運営について、今後も注意して対応していく。

27 上田市真田総合福祉センター管理事業(市受託事業)

【令和2年度事業費】 2,413千円

【事業概要】

真田総合福祉センターは、地域の多くの方に利用していただいている。障がい者及び高齢者の社会参加を支援するとともに、市民のボランティア活動への参加を積極的に推進することを目的としている。また、多くのクラブ活動に利用されている。

- (1) 開館日：火曜日の夜間を除く毎日
(ただし、12月29日から1月3日を除く。)
- (2) 開館時間：午前9時～午後9時30分

事業実績															
(1) 真田総合福祉センター利用状況															
	4月	5月	6月	7月	8月	9月									
利用延べ人数(人)	53	0	108	233	179	155									
日数(日)	8	0	30	31	31	30									
1日平均利用者(人)	6.6	0.0	3.6	7.5	5.7	5.2									
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計								
利用延べ人数(人)	196	265	294	196	278	757	2,714								
日数(日)	31	30	28	28	28	31	306								
1日平均利用者(人)	6.3	8.8	10.5	7.0	9.9	24.4	8.8								
(2) 真田総合福祉センター推移				<p>利用延べ人数 (単位: 人)</p> <table border="1"> <tr> <th>年度</th> <th>利用延べ人数(人)</th> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>14,138</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>14,226</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>2,714</td> </tr> </table>				年度	利用延べ人数(人)	平成30年度	14,138	令和元年度	14,226	令和2年度	2,714
年度	利用延べ人数(人)														
平成30年度	14,138														
令和元年度	14,226														
令和2年度	2,714														
	平成30年度	令和元年度	令和2年度												
利用延べ人数(人)	14,138	14,226	2,714												
1日平均利用者(人)	39.4	39.5	8.8												
評価・課題															
<p>主に真田地域のボランティア団体、福祉団体、各種クラブ等大勢の方に利用され、昼夜を問わず利用も活発で地域の活動拠点となっている。</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から市の指示により一時休館や管内施設の一部利用制限等を行いつつ本施設の設置目的に沿った利用者の視点に立った施設の運営を行った。利用者数は、例年、規模の大きなイベント利用等の有無により大幅に増減するが、令和2年度はコロナ禍の中、大規模行事の中止や一般の利用自粛もあり例年の2割程度にとどまった。コロナ禍の状況を踏まえた上での利用者数減少傾向への対応が課題である。</p> <p>施設面では、幅広い年齢層に利用されているが、エレベーターがないため高齢の方、障がいのある方には階段による昇降など利用上の不便さや築49年経過による雨漏りなどの課題もある。また、真田地域活動支援センターが用途変更により令和3年度から「木工作業室」の名称</p>															

で一体管理となる。こうした中、市において「今後の施設のあり方」の検討が令和2年度末に開始された。

28 上田市真田地域活動支援センター管理事業(市受託事業)

【令和2年度事業費】 2,219千円

【事業概要】

障がい者及び高齢者が民芸品の自主制作に取り組み、生産意欲を持って健康で楽しく働き、社会生活の適応性を高めることを目的に利用されている。

- (1) 開館日：月曜日～金曜日
(ただし、年末年始・祝日休館)

事業実績	
利用者	5人(身体障がい者1人、高齢者4人)
評価・課題	
<p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から市の指示により一時休館の措置や感染症対策を行いながら利用される方々の障がいの状況や年齢、体力等に応じた活動となるよう配慮するとともに、利用者同士の交流も含め「生きがい」づくりに努めた。</p> <p>市内同種の5施設中、本施設のみ設置主体が市であり、利用者数の減少や高齢化が進む中、目的に沿った障がい者福祉施設としての「今後のあり方」について市で検討が進められ、令和2年度末をもって設置条例が廃止され貸館として用途が変更されることとなった。</p> <p>当該施設は令和3年度から「木工作業室」の名称で真田総合福祉センターの一部として一体管理となるが、移行に向けた従前利用者との調整が課題である。</p>	

29 上田市長瀬市民センター管理事業(市受託事業)

【令和2年度事業費】 4,789千円

【事業概要】

市からの受託事業で、市民の福祉の増進に寄与することを目的として、会場の貸出し等の管理運営を行い、市民に広く利用されている。

事業実績						
(1) 上田市長瀬市民センター利用状況						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用延べ人数(人)	85	0	613	622	452	685
日数(日)	4	0	24	22	18	22
1日平均利用者(人)	21.3	0	25.5	28.3	25.1	31.1

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延べ人数(人)	736	694	522	443	1007	620	6,479
日数(日)	26	25	21	20	23	23	228
1日平均利用者(人)	28.3	27.8	24.9	22.2	43.8	27.0	28.4

(2) 上田市長瀬市民センター推移 (単位：人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
利用延べ人数	13,553	13,348	6,479
1日平均利用者	43.9	43.1	28.4



評価・課題

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4月8日から5月末まで閉館し、感染症対策を行い6月から再開した。使用時のコロナ対策に協力いただき多くの市民や団体が交流の場や活動拠点として利用している。

今後も安全に利用できるよう施設管理に努めていきたい。

30 共同募金配分金事業



【事業概要】

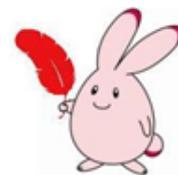
戦後の混乱した経済社会状況の中、「国民たすけあい」の精神を基に始められ赤い羽根共同募金運動は、民間社会福祉事業の経済的基礎を確立する上で大きく貢献してきた。

70年以上過ぎた今でも、共同募金にお寄せいただく皆様の善意は、民間社会福祉施設や団体にとって貴重な活動財源になっており、毎年10月1日から各都道府県共同募金会が主体となって全国一斉に展開される共同募金運動に積極的に協力している。

お寄せいただいた募金は、長野県共同募金会へいったん集約され、配分決定のあった民間社会福祉施設、団体に翌年度配分される。

令和2年度募金総額 26,611,667円(目標額 24,581,000円)

内訳	戸別募金	24,033,552円
	法人募金	1,507,297円
	学校募金	268,548円
	職域募金	202,820円
	街頭募金	570,612円
	その他	28,838円

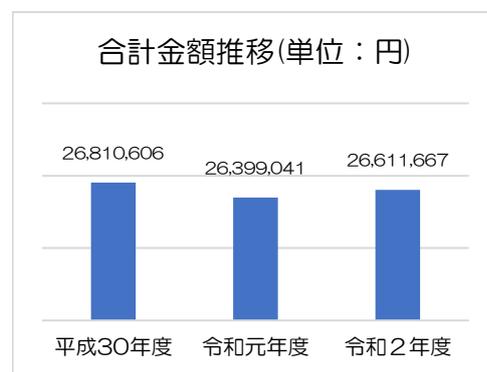


(1) 令和2年度内訳 (単位：円)

	上田地区	丸子地区	真田地区	武石地区	合計
戸別募金	16,873,031	4,201,556	1,999,465	948,950	24,033,552
法人募金	1,181,767	266,530	56,000	3,000	1,507,297
学校募金	208,998	34,652	15,522	3,664	268,548
職域募金	132,745	44,470	21,947	7,793	202,820
街頭募金	492,860	48,625	19,356	5,861	570,612
その他	8,838	20,000	0	0	28,838
合計	18,898,239	4,615,833	2,112,290	969,268	26,611,667

(2) 合計推移 (単位：円)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
戸別募金	24,329,806	23,826,167	24,033,552
法人募金	1,534,725	1,599,416	1,507,297
学校募金	291,716	259,095	268,548
職域募金	129,400	158,510	202,820
街頭募金	476,673	510,167	570,612
その他	48,286	45,686	28,838
合計	26,810,606	26,399,041	26,611,667



上田地区共同募金配分金事業

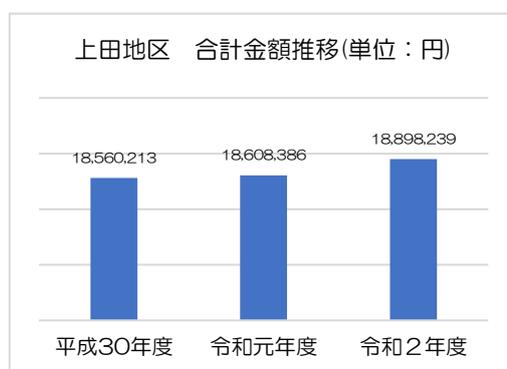
【令和2年度事業費】 11,064 千円

(上田共募高齢者 1,535 千円、上田共募障がい児・者 580 千円、上田共募児童・青少年 1,618 千円、上田共募住民全般 6,745 千円、共募広域福祉活動事業 110 千円)

事業実績

(1) 経年推移 (単位：円)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
戸別募金	16,679,953	16,650,761	16,873,031
法人募金	1,166,430	1,211,055	1,181,767
学校募金	209,918	196,849	208,998
職域募金	76,809	99,141	132,745
街頭募金	413,817	438,994	492,860
その他	13,286	11,586	8,838
合計	18,560,213	18,608,386	18,898,239



丸子地区共同募金配分金事業

【令和2年度事業費】 3,610 千円

(丸子共募高齢者 285 千円、丸子共募障がい児・者 350 千円、丸子共募児童・青少年 559 千円、丸子共募住民全般 1,918 千円)

事業実績			
(1) 経年推移 (単位:円)			
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
戸別募金	4,683,593	4,192,632	4,201,556
法人募金	300,295	319,861	266,530
学校募金	50,116	37,298	34,652
職域募金	27,389	25,241	44,470
街頭募金	42,088	51,577	48,625
その他	35,000	34,100	20,000
合計	5,138,481	4,660,709	4,615,833

丸子地区 合計金額推移(単位:円)

年度	合計金額(円)
平成30年度	5,138,481
令和元年度	4,660,709
令和2年度	4,615,833

真田地区共同募金配分金事業

【令和2年度事業費】 1,577 千円

(真田共募高齢者 130 千円、真田共募障がい児・者 75 千円、真田共募児童・青少年 300 千円、真田共募住民全般 1,073 千円)

事業実績			
(1) 経年推移 (単位:円)			
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
戸別募金	2,029,650	2,033,824	1,999,465
法人募金	65,000	65,500	56,000
学校募金	29,386	21,284	15,522
職域募金	15,535	26,335	21,947
街頭募金	14,118	13,735	19,356
その他	0	0	0
合計	2,153,689	2,160,678	2,112,290

真田地区 合計金額推移(単位:円)

年度	合計金額(円)
平成30年度	2,153,689
令和元年度	2,160,678
令和2年度	2,112,290

武石地区共同募金配分金事業

【令和2年度事業費】 754千円

(武石共募高齢者 230千円、武石共募障がい児・者 32千円、武石共募児童・青少年 75千円、
武石共募住民全般 426千円)

事業実績			
(1) 経年推移(単位:円)			
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
戸別募金	936,610	948,950	959,500
法人募金	3,000	3,000	3,000
学校募金	2,296	3,664	2,951
職域募金	9,667	7,793	6,249
街頭募金	6,650	5,861	13,605
その他	0	0	0
合計	958,223	969,268	985,305

武石地区 合計金額推移(単位:円)

年度	合計金額
平成30年度	958,223
令和元年度	969,268
令和2年度	985,305

共同募金配分金事業 評価・課題
<p>赤い羽根共同募金は、新型コロナウイルス感染症状況下であっても、地域や人との「つながりをたやさない社会づくり～あなたは一人じゃない～」をテーマに実施した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年行っている街頭募金運動が行えないなどの変化や対応が必要となった。募金運動を行っていただく方、募金をして下さる方、募金運動に協力して下さる方々への新型コロナウイルス感染症予防に留意し、また、共同募金の使用用途を理解していただけるよう、分かりやすいチラシ作りや事業の広報(地元紙掲載等)、PRに努めた。</p> <p>目標額には達成したものの募金実績額は減少の一途をたどっている状況のなか、上田、武石の2地区では若干ではあるが、令和元年度の各地区募金実績よりも上回ることができ、上田市共同募金委員会としても令和元年度を上回ることができた。</p> <p>共同募金の配分金が何に使われているのかの周知と「見える化」をより進めていく必要がある。</p> <p>配分で助成している福祉普及校事業だが、本来の趣旨にそぐわないものに使用されることもあり引き続き、福祉教育や福祉普及校事業担当者と連携し、赤い羽根共同募金の趣旨に見合う取組をしていただけるよう呼びかけていきたい。また、配分団体においても、同様に共同募金の趣旨を理解し活動し、共同募金の配分を使って事業を行っていることを周知していただくよう再三依頼していきたい。</p> <p>原点に立ち返り、なぜ赤い羽根共同募金が必要なのか、引き続き地域の皆様に、募金活動の趣旨や募金の使用用途の周知、御理解いただけるような方法等を検討していきたい。</p>

その他(児童福祉事業)

共同募金配分金事業



事業実績	
(1) 上田地区センター	ア 子育て中の親を対象に、交流の場づくりとリフレッシュ、子育てに関わる学習会を目的とした事業 (ア) 子育て支援事業 ・親子で参加♪ 健康な足を育てよう講座 令和2年 9月13日(日) 参加者 9人 ・親子で参加♪ パネルシアター&バランスボール! 令和3年 3月7日(日) 参加者 14人
(2) 丸子地区センター	ア 親子教室 コロナ禍のため中止 イ ママカフェ 5回開催 参加者1組 ウ 託児サポーター養成講座 1回開催 参加者1人(新規)
評価・課題	
(1) 上田地区センター	上田地区共同募金会配分審査委員会にて審査委員から児童や住民にも目を向けた事業を行ってほしいと提案があり、始まった事業である。いずれも、赤い羽根共同募金の配分金を活用し行っている。課題としては、多くの住民の方が気軽に参加でき、長く続けて行かれるようなプログラム作りが必要となるので、今後の開催の仕方や周知方法を検討していく。
(2) 丸子地区センター	コロナ禍のため、計画されていた親子教室が中止になった。参加希望が多かったため、また企画したい。ママカフェの中止が相次いでしまったため、再開した旨を広報などで周知を行うとともに、ママカフェ内で簡単にできる工作などを検討していきたい。

その他(高齢者事業)

共同募金配分金事業



事業実績	
(1) 上田地区センター	ア 紙おむつ配布事業 民生委員・児童委員の協力を得て、在宅介護支援の一環として在宅で寝たきりの方、認知症高齢者、障がい者の方、必要としている方を対象に紙おむつまたは尿取りパッドを贈呈している。 (ア) 実施内容 11月に民生委員・児童委員定例会にて調査票の配布・依頼、12月の民生委員・児童

委員定例会にて調査票回収、翌年2月の民生委員・児童委員定例会にて配布、本人宅にお届けいただいている。

(イ) 対象者

在宅で生活している寝たきりの方、認知症高齢者、障がい者の方、また、紙おむつや尿取りパッドを頻繁に利用している方

(ウ) 令和2年度紙おむつ贈呈数

パンツタイプ 640人、テープ止めタイプ 86人、尿取りパッド 183人 合計 909人

イ サロン支援事業

上田市ふれあい福祉センターを地域の資源として活用し、周辺自治会のサロン開催につながることで、赤い羽根共同募金の配分金を地域の全世代の皆様へ還元できるよう体操教室を開催。また、こんな時期だからこそ、体を動かし気持ちもスッキリし新年度を迎えらるよう実施

(ア) 今だから体を動かそう！教室

- ・3月5日（金）転ばぬ先の体操教室 参加者 10人
- ・3月13日（土）セラバンド体操教室 参加者 11人
- ・3月19日（金）セラバンド体操教室 参加者 12人



セラバンド体操教室の様子

(2) 丸子地区センター

ア みまもり（声かけ）訪問事業

丸子地区では少子高齢化、核家族化社会の中で、独りでの暮らしや健康に不安をかかえている高齢者世帯が住み慣れた地域で孤立することなく、安心して暮らすことができるようボランティアによる、みまもり声かけ訪問を行った。

(ア) 実施内容

登録ボランティアが月2回程度利用者宅を訪問し、玄関先や軒先で日常の話をお聞きした。訪問時にはお便りなどを届けているがコロナ禍のため4月11日から6月7日まで活動を休止した。休止期間中は電話やお便りで対応し、その後は感染症予防を行い活動を再開した。

(イ) 対象者

65歳以上の方のみの世帯または同居されていても日中独りになる方で介護保険サービスを利用されていない方（登録利用者4人）

(ウ) 協力者

みまもり（声かけ）訪問事業登録ボランティア（登録25人）

イ みまもり（声かけ）訪問実績（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
訪問件数	1	0	6	7	7	6	
訪問ボランティア	2	0	12	14	14	12	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問件数	6	8	8	8	8	8	73
訪問ボランティア	12	16	10	16	14	16	138

(3) 武石地区センター

ア 高齢者弁当宅配事業

民生委員・児童委員の協力を得て75歳以上の独り暮らしの方を対象に季節感のあふれる弁当を配ることで独り暮らしの中に生活の楽しさを味わってもらうことを目的に実施した。

(ア) 実施日：12月16日（水）

(イ) 配食数：92食

(ウ) 料 金：無料

評価・課題

(1) 上田地区センター

上田地区の独自事業である「紙おむつ贈呈事業」は、在宅介護を地域で支えるために、地域のつながりを作り支援するという目的もあり、地域の民生委員・児童委員の御協力をいただき、行っている。上田地区では、歴史ある事業の一つであるが、民生委員・児童委員の皆様からも賛否両論あり、ここ数年、紙おむつに代わるものを検討しているが、なかなか代替案が見つからない。また、配布を受けている方々の中には、待っておられる方もいるので、さまざまなことを考慮しつつ、引き続き事業内容を検討していきたい。

サロン支援事業は、上田地区共同募金会配分審査委員会にて審査委員から住民にも目を向けた事業を行ってほしいと提案があり、始まった事業で4年目を迎えた。新型コロナウイルス感染症予防に十分留意しての開催を行った。土曜日も開催し、働く世代の方々にも参加しやすいよう配慮したが、若い世代の参加は少なかった。参加者からは好評で、定期的開催してほしい等の意見を多くいただいた。幅広い世代の方が目に触れるような広報、参加しやすい周知や参加したくなるような内容を取り入れていくとともに、共同募金の配分金が身近なところで自分たちに還元されているということの認知と、共同募金への協力の一助となるよう進めていきたい。

(2) 丸子地区センター

丸子地区の独自事業である「みまもり（声かけ）訪問事業」は、地域住民のボランティアによって支えられてきた。登録されている利用者は自宅に引きこもりがちな方で地域との関わりが薄い方達である。「地域コミュニティ」の中で孤立しないよう、関係機関と連携して利用者を把握していきたい。今後も待ち望んでいる高齢者が多いので、感染症予防をして継続していきたい。

(3) 武石地区センター

高齢者サロンは、武石公民館の改築やコロナ禍の中で、場所や時間などにより利用が減少した。高齢者サロンは継続した事業であり、体操・講演・小物作り等を今後も進めていく。

団体事業の育成 共同募金配分金事業



【事業概要】

各種福祉団体事業を推進するため、協力費として活動費を助成し、団体育成に努めている。

事業実績			
(1) 上田地区 活動費助成団体 (単位：円)			
団体名	助成金額	団体名	助成金額
上田地域福寿クラブ連合会	200,000	モチーフの会	55,000
上田市身体障害者福祉協会	250,000	うえだ市民ふれあい広場実行委員会	70,000
上田市赤十字奉仕団	80,000	上田地区更生保護女性会	90,000
上田ボランティア連絡協議会	70,000	上田市子ども会育成連絡協議会	70,000
上田市視覚障害者福祉協会	80,000	シルバーバックの会	120,000
上田市聴覚障害者協会	90,000	チャイルドラインうえだ運営委員会	150,000
上田地区保護司会	100,000	点訳サークルでんでん虫の会	50,000
豊殿地区循環バス運営委員会	250,000	上田肢体不自由児者父母の会	30,000
上小手話サークル	80,000	NPO 法人子育て応援団ぱれっと	60,000
絵手紙サークルひまわり	38,000	合計 19 団体	1,933,000
(2) 丸子地区 活動費助成団体 (単位：円)			
団体名	助成金額	団体名	助成金額
丸子地域高齢者クラブ連合会	285,000	丸子モチーフの会	50,000
丸子身体障害者福祉協会	260,000	上田市食生活改善推進協議会丸子ブロック	30,000
丸子ボランティア連絡協議会	150,000	Eーキャップの会	50,000
傾聴ボランティア・まるこ	80,000	上田市丸子地区赤十字奉仕団	20,000
		合計 8 団体	925,000
(3) 真田地区 活動費助成団体 (単位：円)			
団体名	助成金額	団体名	助成金額
真田町身体障害者福祉協会	30,000	上田市真田地区赤十字奉仕団	30,000
たまたま箱 (パネルシアター)	20,000	大福会 (茶道普及の会)	20,000
ミミールの会 (民話紙芝居)	15,000	上田市真田地域食生活改善推進協議会	30,000
真田地域ボランティア連絡協議会	70,000	ふれあい広場実行委員会	70,000
真田モチーフの会	20,000	おとぎの会 (紙芝居)	10,000
ほこほコネクト (青色回転灯パトロール)	10,000	さなだ支え合い会議 (よろず講演会)	10,000
グリュックの会 (こども食堂)	10,000	合計 13 団体	405,000

(4) 武石地区 活動費助成団体 (単位：円)			
団体名	助成金額	団体名	助成金額
武石高齢者クラブ連合会	80,000	武石身体障害者福祉協会	20,000
もみじ会	40,000	武石ボランティア連絡協議会	10,000
更生保護女性会武石支部	10,000	合計 5 団体	160,000

(5) 上田市全域 活動費助成団体 (単位：円)			
団体名	助成金額	団体名	助成金額
上田市自治会連合会	241,000	上田市民生委員・児童委員協議会	333,000
		合計 2 団体	574,000

3 1 地域包括支援センター事業(市受託事業)

【事業概要】

専門職の看護師、社会福祉士、主任介護支援専門員が配置され、地域の高齢者を中心に全ての地区住民が、住み慣れた地域で安心して生活を送っていただくことを目的とし、地域福祉の拠点となるよう事業を実施している。

- (1) 高齢者の実態把握及び介護予防支援計画、介護予防ケアマネジメント支援計画の作成
- (2) 高齢者や家族、地域住民等に対する総合的相談及び支援
- (3) 高齢者虐待防止及び早期発見、消費者被害防止等の権利擁護事業
- (4) 支援困難ケースへの対応など介護支援専門員への支援
- (5) 高齢者の社会参加や自立支援を促進するための地域活動への支援・啓発
- (6) 生活支援体制整備事業におけるコーディネート業務

神川地域包括支援センター事業

【令和 2 年度事業費】 28,348 千円

事業実績
(1) 相談内容・人数(電話・来所・訪問) ※ 別表参照
(2) 事業内容 ※別表参照
(3) その他 ア コロナ禍においても感染症対策を行いながら、地域リハビリテーション活動支援事業の推進と活動拠点の定着を図り、住民の皆さんの生きがい活動の増進と健康寿命の延伸に役立てていただくことができた。(14 地域で実施/中止含む。) イ 介護予防地域支援事業として、地域住民の健康と介護予防を目的に講座を開催した。(実施 1 自治会、中止 6 自治会)

ウ 認知症の正しい理解をしていただき地域での見守り活動へつなげてもらうために、地元中学校や地域住民を対象に認知症サポーター養成講座を計画した。新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い中止となったが、日々の訪問活動等において相談対応や啓発に努めた。(中止3回)

また、軽度認知障害の早期発見と適切な支援につなげるため、「あたまの健康チェック」システムを活用し、その予防と対応に努めた。(検査実施4件)

エ 地域の介護支援専門員(ケアマネジャー)が抱える困難な事例についての支援・アドバイスをはじめ、研修会の実施やネットワーク作り等、要支援・要介護高齢者等を支えるケアマネジャーの支援に努めた。(研修会実施1回、その他ケースに応じて対応)

オ 担当区域の民生委員・児童委員会定例会に出席し、地域包括支援センターの活動内容の紹介と支援のための関係づくりに努めた。

カ 地域ケア会議(個別・推進)として、地域包括ケアシステム構築の推進を目的に開催を計画し、コロナ禍に伴い中止となった。地域包括支援センター業務を通して、さまざまな課題が浮き彫りとなり、会議実施の有無に関わらず権利擁護業務や包括的・継続的ケアマネジメント支援機能等を活用しながら、課題解決に向けて取り組んだ。すぐには解決できない課題も多く、今後もさまざまな働きかけを行うとともに、連携のためのネットワークを構築していく必要がある。

キ 福祉教育の一環として、福祉推進委員連絡協議会や自治会役員会等、地域に出向き、地域福祉推進の取組をはじめ地域包括ケアシステム並びに地域包括支援センターの役割について説明し協力を求めた。

ク 実態把握調査を実施し、その後のニーズに対して連携を図りながら円滑に支援が行えるよう取り組んだ。

ケ コロナ禍においてもオンライン機能等を活用しながら各種研修会に参加し、自己研鑽に努めた。

コ 夜間、休日等、勤務時間外は携帯電話にて24時間緊急対応体制を取り対応を行った。

サ 「神川包括だより」を発行し、地域包括ケアシステムにおける地域包括支援センターの役割や健康寿命の延伸のための取組をはじめ、地域の中での見守り体制の構築や住民主体の福祉活動の推進、高齢者虐待の早期発見・防止のための取組、成年後見制度等の活用等、高齢者の方々が住み慣れた地域で安心して暮らしていくために必要な取組の啓発や情報提供に努めた。(年4回 自治会回覧)

シ 生活支援体制整備事業においては、生活支援コーディネーターを配置し、第2層協議体の設置・連携を図りながら住民主体の介護予防・生活支援サービス等の実施に向けた啓発や調査等に取り組んだ。特に隣接する生活圏域の3地域包括支援センターと協働し、住民主体の取組活動への支援を目的に「地域づくり講座」を開催した。(第2層協議体10回、地域づくり講座2回)

ス 地域密着型施設の運営推進会議に出席し(書面会議含む。)、利用者が安心して利用できるようサービス向上への取組に努めた。(8施設)

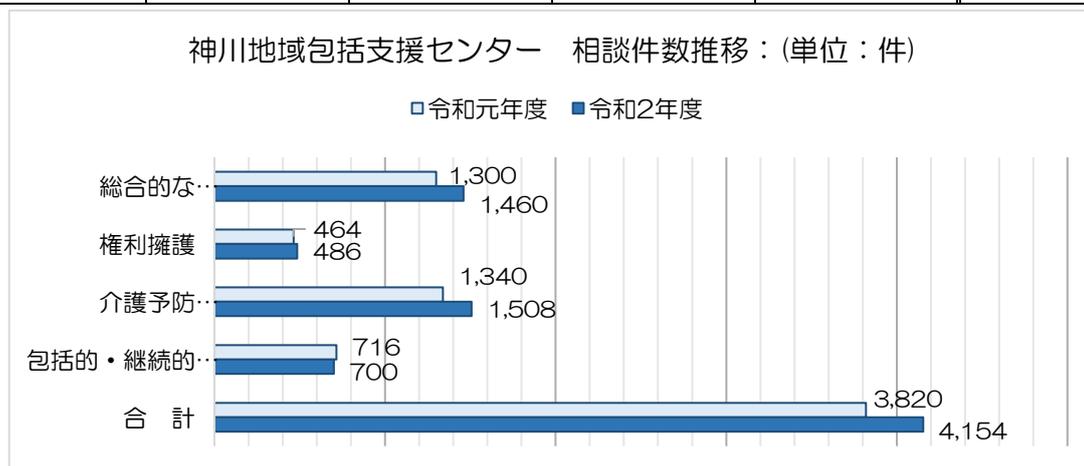
セ 看護学生並びに社会福祉士等の医療・福祉の国家資格取得を目指す実習生の受け入れ

を行い、これからの地域福祉・医療の支え手となる人材育成に協力した。

別表

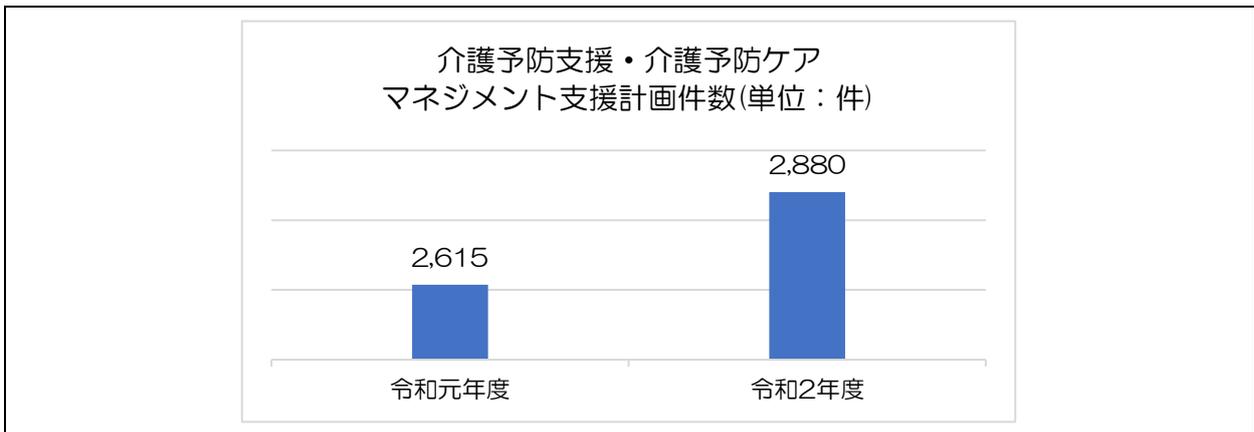
(1) 相談件数の推移 (単位：件)

	総合的な 相談・支援	権利擁護	介護予防 ケアマネジメント	包括的・継続的 ケアマネジメント	合 計
令和元年度	1,300	464	1,340	716	3,820
令和2年度	1,460	486	1,508	700	4,154



(2) 事業内容

	回数	内容
夜間緊急相談実績回数	124	介護保険について、介護相談等
介護予防活動講演、実技等	23	地域リハビリテーション、健康広場、いきいきサロン、ふれあい事業、茶話会等
会議・研修等	103	民生委員・児童委員会、地域包括担当者会議、県・市主催の研修会、各施設運営推進会議等
医療・関係機関との連携	132	認知症高齢者や精神疾患を抱える方、個別事例に対する入退院支援、医療機関から在宅へ向けての支援、高齢者虐待等における行政・警察・成年後見・関係機関等との連携、その他連携
介護支援員専門員に対する支援	7	支援困難ケースへの対応・支援、研修会の開催
高齢者実態把握	128	新規相談者並びに民生委員・児童委員からの台帳による訪問
介護予防プラン作成件数	3	生活支援型ヘルパー、配食サービス、訪問指導
介護予防支援・介護予防ケアマネジメント支援計画件数	2,880	事業対象者並びに要支援1・要支援2の認定を受けた高齢者に対する介護予防支援計画の作成・サービス調整等



評価・課題

- (1) 地域包括支援センターの核となる総合相談支援業務においては、地域からのさまざまな相談に対して、可能な限り適切に対応できるよう3職種並びに関係機関との連携を図りながら迅速に取り組んだ。特に増加する新規相談においては、早期訪問・早期対応の中で課題解決を図るとともに、コロナ禍における活動量低下に伴うフレイル状態を予防するため、広報紙の活用と同時に、必要な介護予防サービス等につなげるなど適切な対応に努めることができた。
- (2) 実体把握においては、おひとり暮らし台帳等からの計画的な調査実行は難しかったものの、新たな相談にニーズに対して包括内、並びに関係機関との連携を図りながら円滑に支援が行えるよう取り組んだ。
- (3) 地域リハビリテーション等の機会を活用し、住民の方から直接お話をお聞きし、訪問時には地域の特徴をお聞きしながら地域の実態把握に取り組んだ。
- (4) 相談件数の増加及び相談内容の深刻化、複雑化に対して、特に介護予防ケアマネジメント支援の効率的な運用が求められており、今後は一部委託制度を積極的に活用し負担軽減を図り、さまざまなニーズに対して適切に対応していく必要がある。
- (5) 全体として、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、会議の開催や地域に出向いての活動に制限が生じたが、日々の生活を支えるために必要な相談ニーズにおいては感染対策を行い、直接的な訪問支援を行ってきた。コロナ禍の影響に起因すると思われる認知症状の進行をはじめ、高齢者虐待や特殊詐欺など消費者被害等の権利侵害も発生しており、今後も地域包括支援センター業務機能やネットワーク機能を最大限活用しながら対応していく必要がある。

丸子地域包括支援センター事業(市受託事業)

【令和2年度事業費】 29,642千円

事業実績
(1) 相談内容・人数(電話・来所・訪問) ※ 別表参照

(2) 事業内容 ※ 別表参照

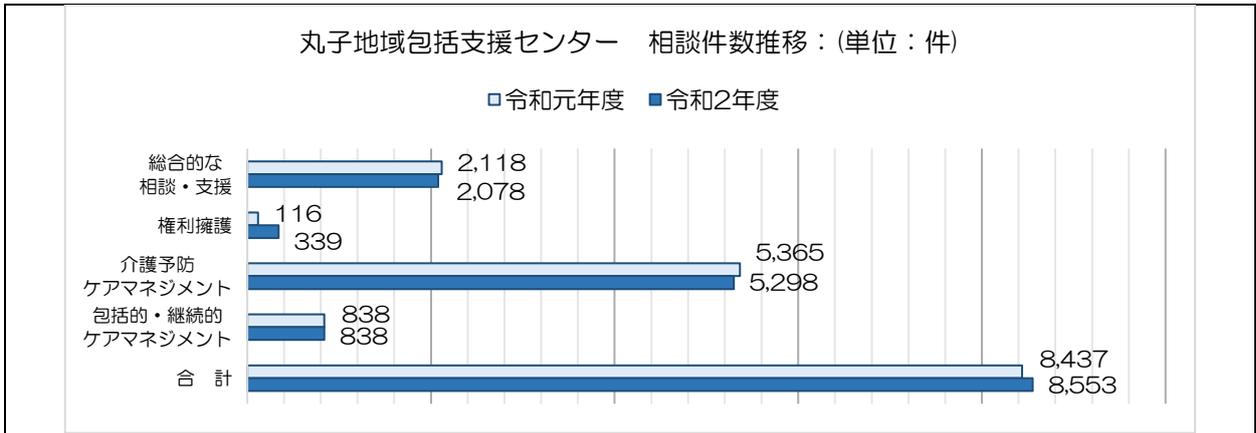
(3) その他

- ア 地域リハビリテーション事業の推進を図り、令和2年度は新たに2か所で事業が始まり、28か所で開催した。
- イ 高齢者が増えていく中で、認知症の正しい理解をしてもらうために高校生を対象に認知症サポーター養成講座を開き、啓発活動を行った。(1回)
- ウ 来所、電話等での新規相談が多く、必要に応じサービスや関係機関につなげた。特に緊急性のあるケースも多く依頼あり、特に癌末期などターミナルケアの緊急対応依頼があり、早期対応に努めた。
- エ 支援困難ケースも多く、関係機関と連携を図りながら対応した。
- オ 高齢者世帯・おひとり暮らし台帳をもとに実態把握を行った。
- カ コロナ禍にて制限もあったが可能な限り各種研修会に参加し自己研鑽に努めた。
- キ 勤務時間外は携帯電話による24時間緊急体制を取り対応を行った。時間外の電話対応件数が増えてきている。
- ク 民生委員・児童委員協議会に出席し、地域包括支援センターの活動内容の紹介と関係づくりに努めた。
- ケ 地域ケア個別会議(6回)を開催し、地域包括ケアシステム構築の推進に努めた。地域ケア推進会議は開催に向け準備を行ったが中止となった。
- コ 丸子地域における地域密着型サービス事業所の運営推進会議に出席し、利用者が安心して利用できるようサービス向上への取組に努めた。
- サ 生活支援体制整備事業においては、生活支援コーディネーターを配置し、第2層協議体の設置・連携を図りながら住民主体の介護予防・生活支援サービス等の実施に向けた啓発や調査等に取り組んだ。令和2年度は、地域サロン立ち上げ支援に関わった。(1か所)
- シ 看護学生の実習受け入れを行い、人材育成に協力した。
- ス 年3回(6、10、2月)「地域包括支援センター便り」を発行しコロナ禍でできるフレイル予防、特殊詐欺、感染症対策と人とのつながり等を記載した。また、特殊詐欺被害を防ぐための啓発活動、自分たちの地域での取組を紹介し、地域の支え合い、自分にできることは何かを考えるきっかけとした。

別表

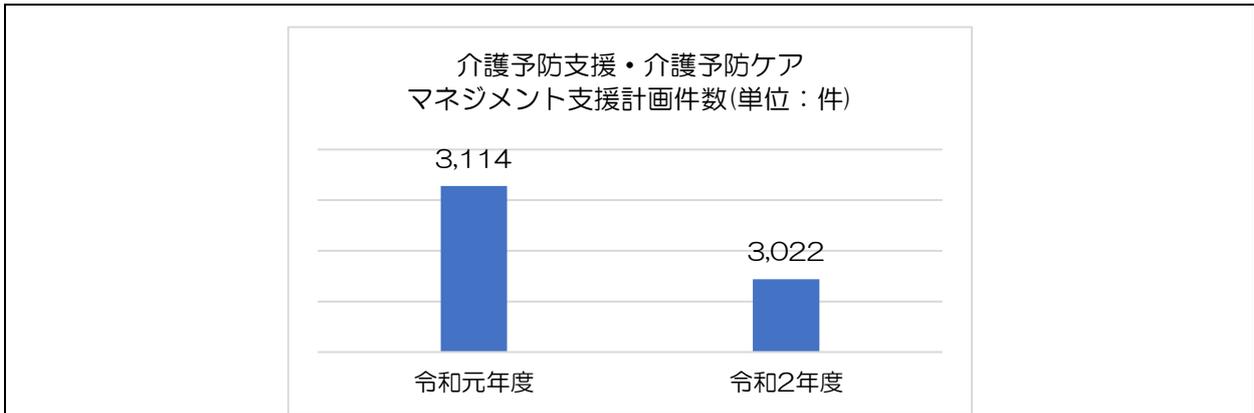
(1) 相談件数の推移 (単位: 件)

	総合的な 相談・支援	権利擁護	介護予防 ケアマネジメント	包括的・継続的 ケアマネジメント	合計
令和元年度	2,118	116	5,365	838	8,437
令和2年度	2,078	339	5,298	838	8,553



(2) 事業内容

	回数	内容
夜間緊急相談実績回数	259	介護相談、虐待相談、支援困難ケース対応、配食業者からの連絡対応等、勤務時間外は24時間携帯電話による緊急体制を取り対応したが、時間外の連絡が増えている。
介護予防活動講演、実技等	32	<ul style="list-style-type: none"> ・地域サロン・地域リハビリテーションに出向き、介護予防や居場所作り等の啓発活動を行い地域の課題把握に努めた。 ・認知症の正しい理解を深めてもらうため、認知症サポーター養成講座3回実施した。(中学生・高齢者対象)
会議・研修等	238	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括担当者会議、介護保険運営協議会、地域密着型サービス運営推進会議、県・市主催の研修等に参加し、関係機関と状況共有した。 ・民生委員・児童委員協議会にて包括の活動内容を紹介し、関係作りに努めた。
医療・関係機関との連携	358	退院調整会議、ケースカンファレンス、行政機関や関係機関との訪問や会議に参加し、連携を図り対応した。
介護支援員専門員に対する支援	25	居宅・施設からの相談や支援困難ケースが増えており、関係機関と連携を図り対応した。
高齢者実態把握	129	民生・児童委員からの独居台帳をもとにおこなうが、相談業務が多く思うように訪問ができなかった。
介護予防プラン作成件数	16	生活支援型ヘルパー、配食サービス、生きがい対応型デイサービスのプラン作成
介護予防支援・介護予防ケアマネジメント支援計画件数	3,022	事業対象者・要支援1・要支援2



評価・課題

- (1) 地域が広範囲にわたり、高齢者人口も多い丸子地域で、地域からのさまざまな日々の相談や、ケアマネジャー、市からの困難なケースへの対応依頼も増えており、関係機関との連携を図り迅速・丁寧な対応に努めた。
- (2) 新規相談やターミナルケアなどの急な依頼も多く相談業務に追われて、高齢者世帯・おひとり暮らし台帳をもとにした訪問や実態把握は十分に実施できなかった。コロナ禍であり、感染対策に十分配慮し、できる限りの訪問を行った。
- (3) コロナ禍にて中止となったが、丸子・武石地域包括支援センター合同の地域ケア会議の開催を予定、「自分にできることは何か」を話し合い、地域課題の把握や住民同士の支え合いで何ができるかを考えていただく機会となるように検討した。できる限り地域リハビリ等へ出向き、関係作りを行ってきた。サロンの立ち上げにも関わることができた。

真田地域包括支援センター事業(市受託事業)

【令和2年度事業費】 25,051 千円

事業実績

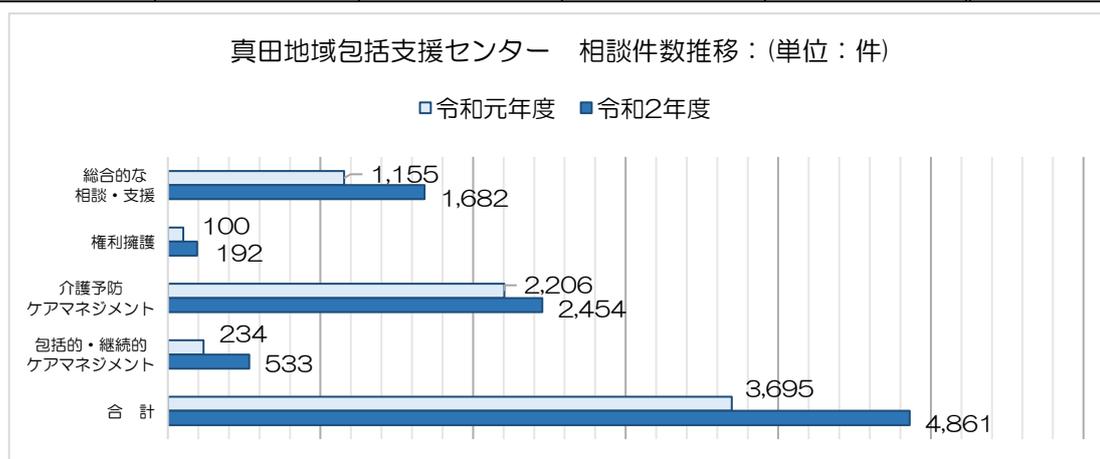
- (1) 相談内容・人数（電話・来所・訪問）
※別表参照
- (2) 事業内容 ※別表参照
- (3) その他
 - ア 地域リハビリテーション事業の新規立ち上げに向け地域のサロン等で事業の広報活動に努めた。コロナ禍でも開催できる方法を助言し活動の継続に努めた（9カ所開催、うち2カ所新規）
 - イ 認知症の正しい理解をしてもらうため、認知症サポーター養成講座を開催した。小学生、民生委員・児童委員等、幅広い世代を対象に講座を開催することができた。（2回開催 70人参加）
 - ウ 地域ケア会議を開催し、地域包括ケアシステム構築の推進に努めた。（7回開催）
 - エ 真田地域包括支援センター独自事業として、運動教室～笑顔で元気～を開催し介護予

- 防の推進と自立支援に努めた。男性の料理教室は企画し打ち合わせを行っていたがコロナ禍により開催できなかった。(運動教室：9回開催 53人参加)
- オ いきいきサロン等に参加し、介護予防・特殊詐欺防止の啓発と地域包括ケアシステムについて講座を開催した。
- カ 民生委員・児童委員協議会に出席し、包括支援センターの活動内容の紹介と支援のための関係づくりに努めた。
- キ 真田地域における地域密着型施設の運営推進会議はコロナ禍により中止となったが、書面による情報共有や意見交換を適宜行った。
- ク 看護学生の実習受け入れを行い、人材育成に協力した。
- ケ 独居・高齢者世帯・認知症高齢者が増えている中、地域からの相談件数が増加している。関係機関とも連携を図り迅速な対応に心掛けた。
- コ 真田地域全自治会に回覧配布されている「真田生き生きふるさと通信」の1ページに年2回「包括支援センター便り」を掲載し、センターの活動や介護予防に関する広報活動に努めた。
- サ 各種研修会に参加し自己研鑽に努めた。
- シ 生活支援体制整備事業においては、生活支援コーディネーターを主に第2層協議体を開催し住民主体の介護予防・生活支援サービス等の実施に向けた啓発や調査等に取り組んだ。
- ス 勤務時間外は携帯電話にて24時間緊急対応体制を取り対応を行った。

別表

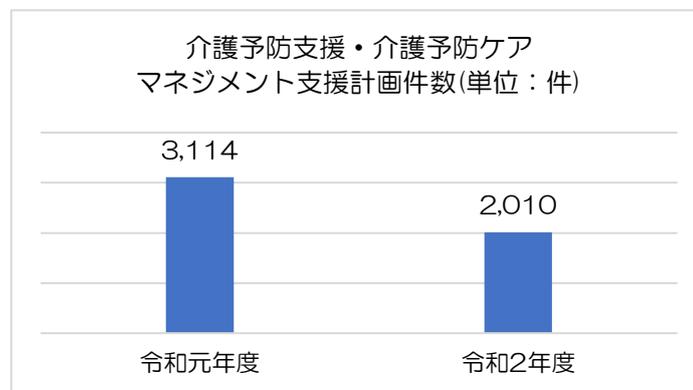
(1) 相談件数の推移 (単位：件)

	総合的な 相談・支援	権利擁護	介護予防 ケアマネジメント	包括的・継続的 ケアマネジメント	合 計
令和元年度	1,155	100	2,206	234	3,695
令和2年度	1,682	192	2,454	533	4,861



(2) 事業内容

	回数	内容
夜間緊急相談実績回数	78	介護保険について、介護相談等
介護予防活動講演、実技等	57	いきいきサロン、ふれあい広場、地域リハビリテーション、運動教室（笑顔で元気）、認知症サポーター養成講座等
会議・研修等	142	民生委員・児童委員協議会、地域包括担当者会議、県・市主催の研修会、各施設運営推進会議等
医療・関係機関との連携	404	個別事例に対するサービス担当者会議開催支援、医療機関から在宅へ向けての支援（認知症独居高齢者の退院の支援について等）高齢者虐待等における行政・警察・成年後見・関係機関等との連携、その他の連携
介護支援員専門員に対する支援	5	支援困難ケースへの対応・支援、研修会の開催
高齢者実態把握	83	新規相談者並びに民生委員・児童委員からの台帳により訪問
介護予防プラン作成件数	14	配食サービス、訪問指導
介護予防支援・介護予防ケアマネジメント支援計画件数	2,010	事業対象者・要支援1・要支援2



評価・課題

- (1) 高齢者に対する地域の総合相談窓口として年々相談が増えており、関係機関との連携を図りながら迅速な対応に心がけた。相談内容では、介護予防ケアマネジメント件数の増加に伴い相談件数も増えているほか、認知症や虐待等、権利擁護に関する相談や地域の介護支援専門員からの支援困難ケースに関する相談が増えており、3職種並びに行政や医療機関等、各関係機関との連携を今後も図りながら対応していきたい。
- (2) 新規相談が増えており、独居・高齢者台帳に基づいた実態把握訪問が十分に行えなかった。支援を必要としている人の早期発見、地域住民のニーズ把握のため今後努力したい。真田包括独自事業として年1回開催している「男性の料理教室」は、調整をしたがコロ

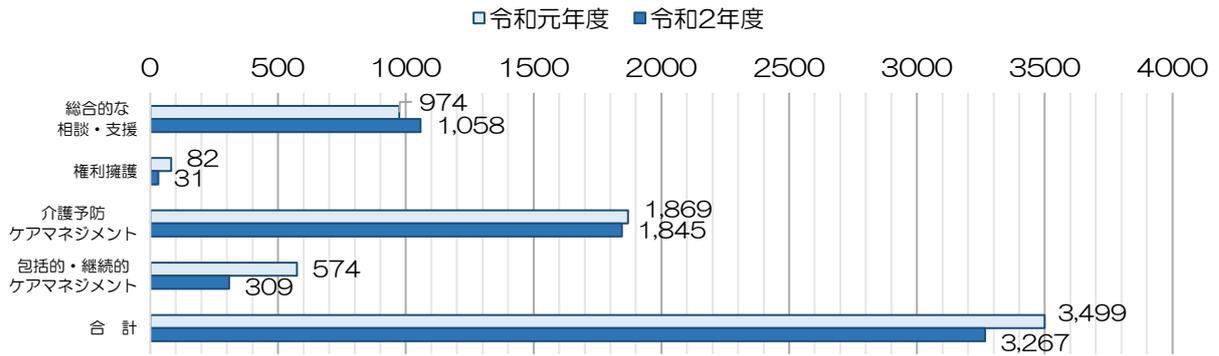
ナ禍により開催できなかった。昨年実施した際のアンケートから、教室を継続してほしいという意見が多く、また、独居世帯の増加や高齢者世帯における男性の介護者が増えている現状から今後も地域高齢者の介護予防・自立支援に向けた支援を提供していきたい。

武石地域包括支援センター事業(市受託事業)

【令和2年度事業費】 24,308千円

事業実績					
(1) 相談内容・人数(電話・来所・訪問) ※ 別表参照					
(2) 事業内容 ※ 別表参照					
(3) その他					
ア 武石地域6か所、丸子地域9か所の地域リハビリテーションに参加、協力した。					
イ 総合事業の介護予防ケアマネジメントと要支援の人の介護予防支援を行った。					
ウ 市の介護予防体操の運営に協力し、サロンに出向き介護予防の必要性についての啓発活動を毎月行った。(武石地域)					
エ 地域ケア個別会議を1回開催した。					
オ 各種研修会に参加し自己研鑽に努めた。					
カ 看護師実習生の受け入れを行い人材育成に協力した。					
キ 民生委員・児童委員協議会に参加し、地域包括支援センターの活動内容の紹介と事例報告などを行い、連携への協力を求めた。					
ク 勤務時間外は携帯電話にて24時間緊急対応体制を取り対応した。					
ケ 「地域包括支援センターだより」を年3回発行し、認知症の予防や成年後見制度、特殊詐欺の予防等に関する広報活動に務めた。					
コ 生活支援体制整備事業の第2層協議体に14回参加した。					
別表					
(1) 相談件数の推移(単位:件)					
	総合的な 相談・支援	権利擁護	介護予防 ケアマネジメント	包括的・継続的 ケアマネジメント	合計
令和元年度	974	82	1,869	574	3,499
令和2年度	1,058	31	1,845	309	3,267

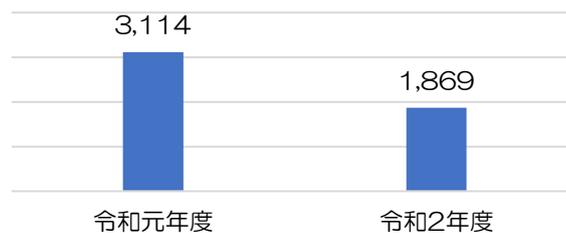
武石地域包括支援センター
相談件数推移：(単位：件)



(2) 事業内容

	回数	内容
夜間緊急相談実績回数	47	介護保険について、介護相談、夜間の入院患者について等
介護予防活動講演、実技等	46	地域リハビリテーション、地域ふれあい事業、サロン、認知症サポーター養成講座開催等
会議、研修等	68	民生委員・児童委員協議会、地域包括担当者会議、包括所長会議、地域ケア会議、県・市主催の研修、生活支援コーディネータ協議体等
医療・関係機関との連携	64	入退院時の医療機関との連携、介護サービス事業所との連携、困難ケースにおける行政や関係機関との連携、
介護支援専門員に対する支援	6	困難支援ケースへの対応・支援
高齢者実態把握	76	民生委員・児童委員からの台帳、当事者・高齢者支援係からの依頼により訪問
介護予防プラン作成件数	10	生配食サービス、生きがい対応型デイサービスのプラン作成、介護予防事業
介護予防支援・介護予防ケアマネジメント支援計画件数	1,869	事業対象者・要支援1・要支援2

介護予防支援・介護予防ケアマネジメント支援計画件数 (単位：件)



評価・課題

- (1) コロナ禍により、訪問や会議の開催、サロンなどの活動に制限があり、十分な活動ができなかった。
- (2) 武石地域において住民のニーズに沿ったサロンの立ち上げに向け、他地域の既存のサロンの視察を行ったが、実際に住民とサロンの立ち上げに向けた課題の共有ができていないため、今後地域ケア推進会議において住民との話し合いの場を設ける必要がある。
- (3) 総合相談業務においては、利用者や、その家族の相談事を十分に聞き、分かりやすく丁寧な説明を行うことができた。市の高齢者支援の職員とも連携して対応することができた。

3 2 通所介護事業

【事業概要】

身体の障がい、虚弱等のため介護が必要な方が日中通所して、日常動作訓練・給食・入浴・レクリエーション等のサービスを受けることにより、心身機能の維持向上を図るとともに、社会的孤立感の解消・介護者の負担軽減を図ることを目的に実施している。

また、日常生活動作、特に立ち上がりや座る動作、階段昇降に使われる下肢筋力を意識して運動するように目的を明確化している。

中央デイサービスセンター事業

【令和2年度事業費】 49,488 千円

事業実績

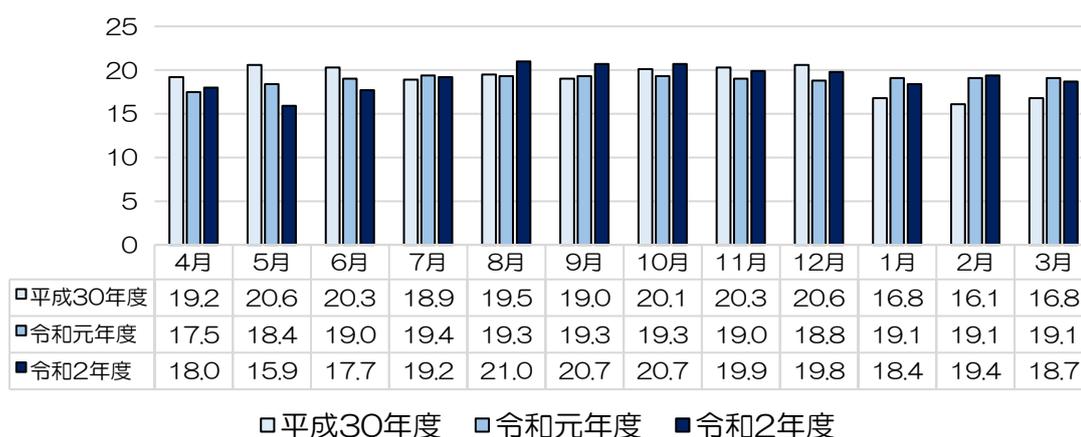
(1) 令和2年度利用者延べ人数(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用者	467	413	459	518	545	538	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者	560	498	515	332	467	506	5,818

(2) 1日平均利用者数(単位：人) ※1日の利用者定員25人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
平成30年度	19.2	20.6	20.3	18.9	19.5	19.0	
令和元年度	17.5	18.4	19.0	19.4	19.3	19.3	
令和2年度	18.0	15.9	17.7	19.2	21.0	20.7	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	利用者平均
平成30年度	20.1	20.3	20.6	16.8	16.1	16.8	19.0
令和元年度	19.3	19.0	18.8	19.1	19.1	19.1	18.9
令和2年度	20.7	19.9	19.8	18.4	19.4	18.7	19.1

中央デイサービスセンター 1日平均利用者数の推移(単位：人)



(3) 関わったボランティアの人数 (単位：人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
0	0	0	0	0	0	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	0	18	2	2	2	24

(4) 主な行事

- ア お花見(ドライブ) 4月4日(土)・15日(水)
- イ 坂城バラ園見学 6月1日(月)～3日(水)
- ウ あじさい見学 6月27日(土)
- エ ラベンダー見学 7月1日(水)・2日(木)
- オ あじさい見学(前山寺) 7月14日(火)・15日(水)・16日(木)
- カ 蓮見学(国分寺) 7月21日(火)・22日(水)
- キ 七夕祭り 8月7日(金)
- ク かき氷作り 8月3日(月)・4日(火)
- ケ 夏祭り 8月18日(火)～19日(水)
- コ 敬老会 9月16日(水)
- サ コスモス見学 10月6日(火)
- シ 運動会 10月19日(月)～21日(水)
- ス 紅葉見学(上田公園) 10月24日(土)・26日(月)・27日(火)・30日(金)
- セ 紅葉見学(諏訪部公園) 11月12日(木)～13日(金)
- ソ お楽しみ会 12月14日(月)～16日(水)
- タ 節分豆まき 2月2日(火)
- チ ひな祭り 3月3日(水)・4日(木)
- ツ お誕生日会 随時

評価・課題

職員一人ひとりが利用者に向き合い、利用者が快適で安心した雰囲気でお過ごせるよう取り

組んできた。また、利用者の心身機能の維持向上のため、個別機能訓練の充実にも努めてきた。そのため利用者やその家族との連絡等も密に図り、利用者の状況把握にも努めた。

課題として、利用者との関わり方や対応にも職員間で温度差があり、意識や情報の共有や統一の部分で不十分なところがあったため、今後は連携を図るためのミーティングなどの機会を増やす等の工夫をしていきたい。また、職員の資質向上に向けた研修も積極的に行いたい。

神川デイサービスセンター事業

【令和2年度事業費】 37,703 千円

事業実績							
(1) 令和2年度利用者延べ人数(単位：人)							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用者	357	336	356	349	333	318	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者	375	383	398	310	337	380	4,232
(2) 1日平均利用者数(単位：人) ※1日の利用者定員25人							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
平成30年度	14.4	13.5	14.1	15.0	15.1	16.1	
令和元年度	15.1	14.8	15.5	16.4	15.9	15.7	
令和2年度	13.7	12.9	13.7	12.9	12.8	12.2	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	利用者平均
平成30年度	16.0	14.3	14.8	15.2	15.0	15.6	14.9
令和元年度	15.8	17.4	17.2	16.7	15.4	14.6	15.9
令和2年度	13.9	15.3	15.3	12.9	12.0	14.0	13.4

神川デイサービスセンター 1日平均利用者数の推移(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	利用者平均
平成30年度	14.4	13.5	14.1	15.0	15.1	16.1	16.0	14.3	14.8	15.2	15.0	15.6	14.9
令和元年度	15.1	14.8	15.5	16.4	15.9	15.7	15.8	17.4	17.2	16.7	15.4	14.4	17.3
令和2年度	13.7	12.9	13.7	12.9	12.8	12.2	13.9	15.3	15.3	12.9	12.0	14.0	13.4

□平成30年度 □令和元年度 ■令和2年度

(3) 関わったボランティアの人数 (単位：人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
2	0	0	0	1	1	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	0	0	0	0	0	5

(4) 主な行事

ア 誕生日会 随時

評価・課題

常に笑顔を意識して利用者に接することができるよう、朝礼で目標を復唱し、利用者が楽しい雰囲気でも過ごせるよう常に心がけ、心がこもったサービスが実施できた。

安全に送迎できるよう、朝礼での目標の復唱や交通安全運動の呼びかけ、職員会議で危険箇所の情報共有を行った。天候による危険やお盆などに増える県外車による危険や工事情報・事故情報などを共有するなど、具体的に安全運転を呼びかけ事故なくできた。

送迎の出発時間直前になり慌てて出かけることもあったため、今後も事故なく事業運営ができるよう、ゆとりを持った運転ができるように取り組んでいく。

武石デイサービスセンター事業

【令和2年度事業費】 53,811 千円

事業実績

開所日数(年間) 359日

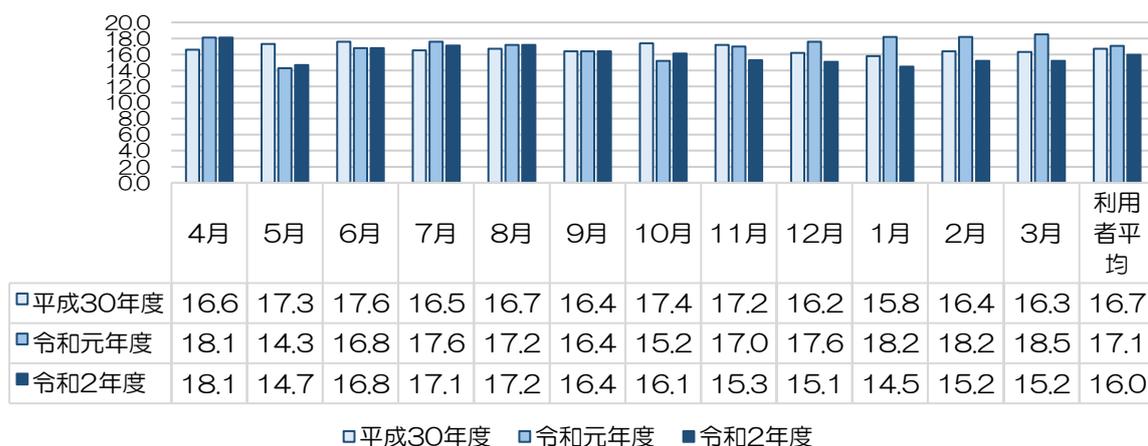
(1) 令和2年度利用者延べ人数(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用者	542	442	505	529	532	491	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者	483	459	453	407	425	440	5,708

(2) 1日平均利用者数(単位：人) ※1日の利用者定員 35人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
平成30年度	16.6	17.3	17.6	16.5	16.7	16.4	
令和元年度	18.1	14.3	16.8	17.6	17.2	16.4	
令和2年度	18.1	14.7	16.8	17.1	17.2	16.4	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	利用者平均
平成30年度	17.4	17.2	16.2	15.8	16.4	16.3	16.7
令和元年度	15.2	17.0	17.6	18.2	18.2	18.5	17.1
令和2年度	16.1	15.3	15.1	14.5	15.2	15.2	16.0

武石デイサービスセンター 1日平均利用者数の推移(単位：人)



(3) 関わったボランティアの人数 (単位：人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
0	0	0	0	0	0	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	0	0	0	2	0	2

(4) 主な行事

ア 施設内

- (ア) おやつ作り 5月7日(木)～6月8日(月)
- (イ) 手づくりな 6月1日(月)～6月28日(日)
- (ウ) 夏のお楽しみ会 8月3日(月)～8月9日(日)
- (エ) パネル作り 7月1日(水)～8月30日(日)
- (オ) おはぎづくり・春・秋 彼岸
- (カ) ミニ運動会 10月3日(土)～10月15日(木)
- (キ) 正月準備 11月11日(水)～12月24日(木)
- (ク) 正月飾り作り 12月10日(木)～12月19日(土)
- (ケ) 節分、豆まき 2月2日(火)
- (コ) 寿司バイキング 2月18日(木)、3月12日(金)
- (サ) ひなまつり 3月3日(水)
- (シ) ぼたもち作り 3月6日(土)～24日(水)

イ 屋外行事

- (ア) お花見 4月 計8回(水仙・花桃)
- (イ) ドライブ(初詣)

ウ 誕生会

毎月1回(該当者 写真贈呈)

エ ボランティア行事 コロナ禍のため、行事を中止することが多かった。

- (ア) chi-ku 竹庵 (手作りプレゼント) 2月1回

評価・課題

サービスの質の確保を図り、利用者に統一したサービスを提供するため、武石地域内で介護保険事業を運営している社会福祉法人依田窪福祉会と、設置者である上田市と、デイサービスセンターの運営について協議を進めてまいりました。指定管理期間満了に伴い、令和3年4月1日から社会福祉法人依田窪福祉会へ移管されることになりました。

3.3 居宅介護支援事業

【事業概要】

可能な限り住み慣れた居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、心身の状況やおかれている環境等に応じた支援をする。地域との連携を図りながら、利用者に適した社会資源の活用や社会参加を勧め、質の高いサービスの提供に努めている。

介護相談センター事業

【令和2年度事業費】 27,980千円

事業実績

(1) 利用者件数(単位：件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月		
155.5	155.5	152.5	154	159	162.5		
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
163	164	158	157	158	153	1892	

(2) 認定調査状況(単位：件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月		
2	0	1	3	3	5		
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
3	5	4	2	3	2	33	

(3) ケアプラン作成状況(単位：件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月		
146.5	146.5	140.5	145	148	152.5		
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
157	156	151	146	151	148	1662	

(4) 介護予防支援受託状況(単位：件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月		
5	5	5	4	4	5		
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
4	4	4	4	4	4	52	

(5) 住宅改修費理由書作成にかかる事務手続状況(単位：件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
0	1	1	1	0	2	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2	1	3	0	0	0	4

(6) 推移(単位：件)

	平成30年	令和元年	令和2年
利用者件数	2,006	1,929	1,892
認定調査状況	52	41	33
ケアプラン作成状況	1,826	1,825	1,662
介護予防支援状況	—	4	4



評価・課題

毎朝のミーティングにて、利用者の情報共有を行い、チーム全体で状況把握を行った。支援困難ケースについては、一人では対応しない等の対策を取った。

本人・家族の病気や不調（新型コロナウイルス感染症等に関わること）、在宅が困難な状況等の時、協力して対応することができた。

令和2年度にアンケートを実施し、90パーセント以上の回収率となった。その中でお褒めの言葉をたくさんいただき、スタッフの励みとなった。また、年間新規件数は令和2年度41件。それ以上に亡くなる方や、施設入所が増えたことが、利用者増につながらなかった。

課題としては、介護支援専門員の担当者数が正規職員は35人以上となるようにしていきたい、収入の安定を図りたい。自然災害や、新型コロナウイルス感染症に注意しながら介護サービス課全体で協力し、業務の継続を図っていく。

神川介護相談センター事業

【令和2年度事業費】 15,920千円

事業実績

(1) 利用者件数(単位：件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
103	101	103	106	103	105	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
103	104.5	100.5	101	99	99	1,228

(2) 認定調査状況(単位：件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
1	0	0	1	1	3	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	2	2	1	0	2	13

(3) ケアプラン作成状況(単位：件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
93	93	92	93	92	90	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
96	96.5	92.5	92	93	93	1,116

(4) 介護予防支援受託状況(単位：件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
2	2	2	2	2	2	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2	1	3	4	4	4	30

(5) 住宅改修費理由書作成にかかる事務手続状況(単位：件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
0	1	1	0	0	0	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	1	1	0	0	1	5

(6) 推移(単位：件)

	平成30年	令和元年	令和2年
利用者件数	1,455	1,313	1,228
認定調査状況	18	20	13
ケアプラン作成状況	1,357	1,517	1116
介護予防支援状況	—	8	30

利用者件数(件)



評価・課題

要介護度1、2の方の件数が約69パーセントを占め、軽度利用の方が多い。また、介護予防の件数は昨年に比べ3倍以上に増えている。

新規の依頼を頂くものの、介護付き有料老人ホーム等施設への入所や入院等も数多くあり、件数としてなかなか増えないのが現状である。

入退院、入退所時において、病院や介護老人保健施設等との連携を図っていくことを進めていたが、表を作成し、実際に連携数を数値で示し目に見えるようにした。

コロナ禍の中、外部研修等に参加することもできずにいたが、今後リモートでの研修等にも参加しながら、職員のスキルアップを目指し、業務を行っていきたい。

丸子介護相談センター事業

【令和2年度事業費】 17,046 千円

事業実績						
(1) 利用者件数(単位：件)						
4月	5月	6月	7月	8月	9月	
98	96	100	103	102	107	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
107	103	104	97	97	104	1,218
(2) 認定調査状況(単位：件)						
4月	5月	6月	7月	8月	9月	
0	1	0	0	1	1	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	1	2	0	1	2	9
(3) ケアプラン作成状況(単位：件)						
4月	5月	6月	7月	8月	9月	
89	89	97	95	93	95	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
105	96	100	96.5	95	104	1,154.5
(4) 介護予防支援受託状況(単位：件)						
4月	5月	6月	7月	8月	9月	
2	2	2	2	2	2	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2	1	2	3	4	4	26
(5) 住宅改修費理由書作成にかかる事務手続状況(単位：件)						
4月	5月	6月	7月	8月	9月	
0	0	1	1	1	2	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	1	0	0	1	1	8
(6) 推移(単位：件)						
	平成30年	令和元年	令和2年			
利用者件数	1,292	1,184	1,218			
認定調査状況	13	11	9			
ケアプラン作成状況	1,252	1,169	52			
介護予防支援状況	—	8	26			

利用者件数 (件)

年度	利用者件数 (件)
平成30年	1,292
令和元年	1,184
令和2年	1,218

評価・課題

令和2年度は、毎月5件強の新規利用者を確保できたが、ターミナル対応も多かった。施設への入所や、高齢による死亡などで、介護支援専門員一人当たりの担当者数が予定よりも減少した。比較的ほかの地域よりも要介護3、4、5の方は多いものの、介護度が高い方ほど体調を崩しやすく、入院や老健施設への入所が増え、ケアプラン作成件数が減少した結果となった。令和2年10月から予防プランも受けて、今後の利用者の確保に向けて、長期的な視野で臨んでいきたい。

また、質の高いケアを提供できるよう外部研修に参加し、自己研鑽に努めるとともに、市、包括等の多職種との連携を図りながら職員一人ひとりが危機感と責任感を持って職務を遂行していきたい。

34 児童館・児童センター事業(市受託事業)

【令和2年度事業費】 65,781千円

上田地区児童館・児童センター事業

【事業概要】

児童福祉法第40条に規定されている児童厚生施設として、上田市が設置した2児童館(朝日が丘・緑が丘)・6児童センター(川辺町・秋和・東塩田・大星・神科・神川)を平成9年度から上田市社会福祉協議会が指定管理者として管理運営している。

地域の子どもたちに安心して遊べる場を提供し、いろいろな遊びや活動を通して、健康で情操豊かな子どもを育てることを目的としている。

開館時間は、平日は午後1時から午後6時まで、土曜日や長期休み等小学校の休業日は午前9時から午後6時までである。

事業実績

(1) 上田地区児童館

保護者留守家庭の増加対策として、行ってきた小学校からの直接来館や小学校休業日に弁当持参での利用も定着してきており、児童の放課後の居場所として重要度も更に増している。

当地域の新型コロナウイルス感染者発生に伴い、児童館の感染拡大防止対策を行い、来館の利用方法についても利用者の理解と協力を得ながら児童が安全安心で楽しく集える居場所となるよう努めた。

ア 地区懇談会

コロナ禍のため、開催を見合わせた。

イ 研修会への参加

(ア) ファミリー・サポート・センター講習会(支援を必要としている子どもへの対応等)

(イ) 救急法講習会

ウ 利用者アンケート

令和2年12月から令和3年1月までの期間に、児童館・児童センターを利用している方へのアンケートを実施した。

エ その他

年間を通して、工作や手芸、ドッチボールや一輪車などの体育的活動を実施した。また、毎月児童館だよりを発行し小学校に配布した。

コロナ禍のため、従来の行事等を見合わせ、安全を第一に考えた。

利用状況

(1) 上田地区児童館

ア 朝日が丘児童館

(ア) 令和2年度利用状況

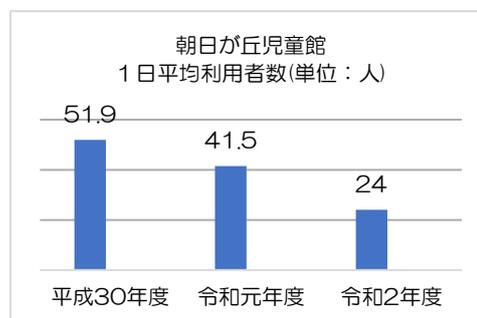
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用者数(人)	291	252	826	802	502	692	
開館日数(日)	25	23	26	25	22	24	
1日平均利用者(人)	11.6	11.0	31.8	32.1	22.8	28.8	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
利用者数(人)	751	651	650	425	418	632	6,892
開館日数(日)	27	23	24	20	22	26	287
1日平均利用者(人)	27.8	28.3	27.1	21.3	19.0	24.3	24.0

(イ) 推移

	利用者数(人)
平成30年度	14,855
令和元年度	11,777
令和2年度	6,892



	開館日数(日)
平成30年度	286
令和元年度	284
令和2年度	287



	1日平均利用者(人)
平成30年度	51.9
令和元年度	41.5
令和2年度	24.0

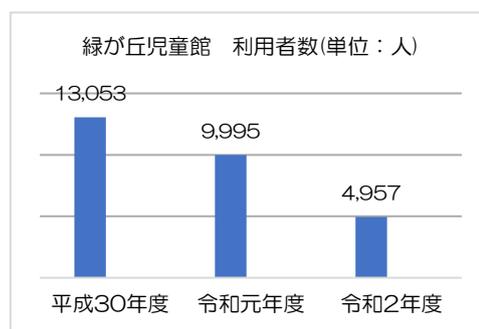
イ 緑が丘児童館

(ア) 令和2年度利用状況

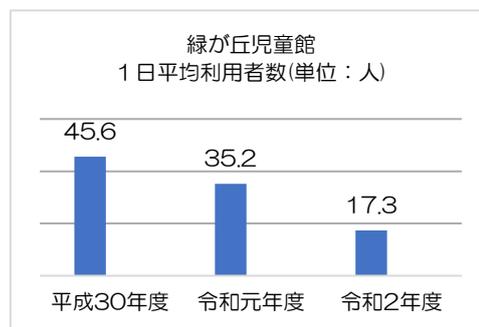
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用者数(人)	131	18	615	712	377	526	
開館日数(日)	25	23	26	25	22	24	
1日平均利用者(人)	5.2	0.8	23.7	28.5	17.1	21.9	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
利用者数(人)	578	448	444	300	391	417	4,957
開館日数(日)	27	23	24	20	22	26	287
1日平均利用者(人)	21.4	19.5	18.5	15.0	17.8	16.0	17.3

(イ) 推移

	利用者数(人)
平成30年度	13,053
令和元年度	9,995
令和2年度	4,957



	開館日数(日)
平成30年度	286
令和元年度	284
令和2年度	287



	1日平均利用者(人)
平成30年度	45.6
令和元年度	35.2
令和2年度	17.3

ウ 川辺町児童センター

(ア) 令和2年度利用状況

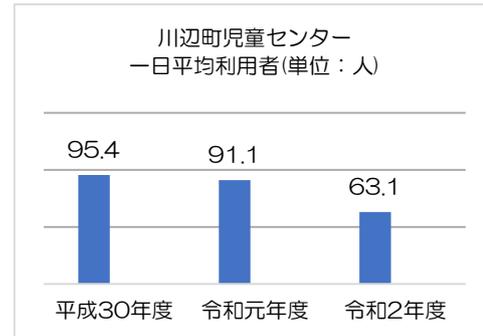
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用者数(人)	1,108	903	1,977	1,827	1,297	1,612	
開館日数(日)	25	23	26	25	22	24	
1日平均利用者(人)	44.3	39.3	76.0	73.1	59.0	67.2	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
利用者数(人)	1,636	1,522	1,599	1,307	1,515	1,809	18,112
開館日数(日)	27	23	24	20	22	26	287
1日平均利用者(人)	60.6	66.2	66.6	65.4	68.9	69.6	63.1

(イ) 推移

	利用者数(人)
平成30年度	27,277
令和元年度	25,874
令和2年度	18,112



	開館日数(日)
平成30年度	286
令和元年度	284
令和2年度	287



	1日平均利用者(人)
平成30年度	95.4
令和元年度	91.1
令和2年度	63.1

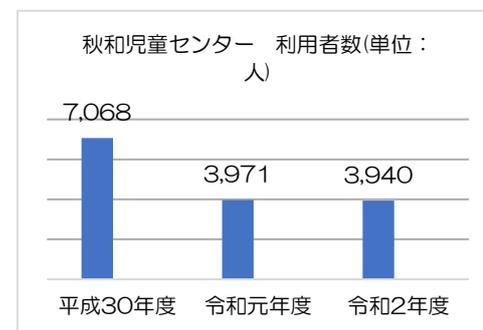
エ 秋和児童センター

(ア) 令和2年度利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用者数(人)	107	88	195	158	207	306	
開館日数(日)	25	23	26	25	22	24	
1日平均利用者(人)	4.3	3.8	7.5	6.3	9.4	12.8	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
利用者数(人)	522	323	508	333	420	773	3,940
開館日数(日)	27	23	24	20	22	26	287
1日平均利用者(人)	19.3	14.0	21.2	16.7	19.1	29.7	13.7

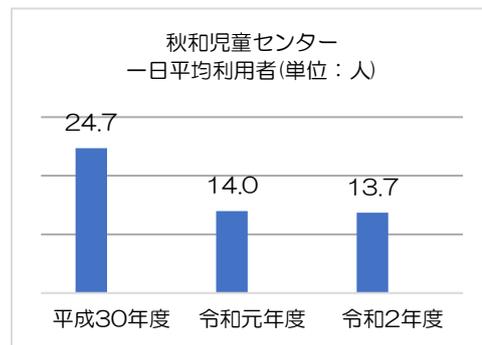
(イ) 推移

	利用者数(人)
平成30年度	7,068
令和元年度	3,971
令和2年度	3,940



	開館日数(日)
平成30年度	286
令和元年度	284
令和2年度	287

	1日平均利用者(人)
平成30年度	24.7
令和元年度	14.0
令和2年度	13.7



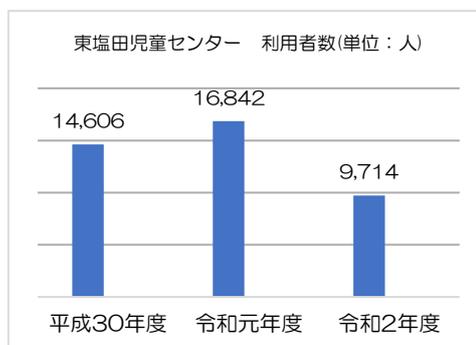
オ 東塩田児童センター

(ア) 令和2年度利用状況

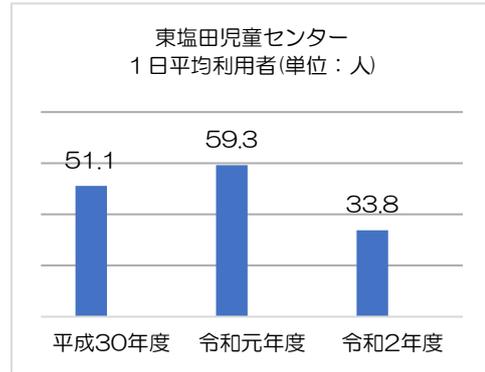
	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
利用者数(人)	487	482	943	1,024	749	1,022		
開館日数(日)	25	23	26	25	22	24		
1日平均利用者(人)	19.5	21.0	36.3	41.0	34.0	42.6		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	
利用者数(人)	1,052	849	884	651	791	780	9,714	
開館日数(日)	27	23	24	20	22	26	287	
1日平均利用者(人)	39.0	36.9	36.8	32.6	36.0	30.0	33.8	

(イ) 推移

	利用者数(人)
平成30年度	14,606
令和元年度	16,842
令和2年度	9,714



	開館日数(日)
平成30年度	286
令和元年度	284
令和2年度	287



	1日平均利用者(人)
平成30年度	51.1
令和元年度	59.3
令和2年度	33.8

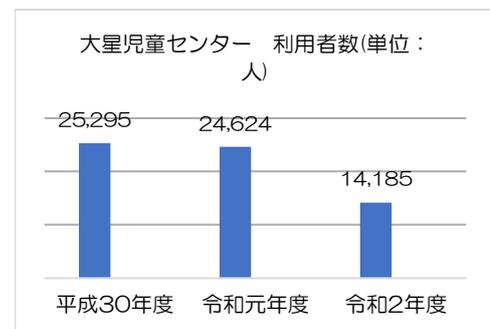
カ 大星児童センター

(ア) 令和2年度利用状況

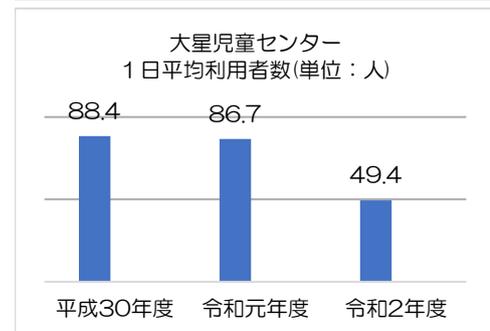
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用者数(人)	728	650	1,331	1,374	1,115	1,307	
開館日数(日)	25	23	26	25	22	24	
1日平均利用者(人)	29.1	28.3	51.2	55.0	50.7	54.5	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
利用者数(人)	1,489	1,385	1,349	989	1,170	1,298	14,185
開館日数(日)	27	23	24	20	22	26	287
1日平均利用者(人)	55.1	60.2	56.2	49.5	53.2	49.9	49.4

(イ) 推移

	利用者数(人)
平成30年度	25,295
令和元年度	24,624
令和2年度	14,185



	開館日数(日)
平成30年度	286
令和元年度	284
令和2年度	287



	1日平均利用者(人)
平成30年度	88.4
令和元年度	86.7
令和2年度	49.4

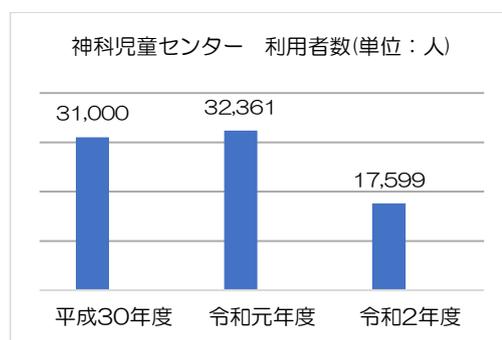
キ 神科児童センター

(ア) 令和2年度利用状況

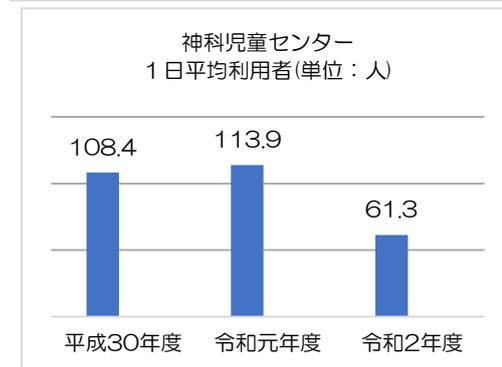
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用者数(人)	547	522	1,957	1,950	1,337	1,736	
開館日数(日)	25	23	26	25	22	24	
1日平均利用者(人)	21.9	22.7	75.3	78.0	60.8	72.3	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
利用者数(人)	1,886	1,605	1,667	1,190	1,490	1,712	17,599
開館日数(日)	27	23	24	20	22	26	287
1日平均利用者(人)	69.9	69.8	69.5	59.5	67.7	65.8	61.3

(イ) 推移

	利用者数(人)
平成30年度	31,000
令和元年度	32,361
令和2年度	17,599



	開館日数(日)
平成30年度	286
令和元年度	284
令和2年度	287



	1日平均利用者(人)
平成30年度	108.4
令和元年度	113.9
令和2年度	61.3

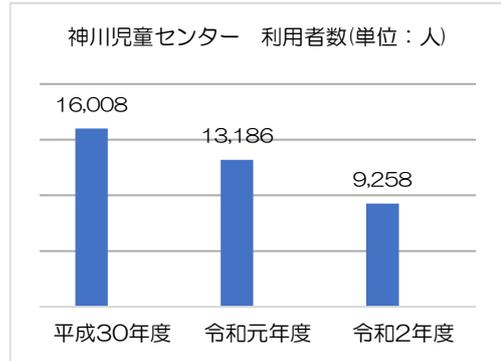
ク 神川児童センター

(ア) 令和2年度利用状況

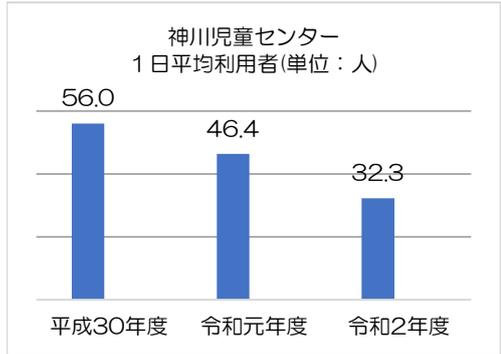
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用者数(人)	330	305	1,003	1,067	714	895	
開館日数(日)	25	23	26	25	22	24	
1日平均利用者(人)	13.2	13.3	38.6	42.7	32.5	37.3	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
利用者数(人)	963	898	883	679	738	783	9,258
開館日数(日)	27	23	24	20	22	26	287
1日平均利用者(人)	35.7	39.0	36.8	34.0	33.5	30.1	32.3

(イ) 推移

	利用者数(人)
平成30年度	16,008
令和元年度	13,186
令和2年度	9,258



	開館日数(日)
平成30年度	286
令和元年度	284
令和2年度	287



	1日平均利用者(人)
平成30年度	56.0
令和元年度	46.4
令和2年度	32.3

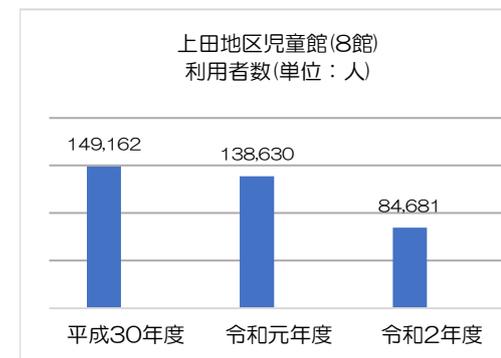
ケ 上田地区児童館(8館)

(ア) 令和2年度利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用者数(人)	3,729	3,220	8,845	8,914	6,298	8,096	
開館日数(日)	200	184	208	200	176	192	
1日平均利用者(人)	18.6	17.5	42.5	44.6	35.8	42.2	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
利用者数(人)	8,877	7,681	8,010	5,874	6,933	8,204	84,681
開館日数(日)	216	184	192	160	176	208	2,296
1日平均利用者(人)	41.1	41.7	41.7	36.7	39.4	39.4	36.9

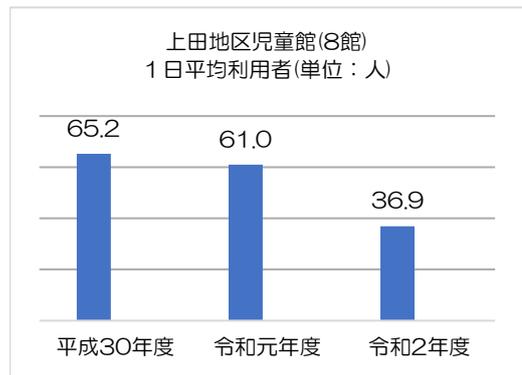
(イ) 推移

	利用者数(人)
平成30年度	149,162
令和元年度	138,630
令和2年度	84,681



	開館日数(日)
平成30年度	286
令和元年度	284
令和2年度	287

	1日平均利用者(人)
平成30年度	65.2
令和元年度	61.0
令和2年度	36.9



評価・課題

新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、低学年を優先した来館や、自由来館時の事前連絡等、利用者の理解と協力をいただき、令和元年度より来館者数は減ったが3密を避け安全を確保するためには適切であった。

また、感染予防策（手洗い、手指消毒、検温、マスク着用換気、館内消毒）を行いながら、遊びの種類、時間、場所等に配慮をした。

大人数の行事開催はできなかったが、毎月の工作や玄関の壁面づくり、一輪車となわとびの検定等定期的に行うことで、楽しんでいる児童が多くみられた。施設内外の安全点検を毎月実施し、危険箇所の早期対応に努め、避難訓練の実施や救急法の講習会に参加し、安全管理に努めた。コミュニケーションが苦手、落ち着きがない、こだわりがある等の特徴がある児童について職員同士の共通理解を図り、個々に合った分かりやすい支援に心がけた。

また、保護者や小学校、専門機関と連携を取りながら対応した。利用者アンケートを実施し、多くの貴重な意見をいただいた、今後も、利用者にとって信頼される児童館となるよう毎年現状を見直し、職員の資質向上に努め、児童や保護者の安心安全につなげていきたい。

下丸子児童館事業

【事業概要】

- 開館時間：平日(5月～10月 午後3時30分～午後5時30分、11月～4月 午後3時～午後5時)
- 長期休み：午後1時～午後5時（夏休みは午後1時～午後5時30分）

利用状況						
ア 令和2年度利用状況						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者数(人)	9	0	52	34	22	8
開館日数(日)	6	0	22	21	17	17
1日平均利用者(人)	1.5	0.0	2.4	1.6	1.3	0.5

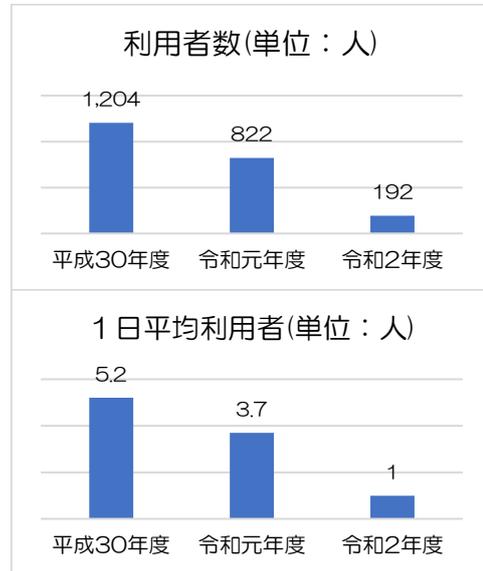
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
利用者数(人)	1	12	11	12	7	24	192
開館日数(日)	22	19	20	16	18	23	201
1日平均利用者(人)	0.0	0.6	0.6	0.8	0.4	1.0	1.0

イ 推移

	利用者数(人)
平成30年度	1,204
令和元年度	822
令和2年度	192

	開館日数(日)
平成30年度	286
令和元年度	225
令和2年度	201

	1日平均利用者(人)
平成30年度	5.2
令和元年度	3.7
令和2年度	1.0



35 その他の事業

団体事務局

(1) 上田地区センター

ア 上田市高齢者クラブ連合会

上田市高齢者クラブ連合会は4地域(上田、丸子、真田、武石)の活動の交流や長野県シニアクラブ連合会の事業への参加等を行っている。

(ア) 高齢者クラブ数 97 単位クラブ 会員 4,948 人

(イ) 長野県老人クラブ連合会等主催行事への参加

- ・ 第60回長野県老人クラブ大会 10月21日(水) 12人参加
川辺町楽生会が活動賞を授与される。

- ・ 東信地区ブロック研修会 11月5日(木) 15人参加
上田地域福寿クラブ連合会活動報告する。

- ・ 東信地区 女性指導者研修会 11月20日(金) 20人参加

(ウ) 大会、講習会等の合同開催について

- ・ 第38回 三世代ファミリースポーツ大会(ゲートボール) 8月2日(日)
4チーム参加

- ・ 第13回マレットゴルフ大会 10月14日(水) 91人参加

- ・ 男性料理教室 11月下旬から12月上旬 中止

- ・ シルバースポーツ教室 令和3年1月下旬から2月上旬

(エ) 正副会長会、理事会の開催

- ・ 会計監査 6月23日(火)
- ・ 正副会長会議 6月30日(火)
議事 役員改選(地域役員改選に伴う) 事業報告等
竹倉氏が会長に推薦される。理事書面決議により承認される。
合わせて事業報告、会計決算、事業計画、予算が書面決議により、承認される。
- ・ 上田市長、上田市社会福祉協議会長へ表敬訪問 令和3年1月5日(火)
- ・ 正副会長事務局会議 令和3年1月5日(火)
議事 事業報告、事業計画、会則の変更、新役員について

イ 上田地域福寿クラブ連合会

上田地域福寿クラブ連合会の活動は、健康長寿、フレイル予防、引きこもり防止のため各種シルバースポーツの推進、生きがいと健康づくりの推進の維持、継続を行う。

(ア) 高齢者クラブ数 40 単位クラブ 会員 2,261 人

(イ) 正副会長関係 ※コロナ禍のため中止、延期は右に表示

- ・ 令和元年度会計監査 4月2日(木)
- ・ 総務教養・女性部会議 4月9日(木) 中止
- ・ 社会福祉・保健部会議 4月10日(金) 中止
- ・ 理事会・代議員会 4月14日(火) 中止
- ・ 表彰審査委員会(福寿クラブ会長表彰) 5月8日(金) 延期
- ・ 第36回福寿クラブ連合会定期大会 6月5日(金) 中止
- ・ 福寿クラブ指導者(単位クラブ会長)研修会 6月27日(土) 中止
- ・ 表彰審査委員会(福寿クラブ会長表彰) 7月2日(木)
- ・ 理事会 8月21日(金) 中止
- ・ 人権を考える市民のつどい 10月9日(金) 中止
- ・ 第60回長野県老人クラブ大会 10月21日(水) 参加12人
- ・ 県老連東信地区ブロック研修会 11月5日(木) 参加15人
- ・ 他県老連交流会 11月10日(火)、11日(水) 中止
- ・ 県老連東信地区女性指導者研修会 11月20日(金) 参加20人
- ・ 人権啓発担当者研修会 11月21日(土) 中止
- ・ 正副会長会 1月19日(火)
- ・ 理事会 2月16日(火)
- ・ 通年事業：金婚祝賀事業(昭和45年結婚夫婦) 18組
お茶のみサロン設置事業 24クラブ
- ・ 新規加入会員 75人

(ウ) 総務教養部関係

- ・ 総務教養部会 4月9日(木) 中止
- ・ 高齢者学園入学式 4月23日(木) 中止
- ・ 第36回福寿クラブ連合会定期大会 6月7日(日) 中止
- ・ 編集委員会 9月1日(火)、9月14日(月)、9月17日(木)
- ・ 第82号「うえだ福寿だより」発行 10月1日(木)
- ・ 人権を考える市民のつどい 10月9日(金) 中止
- ・ 第60回長野県老人クラブ大会 10月21日(水) 参加12人
- ・ 他県老連交流会 11月10日(火)、11日(水) 中止
- ・ 人権啓発担当者研修会 11月21日(土) 中止
- ・ 編集委員会 1月25日(月)、2月2日(火)、2月8日(月)、2月15日(月)
- ・ 第83号「うえだ福寿だより」発行 3月1日(月)
- ・ 高齢者学園卒業式 3月9日(火) 中止

(エ) 保健部関係

- ・ 保健部会 4月10日(金) 中止
- ・ 第28回シルバースポーツ大会中央決勝大会スマイルボウリング 6月14日(日)

中止

- ・第3回福寿連グラウンド・ゴルフ大会 7月1日(水) 延期
- ・第38回ファミリーゲートボール大会 8月2日(日) 参加4チーム
- ・第28回福寿連ゲートボール大会 9月2日(水) 参加4チーム
- ・第22回福寿連マレットゴルフ大会 10月6日(火) 参加75人
- ・第13回市高齢者クラブ マレットゴルフ大会 10月14日(水) 参加91人
- ・男性料理教室事前打合せ 教室は中止としカレンダー配布する 10月19日(月)
- ・第3回福寿連グラウンド・ゴルフ大会 11月17日(火) 参加48人
- ・シルバースポーツ教室 1月26日(火)～2月5日(金) 中止
- ・ファミリースマイルボウリング大会 3月26日(金) 参加105人
- ・通年事業：パソコン教室 前期4月開講 受講者28人
後期10月開講 受講者30人

(オ) 社会福祉部関係

- ・社会福祉部会 4月10日(金) 中止
- ・寝たきり老人調査依頼 6月中旬
- ・前期ふれあい献金事業開始 9月～
- ・寝たきり会員訪問活動(紙おむつ配布) 9月8日(火)、9日(水) 52人
- ・第41回うえだ市民ふれあい広場 10月3日(土) 中止
- ・後期ふれあい献金事業開始 2月～ 献金額 451,655円

(カ) 女性部関係

- ・女性部会 4月9日(木) 中止
- ・女性部会(ふれあい広場準備会) 9月26日(土) 中止
- ・第41回うえだ市民ふれあい広場 10月3日(土) 中止
- ・赤い羽根共同募金運動参加 10月15日(木) 参加7人
- ・男性料理教室事前打合せ 10月19日(月) 教室は中止としカレンダー配布する。
- ・県老連東信地区女性指導者研修会 11月20日(金) 参加20人

(キ) 女性部 理事関係

- ・理事会 4月16日(木) 中止
- ・第36回福寿クラブ連合会定期大会 6月7日(日) 中止
- ・理事会 8月21日(金) 中止
- ・第60回長野県老人クラブ大会 10月21日(水) 参加12人
- ・他県老連交流会 11月10日(火)、11日(水) 中止
- ・県老連東信地区女性指導者研修会 11月20日(金) 参加20人
- ・理事会 2月16日(火)

ウ 上田市遺族会

- (ア) 役員総会 6月23日(火)
- (イ) 全国戦没者追悼式 8月15日(土)
- (ウ) 長野県護国神社参拝 10月7日(水)
- (エ) 令和2年度長野県戦没者追悼式 10月31日(土)
- (オ) 長野県戦没者遺族代表者会議 10月31日(土)
- (カ) 令和2年度上田市戦没者追悼式 11月10日(火)

(2) 丸子地区センター

ア 丸子地域高齢者クラブ連合会

- (ア) 高齢者クラブ数 32 単位クラブ 会員1,245人
- (イ) 会議、行事等
 - ・理事会、会計監査 4月10日(金)
 - ・理事会 6月11日(木)
 - ・上田市高連マレットゴルフ大会 10月19日(月)
 - ・第60回長野県老人クラブ大会 10月21日(水)

- ・ 県老連市町村ブロック研修会 11月5日(木)
- ・ 県老連東信地区女性指導者研修会 11月20日(金)
- ・ 丸子高連女性部手芸講習会 11月30日(月)
- ・ 冬季スポーツ交流会4回開催
12月8日、1月18日(中止)、2月18日、3月16日
- ・ 丸子高連理事会 3月9日(火)
- ・ まるこ高連だより 年3回発行(7月・11月・3月)

※ コロナ感染拡大防止による中止事業

- ・ 丸子地域高齢者クラブ連合会総会
- ・ いきいきフェスティバル(シルバー作品展)
- ・ 丸子地域シルバースポーツ大会
- ・ 視察研修会

イ 上田市丸子地区赤十字奉仕団

(ア) 炊き出し訓練

- 丸子第1・第2地区対象の炊き出し訓練 8月29日(土) 中止
- まるこ福祉会防災訓練に参加 1月15日(金) 4名参加

(イ) 視察研修

- 日本赤十字社長野県支部 9月17日(木) 中止

(ウ) にこにこ赤十字健康教室 10月21日(水) 中止

(エ) 共同募金街頭募金に参加 11月6日(金) 2名参加

(オ) 救急法講習会 2月17日(水) 中止

(3) 真田地区センター

ア 真田地域長寿会

(ア) 高齢者クラブ数 14単位クラブ 会員950人

(イ) 会議、行事等

- ・ 第61回 総代会 4月27日(月) →中止、書面議決
- ・ 東信地区市町村老人クラブブロック研修会 6月16日(火) →11月5日に延期
- ・ 真田地域マレットゴルフ大会 6月18日(木) →7月21日に延期
- ・ 真田地域マレットゴルフ大会 7月16日(木) →9月15日に延期
- ・ 老人クラブ女性指導者研修会 7月16日(木) →11月20日に延期
- ・ 金婚祝いお届け 9月11日(金)
- ・ 第43回体育祭 10月9日(金) →令和3年1月29日代替事業実施
- ・ 第33回ふれあい広場 in さなだに参画 9月12日(土) 中止
- ・ さわやかゲートボール大会 10月6日(火)
- ・ にこにこ健康教室 10月14日(水) →11月25日代替事業実施
- ・ 第61回長野県老人クラブ連合会大会(塩尻市) 10月21日(水)
- ・ 視察研修旅行 長野市方面 11月10日(火) 中止
- ・ 第11回高齢者の健康を考えるつどい 2月26日(金) 中止
- ・ 他役員会、理事、監事、地域長寿会、女性部長会 4回開催
- ・ 伝承広場の開催 →中止

イ 真田町身体障害者福祉協会事務局

(ア) 総会 6月26日(金) 書面議決

(イ) 視察研修(新潟県方面) 9月11日(金)、12日(土) 中止

(ウ) 臨時総会 2月25日(木)

(エ) 真田町身体障害者福祉協会解散 3月31日(水)

(4) 武石地区センター

ア 武石高齢者クラブ

(ア) 地区高齢者クラブ数 11単位クラブ 会員492人

- (イ) 会議、行事等
 - ・老人センター寿楽荘庭手入れ 6月・9月 45人
 - ・女性部指導者研修会 11月20日(金) 5人
 - ・マレットゴルフ大会 5月・8月 中止
 - ・県大会 10月21日(水) 1人
 - ・保育園児との交流 6月19日(金)、11月10日(火) 中止
 - ・上田市マレットゴルフ大会 10月14日(水) 12人
 - ・ニュースポーツ大会 6月 中止
 - ・研修会 11月 中止
 - ・高齢者福祉施設の洗濯物たたみ(女性部)
- イ 一人暮らし老人もみじ会
 - (ア) 春の研修会 中止
 - (イ) 秋の研修会 中止
 - (ウ) 総会 3月27日(土)
- ウ 武石身体障害者福祉協会
 - (ア) 第46回上小地区障がい者スポーツ大会 中止
 - (イ) 第20回長野県障がい者スポーツ大会 中止
 - (ウ) 視察研修 中止
 - (エ) 総会 3月12日(金)
- エ 武石遺族会
 - (ア) 役員会 6月11日(木)
 - (イ) 武石地区靖国霊社祭 11月17日(火)

実行委員会事務局

- (1) 上田地区センター
 - ア 上田市民ふれあい広場実行委員会

コロナ禍のため、上田市民ふれあい広場が中止となったため、実行委員会は開催しなかった。
- (2) 丸子地区センター
 - ア いきいきフェスティバル実行委員会

コロナ禍のため、交流事業は中止し、慶祝事業の記念写真撮影を実施した。

 - ・9月17日(木) 丸子文化会館
 - ・記念写真(米寿:15人、金婚式:7組)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で例年のような祭典方式は取らずに、慶祝記念写真撮影のみとして縮小開催となる。長寿記念写真も完全予約制の形をとり、感染症拡大予防に努めながら開催できた。しかし、記念写真撮影者は年々減少傾向であり、今後は開催の周知方法も検討課題である。